

パラスポーツの歴史と現状

2022年版『パラスポーツの歴史と現状』の発刊について

わが国におけるパラスポーツの歴史と、移り変わる現状を記録することを目的とした本冊子『歴史と現状』は毎年発刊を重ねている。

2021年は未曾有の新型コロナウイルス感染症拡大のために延期となった、東京2020パラリンピック競技大会が開催を果たした。学校観戦など一部例外を除き無観客での開催となる異例の状況ではあったが、日本国内では過去最大規模の競技中継、ニュース報道などを通じ、広く国民にパラリンピックの存在を知らしめる契機となった。

当協会は、東京2020大会後のレガシーとして、今後、国民の障がい者スポーツへの理解や関心、認知度をさらに高めることや、障がい当事者のスポーツへの触れあいを増やし競技への参加意欲を高めることを目的に、2021年10月1日、一般名称として広く社会に認知されてきた「パラスポーツ」の名称を取り入れた、公益財団法人日本パラスポーツ協会に、協会名称を変更した。

また、2021年3月にはJPSA「2030年ビジョン」を公表した。これは2013年3月に公表した「障がい者スポーツの将来像(ビジョン)」において、2020年到達目標の区切りの年にあたったこともあり、2030年に向けて「活力ある共生社会の実現」というビジョンの達成を引き続き目指す観点から、理念(あるべき姿)・ビジョン(実現したい将来像)・ミッション(果たすべき使命)を再整理し、具体的な目標・主要政策・アクションプランについて見直したうえで、新たに取りまとめ公表することとしたものである。

パラリンピックの開催をはじめとし、各競技の大会や研修会などのパラスポーツイベントが、集合形式とWebでの配信を組み合わせたハイブリッド方式を利用するなど工夫し、徐々に再開されつつある。

残念ながら全国障害者スポーツ大会は今年も中止となり、三年連続での開催がなくなった。しかしながら参加予定であった選手が、日ごろの練習の成果等を発揮する機会を創出するために、開催予定地であった三重県下において規模を縮小した代替大会が開催されている。

新たな変異株が発生し、新型コロナウイルス感染症の見通しはいまだ誰にもわからないが、東京2020パラリンピック競技大会をはじめとしたパラスポーツのレガシーを引き継ぐべく、最新の『歴史と現状』を今年も上梓できることを、全てのパラスポーツに寄与する皆様に感謝いたします。

目 次

contents

| | |
|-----------------------------|----|
| 第1章 わが国のパラスポーツの歴史と現状 | 3 |
| 1. パラスポーツ関係施設・団体の設立 | 4 |
| (1) 公益財団法人日本パラスポーツ協会 | 4 |
| (2) 障がい者スポーツセンター | 5 |
| (3) 都道府県・指定都市障がい者スポーツ協会 | 5 |
| (4) 障がい者スポーツ競技団体 | 5 |
| (5) 障がい者スポーツ指導者協議会 | 5 |
| 2. スポーツ大会の開催 | 10 |
| (1) 都道府県・指定都市身体障がい者スポーツ大会 | 10 |
| (2) 国際身体障害者スポーツ大会 | 10 |
| (3) 全国身体障害者スポーツ大会 | 11 |
| (4) 全国知的障害者スポーツ大会 | 14 |
| (5) 全国障害者スポーツ大会 | 14 |
| (6) ジャパンパラ競技大会 | 19 |
| (7) 日本車いすバスケットボール選手権大会 | 24 |
| (8) 日本女子車いすバスケットボール選手権大会 | 27 |
| (9) 日本車いすツインバスケットボール選手権大会 | 29 |
| (10) 全国車いす駅伝競走大会 | 30 |
| (11) 大分国際車いすマラソン大会 | 31 |
| (12) 全国ろうあ者体育大会 | 33 |
| 3. 養成研修事業 | 38 |
| 第2章 パラリンピックのあゆみ | 39 |
| 参考資料 | 47 |

第 1 章

わが国のパラスポーツの歴史と現状

1. 障がい者スポーツ関係施設・団体の設立

(1) 公益財団法人日本パラスポーツ協会

公益財団法人日本パラスポーツ協会は、昭和39年に開催されたパラリンピック東京大会を契機に、わが国の身体障がい者スポーツの普及・振興を図る統括組織として、「財団法人日本身体障害者スポーツ協会」の名称で昭和40年に厚生省(現 厚生労働省)の認可を受けて設立された。

平成10年に長野県で開催された冬季パラリンピックを契機に、三障がいすべてのスポーツ振興を統括する組織として、また国際舞台で活躍できる選手の育成・強化を担う統括組織としての位置づけの必要性が有識者会議で提言された。そこで平成11年、当協会の寄附行為(現 定款)を改正し、財団法人日本障害者スポーツ協会に組織名を改称するとともに、協会内部に日本パラリンピック委員会を設置した。

その後、平成14年に閣議決定された新たな障害者基本計画において、パラスポーツの振興については当協会を中心に進める旨が記された。さらに平成23年8月、スポーツ振興法が50年ぶりに全面改正され新たにスポーツ基本法が公布。新法では、障がい者のスポーツ振興についてはじめて言及され、国の責務とともに当協会の立場が明確になった。

平成26年度より、全国障害者スポーツ大会などのスポーツ振興の観点強いパラスポーツ事業が厚生労働省から文部科学省に移管され、当協会の所管も文部科学省に移管された。

平成27年5月24日に創立50周年を迎え、従来のシンボルマークに加え、新たにコミュニケーションマークを創設した。

令和3年10月1日、東京2020大会後のレガシーとして、今後、国民のパラスポーツへの理解や関心、認知度をさらに高めることや、障がい当事者のスポーツへの触れ合いを増やし競技への参加意欲を高めることを目的に、一般名称として広く社会に認知されてきた「パラスポーツ」の名称を取り入れた、公益財団法人日本パラスポーツ協会に、協会名称を変更した。

<協会の事業>

- ①全国障害者スポーツ大会をはじめ各種パラスポーツ競技大会及びパラスポーツイベントの開催及び奨励に関すること
- ②パラスポーツの指導者の育成に関すること
- ③パラスポーツ団体及び関連団体との連携・協働、支援に関すること
- ④パラスポーツに関する相談、指導及び普及啓発に関すること
- ⑤国際パラリンピック委員会等及び国際的な障がい別競技団体の事業への参画、国際協力に関すること
- ⑥国際パラスポーツ大会への選手、役員等の派遣及び成績優秀者の表彰等に関すること
- ⑦パラスポーツ選手の競技力の向上等に関すること
- ⑧パラリンピックムーブメントの推進に関すること
- ⑨パラスポーツ関連の調査研究に関すること
- ⑩パラスポーツ教育に関すること
- ⑪パラスポーツの広報に関すること
- ⑫事業に必要な組織体制の強化及び財政基盤の充実・安定化に関すること
- ⑬その他この法人の目的達成に必要な事業

<特記事項>

- 平成12(2000)年6月27日■
 - ・財団法人日本体育協会へ加盟
- 平成14(2002)年■
 - ・日本アンチ・ドーピング機構(JADA)に加盟
- 平成14(2002)年12月24日■
 - ・障害者スポーツの振興について、(財)日本障害者スポーツ協会を中心として進めることが新障害者基本計画で明文化された(分野別施策の基本的方向2生活支援 (2)施策の基本的方向 ⑤スポーツ、文化芸術活動の振興)
- 平成15(2003)年4月7日■
 - ・(財)日本オリンピック委員会、(財)日本体育協会、(財)日本障害者スポーツ協会の三者により、競技者と競技団体間の紛争を仲裁する日本スポーツ仲裁機構(JSAA)を設立
- 平成15(2003)年10月28日■
 - ・法人税法及び所得税法において「特定公益増進法人」として厚生労働大臣認可を受ける
- 平成23(2011)年12月1日■
 - ・内閣府認定のもと「公益財団法人」として設立登記
- 平成24(2012)年6月26日■
 - ・日本パラリンピック委員会運営委員会委員、副委員長の定数変更
- 平成26(2014)年8月6日■
 - ・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会に名称変更
- 平成27(2015)年5月24日■
 - ・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会創立50周年

<寄附行為の改正内容(厚生労働大臣承認日)>

- | | |
|---|--|
| ■昭和44(1969)年10月18日■ <ul style="list-style-type: none">・法人の事務所変更 | ■平成17(2005)年4月1日■ <ul style="list-style-type: none">・東京都多摩障害者スポーツセンター並びに東京都障害者総合スポーツセンターの受託運営を、社団法人東京都障害者スポーツ協会へ移管 |
| ■昭和56(1981)年10月12日■ <ul style="list-style-type: none">・常務理事の定数変更(2名→3名、国際担当常務理事の設置) | ■平成23年6月24日■ <ul style="list-style-type: none">・代表理事の変更(鳥原光憲氏就任) |
| ■昭和59(1984)年8月2日■ <ul style="list-style-type: none">・東京都多摩障害者スポーツセンター受託運営 | <定款の改正内容> |
| ■昭和61(1986)年11月25日■ <ul style="list-style-type: none">・東京都障害者総合スポーツセンター受託運営 | ■平成23年12月1日■ <ul style="list-style-type: none">・財団法人から公益財団法人へと移行 |
| ■平成2(1990)年11月22日■ <ul style="list-style-type: none">・最高顧問制度創設(日本体育協会会長を最高顧問とする) | ■平成24年6月26日■ <ul style="list-style-type: none">・日本パラリンピック委員会、副委員長(2名→3名)、委員の定数変更 |
| ■平成7(1995)年5月15日■ <ul style="list-style-type: none">・名誉会長制度創設 | ■平成26年8月6日■ <ul style="list-style-type: none">・協会名称の変更(日本障がい者スポーツ協会)・日本パラリンピック委員会、会長の設置 |
| ■平成11(1999)年8月20日■ <ul style="list-style-type: none">・財団法人日本障害者スポーツ協会に名称変更・日本パラリンピック委員会(JPC)を設置・三つの協議会(スポーツ協会協議会、競技団体協議会、スポーツ指導者協議会)を設置 | ■平成29年6月16日■ <ul style="list-style-type: none">・理事定数の増加・日本パラリンピック委員会、副委員長(3名→4名) |
| ■平成12(2000)年5月31日■ <ul style="list-style-type: none">・日本パラリンピック委員会運営委員会委員の定数変更 | ■令和3年10月1日■ <ul style="list-style-type: none">・協会名称の変更(日本パラスポーツ協会) <p>※2030ビジョンの策定に伴い、障がい者スポーツをパラスポーツとした</p> |

(2)障がい者スポーツセンター

昭和40年頃のわが国の公共スポーツ施設の多くは、障がいのある人々が利用することを想定して作られていなかった。さらに、貸館的な施設運営をしていることが多く、障がいのある人々が、一人で気軽に利用できない状況にあった。

このような中、昭和49(1974)年5月、在宅の身体障がい者を対象としたスポーツセンター(現 大阪市長居障がい者スポーツセンター)が大阪市に開設された。同センターでは、個人利用に重点を置いた運営を行い、障がいのある人々の生涯スポーツの実践に大きな成果を挙げた。その後、昭和55(1980)年より段階的に同様の施設が全国で開館した(令和3年3月現在26か所)。

なお、各施設における運営上の諸問題等に関する意見交換や交流の場として、昭和59(1984)年に「身体障害者スポーツセンター協議会(現 障がい者スポーツセンター連絡協議会)」が発足した。また令和3年(2021)年には、公益財団法人日本パラスポーツ協会の定款改正に伴い「障がい者スポーツセンター協議会」として協会組織に位置づけられた。

(3)都道府県・指定都市障がい者スポーツ協会

昭和48(1973)年、厚生省社会局更生課長通知「身体障害者スポーツの振興等について」などにより、身体障がい者スポーツ協会などの設立に向けて動きだした。これにより、各都道府県・指定都市単位のパラスポーツ振興が促進されるようになった。

各県におけるスポーツの振興や交流の場として、平成2(1990)年に「身体障害者スポーツ協会連絡協議会」が発足した。また平成11(1999)年には、財団法人日本身体障害者スポーツ協会の寄附行為改正に伴い「障害者スポーツ

協会協議会」として協会組織に位置づけられた。

(4)障がい者スポーツ競技団体

わが国でいち早く設立された競技団体は、昭和38(1963)年の日本ろうあ体育協会(現 一般社団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会)であった。

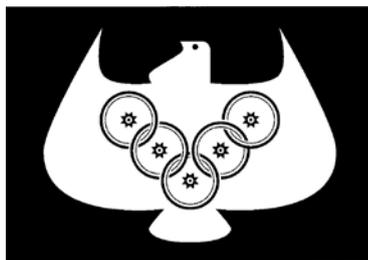
その後、1970年代に入ると、身体障がい者スキー、車いすバスケットボール、アーチェリーの各組織が設立された。また、1980年代に入ると、卓球、水泳等7団体が設立された。さらに、1990年代に入ると、障がい者優先利用スポーツ施設の増加と相まって競技団体が増加していった。

なお、競技団体間の情報交換の場として、平成元(1989)年に「種目別競技団体協議会」が発足した。また平成11(1999)年には、財団法人日本身体障害者スポーツ協会の寄附行為改正に伴い「障害者スポーツ競技団体協議会」として協会組織に位置づけられた。

(5)障がい者スポーツ指導者協議会

昭和60(1985)年に「財団法人日本身体障害者スポーツ協会公認身体障害者スポーツ指導者制度」制定後、各都道府県・指定都市の指導者によって都道府県・指定都市単位の指導者協議会が発足されるようになった。これにより、県内における指導者間の情報交換や指導活動が促進されるようになった。その後、平成6(1994)年に全国8ブロックからなる協議会が発足し、その代表者(ブロック長)による連絡・調整組織として、翌平成7(1995)年に「身体障害者スポーツ指導者代表者会議」が発足した。また、この組織は平成11(1999)年の財団法人日本身体障害者スポーツ協会の寄附行為改正に伴い「障害者スポーツ指導者協議会」として協会組織に位置づけられた。

JPSA シンボルマーク



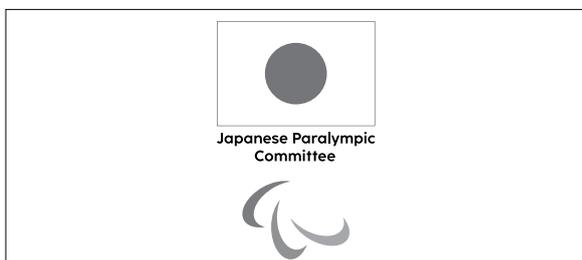
シンボルマークは、パラリンピック東京大会の時に制定されたもので、五つの輪は、車いすと世界の人々をつなぐ輪(和)、中心の星は希望、その配列はV字(ピクトリー)で人生を克服する勝利、白鳩は愛を表している。

JPSA コミュニケーションマーク



コミュニケーションマークは火の鳥の羽をモチーフにしており、マークの赤は未来へ飛翔するアスリートたちの心の中に燃える炎をイメージしてデザインしている。日本の障がい者スポーツの10年後、20年後、そしてその先の未来を見据えてシンボルマークに加えて新たな想いを形にした。

JPC 第1エンブレム



JPC 第2エンブレム



障がい者スポーツセンター協議会

令和3年3月現在

| No | 開館年 | 名称 |
|----|------|---------------------------------|
| 1 | 1974 | 大阪市長居障がい者スポーツセンター |
| 2 | 1978 | 下関市障害者スポーツセンター |
| 3 | 1981 | 名古屋市障害者スポーツセンター |
| 4 | 1983 | 広島市心身障害者福祉センター |
| 5 | 1984 | 福岡市立障がい者スポーツセンター (さん・さんプラザ) |
| 6 | 1984 | 東京都多摩障害者スポーツセンター |
| 7 | 1985 | 西宮市総合福祉センター |
| 8 | 1986 | 東京都障害者総合スポーツセンター |
| 9 | 1986 | かがわ総合リハビリテーション福祉センター |
| 10 | 1986 | 大阪府立障がい者交流促進センター (ファインプラザ大阪) |
| 11 | 1988 | 京都市障害者スポーツセンター |
| 12 | 1990 | 埼玉県障害者交流センター |
| 13 | 1990 | 滋賀県立障害者福祉センター |

| No | 開館年 | 名称 |
|----|------|--|
| 14 | 1991 | 群馬県立ふれあいスポーツプラザ |
| 15 | 1992 | 障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール |
| 16 | 1994 | ふれあいランド岩手 |
| 17 | 1994 | 神戸市立市民福祉スポーツセンター |
| 18 | 1996 | 広島県立障害者リハビリテーションセンター スポーツ交流センターおりづる |
| 19 | 1996 | 高知県立障害者スポーツセンター |
| 20 | 1997 | 大阪市舞洲障がい者スポーツセンター (アミティ舞洲) |
| 21 | 1997 | 新潟県障害者交流センター (新潟ふれあい愛プラザ) |
| 22 | 1997 | 群馬県立ゆうあいピック記念温水プール |
| 23 | 1998 | 長野県障がい者福祉センター (サンアップル) |
| 24 | 2000 | 鹿児島県障害者自立交流センター (ハートピアかごしま) |
| 25 | 2012 | 堺市立健康福祉プラザ |
| 26 | 2012 | 北九州市障害者スポーツセンター アレアス |

障がい者スポーツ協会協議会

令和3年3月現在

| No | 団体名 | 設立年 |
|----|---|------|
| 1 | 社会福祉法人高知県社会福祉協議会 高知県立 障害者スポーツセンター | 1951 |
| 2 | 社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 福祉生きがいセンター障害者福祉・スポーツ部 | 1952 |
| 3 | 大分県障がい者スポーツ協会 | 1961 |
| 4 | 特定非営利活動法人青森県障害者スポーツ協会 | 1970 |
| 5 | 一般社団法人京都障害者スポーツ振興会 | 1971 |
| 6 | 公益財団法人神奈川県身体障害者連合会 | 1972 |
| 7 | 宮崎県障がい者スポーツ協会 | 1973 |
| 8 | 社会福祉法人大阪市障害者福祉・スポーツ協会 | 1977 |
| 9 | 一般社団法人滋賀県障害者スポーツ協会 | 1977 |
| 10 | 公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会 | 1978 |
| 11 | 鹿児島県障害者スポーツ協会 | 1978 |
| 12 | 福岡市障がい者スポーツ協会 | 1984 |
| 13 | 公益財団法人北海道障がい者スポーツ協会 | 1985 |
| 14 | 山形県障がい者スポーツ協会 | 1987 |

| No | 団体名 | 設立年 |
|----|-----------------------|------|
| 15 | 一般社団法人鳥取県障がい者スポーツ協会 | 1987 |
| 16 | 公益財団法人京都市障害者スポーツ協会 | 1988 |
| 17 | 山梨県障害者スポーツ協会 | 1988 |
| 18 | 一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会 | 1988 |
| 19 | 特定非営利活動法人栃木県障害者スポーツ協会 | 1989 |
| 20 | 一般社団法人福岡県障がい者スポーツ協会 | 1989 |
| 21 | 北九州市障害者スポーツ協会 | 1989 |
| 22 | 仙台市障害者スポーツ協会 | 1991 |
| 23 | 名古屋市障害者スポーツ協会 | 1992 |
| 24 | 公益財団法人福島県障がい者スポーツ協会 | 1992 |
| 25 | 愛媛県障がい者スポーツ協会 | 1993 |
| 26 | 一般社団法人千葉県障がい者スポーツ協会 | 1994 |
| 27 | 公益財団法人長野県障がい者スポーツ協会 | 1994 |
| 28 | 富山県障害者スポーツ協会 | 1995 |

| No | 団体名 | 設立年 |
|----|---------------------|------|
| 29 | 茨城県障害者スポーツ・文化協会 | 1995 |
| 30 | 熊本県障害者スポーツ・文化協会 | 1996 |
| 31 | 大阪府障がい者スポーツ協会 | 1998 |
| 32 | 新潟県障害者スポーツ協会 | 1999 |
| 33 | 岡山県障害者スポーツ協会 | 2000 |
| 34 | 奈良県障害者スポーツ協会 | 2001 |
| 35 | 一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会 | 2001 |
| 36 | 一般社団法人札幌市障がい者スポーツ協会 | 2001 |
| 37 | 一般社団法人佐賀県障がい者スポーツ協会 | 2001 |
| 38 | 三重県障がい者スポーツ協会 | 2001 |
| 39 | 和歌山県障害者スポーツ協会 | 2001 |
| 40 | 公益財団法人静岡県障害者スポーツ協会 | 2002 |
| 41 | 一般社団法人岐阜県障害者スポーツ協会 | 2002 |
| 42 | 公益社団法人山口県障害者スポーツ協会 | 2002 |
| 43 | 公益社団法人東京都障害者スポーツ協会 | 2003 |

| No | 団体名 | 設立年 |
|----|-----------------------------------|--|
| 44 | 石川県障害者スポーツ協会 | 2004 |
| 45 | 一般社団法人長崎県障害者スポーツ協会 | 2004 |
| 46 | 一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会 | 2004 |
| 47 | 広島市障害者スポーツ協会 | 2005 |
| 48 | 社会福祉法人神戸市社会福祉協議会 障害者スポーツ振興センター | 2011 |
| 49 | 一般社団法人群馬県障害者スポーツ協会 | 2012 <small>身1985 知1993</small> |
| 50 | 特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会 | 2012 |
| 51 | 公益財団法人島根県障害者スポーツ協会 | 2012 |
| 52 | しあわせ福井スポーツ協会 | 2014 |
| 53 | 香川県障害者スポーツ協会 | 2014 |
| 54 | 川崎市障害者スポーツ協会 | 2015 |
| 55 | 一般社団法人広島県障害者スポーツ協会 | 2016 |
| 56 | 徳島県障がい者スポーツ協会 | 2016 |
| 57 | 一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会 | 2017 |

障がい者スポーツ競技団体協議会

令和3年3月現在

| No | 団体名 | 設立年 |
|----|--------------------------|------|
| 1 | 一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 | 1947 |
| 2 | 公益社団法人日本ボート協会 | 1964 |
| 3 | 一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟 | 1975 |
| 4 | 一般社団法人日本身体障害者アーチェリー連盟 | 1976 |
| 5 | 一般社団法人日本肢体不自由者卓球協会 | 1981 |
| 6 | 特定非営利活動法人日本ブラインドマラソン協会 | 1984 |
| 7 | 一般社団法人日本パラ水泳連盟 | 1984 |
| 8 | 社会福祉法人日本視覚障害者団体連合スポーツ協議会 | 1985 |
| 9 | 特定非営利活動法人日本視覚障害者柔道連盟 | 1986 |
| 10 | 一般社団法人日本車いすツインバスケットボール連盟 | 1988 |
| 11 | 一般社団法人日本パラ陸上競技連盟 | 1989 |
| 12 | 特定非営利活動法人日本障害者スポーツ射撃連盟 | 1990 |
| 13 | 特定非営利活動法人日本障害者セーリング協会 | 1990 |

| No | 団体名 | 設立年 |
|----|-----------------------------------|------|
| 14 | 一般社団法人日本パラサイクリング連盟 | 1990 |
| 15 | 日本ブラインドテニス連盟 | 1990 |
| 16 | 一般社団法人日本車いすテニス協会 | 1989 |
| 17 | 特定非営利活動法人日本障害者ゴルフ協会 | 1991 |
| 18 | 特定非営利活動法人日本身体障害者野球連盟 | 1993 |
| 19 | 一般社団法人日本ゴールボール協会 | 1994 |
| 20 | 特定非営利活動法人日本視覚障害ゴルフフェーズ協会 | 1994 |
| 21 | 公益財団法人スペシャルオリンピックス日本 | 1994 |
| 22 | 一般社団法人日本障がい者乗馬協会 | 1995 |
| 23 | 特定非営利活動法人 日本聴覚障がい者ラグビーフットボール連盟 | 1995 |
| 24 | 一般社団法人日本電動車椅子サッカー協会 | 1995 |
| 25 | 一般社団法人日本障害者カヌー協会 | 1995 |
| 26 | 一般社団法人日本ろうあ者卓球協会 | 1995 |

障がい者スポーツ競技団体協議会

令和3年3月現在

| No | 団体名 | 設立年 |
|----|-------------------------------|------|
| 27 | 日本パラアーティスティックスイミング協会 | 1996 |
| 28 | 一般社団法人日本車いすラグビー連盟 | 1997 |
| 29 | 一般社団法人日本パラバレーボール協会 | 1997 |
| 30 | 特定非営利活動法人日本デフゴルフ協会 | 1997 |
| 31 | 特定非営利活動法人日本バリアフリーダイビング協会 | 1997 |
| 32 | 一般社団法人日本ポッチャ協会 | 1997 |
| 33 | 特定非営利活動法人 日本障害者フライングディスク連盟 | 1998 |
| 34 | NPO法人日本車いすフェンシング協会 | 1998 |
| 35 | 全日本グランドソフトボール連盟 | 1998 |
| 36 | 日本視覚障害者卓球連盟 | 1998 |
| 37 | 日本フロアバレーボール連盟 | 1998 |
| 38 | 一般社団法人日本スポーツウエルネス吹矢協会 | 1998 |
| 39 | 一般社団法人日本FIDバスケットボール連盟 | 1998 |
| 40 | 一般社団法人日本ろう者サッカー協会 | 1998 |
| 41 | 一般社団法人日本ろう者スキー協会 | 1998 |
| 42 | 一般社団法人日本デフバレーボール協会 | 1998 |
| 43 | 公益社団法人日本トライアスロン連合 | 1999 |
| 44 | 特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟 | 1999 |
| 45 | 一般社団法人日本知的障がい者卓球連盟 | 1999 |
| 46 | 特定非営利活動法人 日本パラ・パワーリフティング連盟 | 1999 |
| 47 | 一般社団法人日本知的障害者水泳連盟 | 1999 |
| 48 | 一般社団法人日本パラアイスホッケー協会 | 1999 |
| 49 | 全日本車椅子空手道連盟 | 2000 |
| 50 | 一般社団法人日本CPサッカー協会 | 2001 |
| 51 | 特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟 | 2001 |

| No | 団体名 | 設立年 |
|----|------------------------------------|------|
| 52 | 特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会 | 2002 |
| 53 | 特定非営利活動法人日本車椅子ビリヤード協会 | 2002 |
| 54 | 一般社団法人日本ろう者水泳協会 | 2002 |
| 55 | 一般社団法人日本デフ陸上競技協会 | 2002 |
| 56 | 一般社団法人日本ろう者ボウリング連合 | 2002 |
| 57 | 一般社団法人日本デフバドミントン協会 | 2002 |
| 58 | NPO法人ローンボウルズ日本 | 2003 |
| 59 | 一般社団法人日本車椅子ハンドボール連盟 | 2003 |
| 60 | 一般社団法人日本ろう者テニス協会 | 2003 |
| 61 | 一般社団法人全日本視覚障害者ボウリング協会 | 2004 |
| 62 | 特定非営利活動法人日本知的障がい者陸上競技連盟 | 2005 |
| 63 | 一般社団法人全日本テコンドー協会 | 2005 |
| 64 | 一般社団法人日本車いすカーリング協会 | 2007 |
| 65 | 公益社団法人日本精神保健福祉連盟 精神障害者スポーツ推進委員会 | 2007 |
| 66 | 日本卓球バレー連盟 | 2008 |
| 67 | 特定非営利活動法人日本アンプティサッカー協会 | 2009 |
| 68 | 一般社団法人日本ろう者自転車競技協会 | 2010 |
| 69 | 特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会 | 2013 |
| 70 | 一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会 | 2013 |
| 71 | 日本知的障がい者ソフトボール連盟 | 2013 |
| 72 | 全国アダプテッドエアロビック協議会 | 2014 |
| 73 | 日本知的障がい者フットベースボール連盟 | 2014 |
| 74 | 一般社団法人日本障がい者バドミントン連盟 | 2015 |
| 75 | 一般社団法人日本デフビーチバレーボール協会 | 2017 |
| 76 | 一般社団法人全日本知的障がい者スポーツ協会 | 2017 |

障がい者スポーツ指導者協議会

令和3年3月現在

| No | 名 称 | 設立年 |
|----|-----|-----|
|----|-----|-----|

北海道ブロック

| | | |
|---|-------------------|------|
| 1 | 北海道障がい者スポーツ指導者協議会 | 1986 |
|---|-------------------|------|

東北ブロック

| | | |
|---|-------------------|------|
| 2 | 青森県障害者スポーツ指導員会 | 1999 |
| 3 | 岩手県障がい者スポーツ指導者協議会 | 2002 |
| 4 | 宮城県障害者スポーツ指導者協議会 | 1992 |
| 5 | 仙台市障害者スポーツ指導者協議会 | 1997 |
| 6 | 秋田県障がい者スポーツ指導者協議会 | 2002 |
| 7 | 山形県障害者スポーツ指導者協議会 | 1995 |
| 8 | 福島県障がい者スポーツ指導者協議会 | 1993 |

関東ブロック

| | | |
|----|--------------------|------|
| 9 | 茨城県障がい者スポーツ指導者協議会 | 1995 |
| 10 | 栃木県障がい者スポーツ指導者協議会 | 2002 |
| 11 | 群馬県障がい者スポーツ指導者協議会 | 2001 |
| 12 | 埼玉県障がい者スポーツ指導者協議会 | 1995 |
| 13 | 千葉障がい者スポーツ指導者協議会 | 2001 |
| 14 | 東京都障害者スポーツ指導者協議会 | 1987 |
| 15 | 神奈川県障がい者スポーツ指導者協議会 | 1998 |
| 16 | 横浜市障がい者スポーツ指導者協議会 | 1998 |
| 17 | 川崎市障がい者スポーツ指導者協議会 | 2002 |
| 18 | 山梨県障がい者スポーツ指導員協議会 | 1988 |

北信越ブロック

| | | |
|----|-------------------|------|
| 19 | 新潟県障がい者スポーツ指導者協議会 | 1994 |
| 20 | 富山県障がい者スポーツ指導者協議会 | 1997 |
| 21 | 石川県障がい者スポーツ指導者協議会 | 1997 |
| 22 | 福井県障がい者スポーツ指導者協議会 | 2001 |
| 23 | 長野県障がい者スポーツ指導者協議会 | 1989 |

中部・東海ブロック

| | | |
|----|--------------------|------|
| 24 | 岐阜県障害者スポーツ指導者協議会 | 2004 |
| 25 | 静岡県障害者スポーツ指導者協議会 | 1995 |
| 26 | 愛知県障害者スポーツ指導者協議会 | 1990 |
| 27 | 名古屋市障がい者スポーツ指導者協議会 | 1992 |
| 28 | 三重県障がい者スポーツ指導者協議会 | 2000 |

近畿ブロック

| | | |
|----|-------------------|------|
| 29 | 滋賀県障がい者スポーツ指導者協議会 | 1998 |
| 30 | 京都障害者スポーツ指導者協議会 | 2005 |
| 31 | 大阪障がい者スポーツ指導者協議会 | 1991 |
| 32 | ひょうご障害者スポーツ指導者協議会 | 2000 |
| 33 | 奈良県障害者スポーツ指導者協議会 | 2002 |
| 34 | 和歌山県障害者スポーツ指導者協議会 | 2006 |

中・四国ブロック

| | | |
|----|-------------------|------|
| 35 | 鳥取県障がい者スポーツ指導者協議会 | 2000 |
| 36 | 島根県障がい者スポーツ指導者協議会 | 2012 |
| 37 | 岡山県障がい者スポーツ指導者協議会 | 1998 |
| 38 | 広島県障がい者スポーツ指導者協議会 | 1992 |
| 39 | 山口県障がい者スポーツ指導者協議会 | 1993 |
| 40 | 徳島県障害者スポーツ指導者協議会 | 1994 |
| 41 | 香川県障がい者スポーツ指導者協議会 | 1998 |
| 42 | 愛媛県障がい者スポーツ指導者協議会 | 1996 |
| 43 | 高知県障がい者スポーツ指導者協議会 | 1992 |

九州ブロック

| | | |
|----|-------------------|------|
| 44 | 福岡障害者スポーツ指導者協議会 | 1993 |
| 45 | 佐賀県障がい者スポーツ指導者協議会 | 2000 |
| 46 | 長崎県障がい者スポーツ指導者協議会 | 1996 |
| 47 | 熊本障がい者スポーツ指導者協議会 | 1994 |
| 48 | 大分県障害者スポーツ指導者協議会 | 1992 |
| 49 | 宮崎県障がい者スポーツ指導者協議会 | 2003 |
| 50 | 鹿児島県障害者スポーツ指導者協議会 | 1997 |
| 51 | 沖縄県障害者スポーツ指導者協議会 | 1992 |

2. スポーツ大会の開催

(1) 都道府県・指定都市身体障がい者スポーツ大会

わが国における身体障がい者を対象としたスポーツ大会が開催された記録は、第一次世界大戦終了後、視覚障がい者や聴覚障がい者を対象にしたものとしてわずかに残されている。

また、都道府県が主催する身体障がい者スポーツ大会は、東京都は昭和26(1951)年、埼玉県は昭和27(1952)年、長野県は昭和33(1958)年、大分県は昭和36(1961)年にはじまり、以後毎年開催されるようになった。

昭和38(1963)年、パラリンピック東京大会の前年、厚生省社会局長通知(5月20日付、社発第370号)として各都道府県知事・指定都市市長宛に、身体障がい者スポーツの振興を積極的に進めること、またそのためにスポーツ大会の運営費に対し予算補助を行うこと等の通知されたことにより、ほとんどの都道府県が同年より県大会を実施するようになった。

さらに、国民体育大会の開催地であった山口県では、64年パラリンピックの東京大会開催決定を受けて、1都8県(埼玉、神奈川、岡山、広島、島根、山口、福岡、大分)から468名(肢体239名、視覚92名、聴覚137名)の選手を集め「身体障害者体育大会山口大会」を開催、パラリンピック東京大会の開催に弾みをつける大会となった。

(2) 国際身体障害者スポーツ大会

昭和39(1964)年に開催された国際身体障害者スポーツ大会は、脊髄損傷で車いすを使用している選手を対象とした第13回国際ストーク・マンデビル競技大会(ISMG)と、すべての身体障がい者を対象とした国内大会の2部構成で開催された。国際ストーク・マンデビル競技大会は、脊髄損傷で車いすを使用する選手を対象にした大会だが、第13回大会はオリンピック開催年にオリンピック開催都市で開かれたことから「パラリンピック(対まひ者を意味する“パラプレジア”と“オリンピック”の合成語)」の愛称で呼ばれた。なお、この大会は、1989年に国際パラリンピック委員会創設後、「第2回パラリンピック」に位置づけられた。

5日間にわたり行われたISMGには、21か国より567名(選手378名、役員189名)が参加した。また2日間にわたり行われた国内大会には、592名(選手481名、役員111名)が参加した。

国際身体障害者スポーツ大会

主催●財団法人国際身体障害者スポーツ大会運営委員会
大会名誉総裁●皇太子殿下
会長●葛西嘉資

<第1部 第13回国際ストーク・マンデビル競技大会>

[期間]

昭和39年11月8日～12日(5日間)

[参加数]

全体：567名(選手378名、役員189名)

日本選手団：84名(選手53名、役員31名)

[参加国(21か国)]

アルゼンチン、オーストラリア、オーストリア、ベルギー、セイロン、フィジー、フランス、ドイツ、イギリス、イスラエル、アイルランド、イタリア、マルタ、オランダ、フィリピン、ローデシア、スイス、スウェーデン、南アフリカ、アメリカ、日本

[実施競技]

洋弓、ダーチェリー、車椅子バスケットボール、フェンシング、トラック競技(車椅子スラローム、車椅子競走、車椅子レース)、フィールド競技(槍投、槍正確投、砲丸投、円盤投、こん棒投)、重量挙、五種競技、スノーカー、卓球、水泳

<第2部 国内大会>

[期間]

11月13日～14日(2日間)

[参加数]

全体：592名(選手481名、役員111名)

日本選手団：585名(選手475名、役員110名)

西ドイツ選手団：7名(選手6名、役員1名)

[参加国(2か国)]

西ドイツ、日本

[実施競技]

陸上競技(60m競走、100m競走、200m競走、400m競走、1500m競走、5000m競走、100m円周走、100m障害競走、車椅子スラローム、立幅跳、走幅跳、走高跳、三段跳、砲丸投、こん棒投、槍正確投、ソフトボール投)、水泳、卓球、洋弓

(3)全国身体障害者スポーツ大会

昭和39(1964)年に開催された「国際身体障害者スポーツ大会」(パラリンピック東京大会)の成功を踏まえ、わが国の身体障がい者のスポーツの振興を積極的に推進する具体的方策として「全国身体障害者スポーツ大会」の開催が決定した。

これに伴い、同大会の概要説明並びに選手派遣に伴う予算措置の要請について、厚生省社会局長名で各都道府県・指定都市長宛に通知された。通知内容は次の通り。

社更第380号
昭和40年6月25日

都道府県知事
各 殿
指定都市市長

厚生省社会局長

全国身体障害者スポーツ大会について

昨年11月我が国で開催された国際身体障害者スポーツ大会(パラリンピック)が身体障害者の自立更生の促進と一般国民の身体障害者に対する関心と理解を深める等我が国における身体障害者の更生援護に大きく寄与したことは、すでにご了知のところであるが、国においても身体障害者福祉施策の一環として、今後より一層、身体障害者のスポーツの振興を積極的に推進することとし、その具体的方策として、昭和40年度より全国身体障害者スポーツ大会(以下「大会」という。)を開催することとしたので、次の事項に留意のうえ、これが参加の予算措置及び準備等につき、各段のご配慮を煩わしたい。

1.大会実施の意義

大会の開催は、この大会に参加した全国の身体障害者がスポーツを通じて体力の維持、増強、残存能力の向上及び心理的更生等の効果を図るとともに、一般国民については、身体障害者に対する深い理解と関心の高揚を図り併せて我が国における身体障害者の自立更生の助長に寄与することが大であること。

2.大会の主催者

大会の主催者は、厚生省、大会開催都道府県(指定都市も含む。以下同じ。)、財団法人日本身体障害者スポーツ協会及びその他の関係団体との共催により開催するものであること。

3.大会実施の概要

(1)大会開催期日等

大会開催期日については、各都道府県の参加選手の選出その他の諸準備等を考慮し、原則として毎年実施される秋季国民体育大会の直後とし、大会開催場所は当該国民体育大会開催都道府県において実施するものとする。

(2)施設

競技場等の諸施設については、国民体育大会として使用された施設を原則として利用するものであること。

(3)参加選手の割当て

参加選手の割当ては、大会開催年度の前年度の12月末日現在の身体障害者手帳交付台帳登録数を基準として各都道府県別に参加選手数を決定するものであること。

4.大会の実施細目

大会実施に関する細目については、開催の都度、別途通知するところであるが、管下の関係機関、関係諸団体及び身体障害者に対する周知徹底については遺漏のないよう配慮されたいこと。

5.大会への参加

大会開催の趣旨に照らし、すべての都道府県から身体障害者の参加が期待されるので、これがための諸準備及び参加費用の予算化については、各段の考慮を煩わしいこと。

第1回大会は、昭和40(1965)年11月6～7日に岐阜県で開催された。以後、平成12(2000)年の第36回大会(富山県)まで毎年開催され、わが国身体障がい者のスポーツの普及・振興に多大な成果を挙げた。



全国身体障害者スポーツ大会

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催県 | 選手数 | 役員数 | 皇室 | スローガン | 備考 |
|----|-----|------|-----------|------|-------|-------|-----------------|----------------------------------|---|
| 1 | S40 | 1965 | 11月6～7日 | 岐阜県 | 523 | 461 | 皇太子殿下 | 明るく つよく | 皇太子殿下地元選手ご激励(選手の集い) |
| 2 | S41 | 1966 | 11月5～6日 | 大分県 | 541 | 586 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 敗北なき人々 | 両殿下地元選手のご激励(選手の集い) オーストリア・ウエクセルベルガー博士招待 |
| 3 | S42 | 1967 | 11月4～5日 | 埼玉県 | 592 | 630 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 愛と希望の祭典 | 選手村(新設の公営住宅)前夜祭 |
| 4 | S43 | 1968 | 10月12～13日 | 福井県 | 594 | 679 | 皇太子殿下 | 忍耐と努力に栄光を | 敢闘賞(鉄メダル)創設 |
| 5 | S44 | 1969 | 11月8～9日 | 長崎県 | 596 | 643 | 皇太子殿下 | 自助の祭典 | はじめて女子短大生の手話奉仕制度がはじまる。 |
| 6 | S45 | 1970 | 11月24～25日 | 岩手県 | 590 | 621 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | あすを築く自立の祭典 | 水泳は行わず。オーストリア選手12名参加 |
| 7 | S46 | 1971 | 11月6～7日 | 和歌山県 | 601 | 508 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 希望にみちて たくましく | FM実況放送実施 |
| 8 | S47 | 1972 | 11月11～12日 | 鹿児島県 | 717 | 628 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | がんばるぞ 熱と力と根性で | 団体競技車椅子バスケットボールが始まる。 |
| 9 | S48 | 1973 | 10月27～28日 | 千葉県 | 840 | 1,067 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「若潮大会」 くじけるな まけるな 強く胸張って | 団体競技盲人野球が始まる。 |
| 10 | S49 | 1974 | 11月2～3日 | 茨城県 | 830 | 1,281 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「まごころ大会」 友愛と希望で結ぶ集いの輪 | |
| 11 | S50 | 1975 | 11月8～9日 | 三重県 | 853 | 1,289 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 友愛の輪から わく夢 わく力 | 両殿下 地元選手の練習御覧 |
| 12 | S51 | 1976 | 11月6～7日 | 佐賀県 | 838 | 893 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「若楠大会」 がんばってはげましあってわ く希望 | |
| 13 | S52 | 1977 | 10月15～16日 | 青森県 | 861 | 595 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | ひろげよう 愛の輪 夢の輪 力の輪 | デモンストレーションとして女子車椅子バスケットボール競技を行う。後夜祭開始 記念たばこの発売 |
| 14 | S53 | 1978 | 10月28～29日 | 長野県 | 869 | 1,021 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「やまびこ大会」 さわやかに あたたかく ひたむきに | 雨のため、閉会式は体育館で実施 |
| 15 | S54 | 1979 | 11月27～28日 | 宮崎県 | 902 | 631 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | ふれあう心あふれる力のびゆ く郷土 | 身体障害者福祉法制度30周年記念大会 |
| 16 | S55 | 1980 | 10月25～26日 | 栃木県 | 908 | 805 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | やります できます このからだ | 香港フェスティック関係者視察 |
| 17 | S56 | 1981 | 10月24～25日 | 滋賀県 | 940 | 722 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「びわこ大会」 わたしにもこんな力が生きが いが | 国際障害者年記念大会。アジア地域等より18か国160名の選手・役員を招待(バングラディシュ、ビルマ、ブータン、フィジー、香港、インド、インドネシア、大韓民国、マカオ、マレーシア、ネパール、フィリピン、シンガポール、スリランカ、タイ、トンガ、グアム、アメリカ) |
| 18 | S57 | 1982 | 10月16～17日 | 島根県 | 1,039 | 769 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「ふれあい大会」 手をつなぎ 心をつないで わく力 | 団体競技として聴覚障がい者バレーボール(女子)が始まる。女子男子交互に行う(第19回大会は男子) |
| 19 | S58 | 1983 | 10月29～30日 | 群馬県 | 1,101 | 791 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「愛のあかぎ大会」 飛びだそう 今 ひかりの中に | |
| 20 | S59 | 1984 | 10月27～28日 | 奈良県 | 1,113 | 813 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「わかくさ大会」 この力伸ばそう生かそうたく ましく | ソウルパラリンピック関係者視察 |

| 回 | 年 | 西暦 | 期 日 | 開催県 | 選手数 | 役員数 | 皇室 | スローガン | 備 考 |
|-----------|-----|------|-------------|------|--------|-------|-----------------|---|--|
| 21 | S60 | 1985 | 11月2～3日 | 鳥取県 | 1,123 | 786 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「わかとり大会」 はばたこう 夢と希望の輪をひろげ | ソウルパラリンピック関係者視察 |
| 22 | S61 | 1986 | 10月25～26日 | 山梨県 | 1,123 | 289 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「ふれあいのかいじ大会」 やまなみに ひびけ とどろけ このちから | 同上。大会運営への障がい者の参加 |
| 23 | S62 | 1987 | 11月14～15日 | 沖縄県 | 1,957 | 796 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「かりゆし大会」 翔べフェニックス 紺碧の空に | ソウルパラリンピック関係者視察。国際障害者年の中間年及び沖縄本土復帰15周年記念大会。アジア地域より10か国40名の選手役員を招待(ブルネイ、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、香港、台湾) |
| 24 | S63 | 1988 | 10月29～30日 | 京都府 | 1,228 | 862 | 浩宮殿下 | 「愛とふれあいの京都大会」 さわやかな汗よ 笑顔よ 友情よ | 団体競技聴覚障がい者バレーボール(女子・男子同時実施)。公開競技(車いす駅伝、卓球バレー)。開会式に選手等に椅子を提供 |
| 25 | H1 | 1989 | 9月30日～10月1日 | 北海道 | 1,266 | 942 | 天皇陛下 皇后陛下 | 「希望と友愛のはまなす大会」 君がうて 希望の鐘をエルムのまちに | 公開競技(車いすマラソン)。 |
| 26 | H2 | 1990 | 11月3～4日 | 福岡県 | 1,377 | 988 | 皇太子殿下 | 「ときめきのとびうめ大会」 ふりむくなちからの限り飛び 立とう | 皇太子殿下福岡県福岡市選手団の激励会にご出席。公開競技(車いすテニス、ボウリング)。 |
| 27 | H3 | 1991 | 10月26～27日 | 石川県 | 1,242 | 990 | 皇太子殿下 | 「ほほえみの石川大会」 ほほえみに 広がる友情 わく力 | 皇太子殿下石川県選手団激励パーティーにご出席。公開競技実施はせず。 |
| 28 | H4 | 1992 | 10月18～19日 | 山形県 | 1,244 | 971 | 皇太子殿下 | 「輝きのべにばな大会」 思いっきり のびやかに さわやかに | 皇太子殿下山形選手団激励パーティーにご出席。公開競技は実施せず。アジア地域より10か国80名の選手役員を招待(ブルネイ、中国、インドネシア、韓国、マレーシア・フィリピン・シンガポール・タイ・香港・台湾) |
| 29 | H5 | 1993 | 11月6～7日 | 徳島県 | 1,236 | 1,018 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「躍動のうずしお大会」 今、飛び立とう 友と心の手をつなぎ | 皇太子殿下、皇太子妃殿下徳島県選手団躍動パーティーにご出席。公開競技はせず。 |
| 30 | H6 | 1994 | 11月12～13日 | 愛知県 | 1,321 | 1,091 | 秋篠宮殿下 | 「ゆめびっくあいち」 あなたがタッチ 心のバトン | 秋篠宮殿下愛知県名古屋市選手団激励会にご出席。公開競技(車椅子ツインバスケットボール、バドミントン)。 |
| 31 | H7 | 1995 | 10月28～29日 | 福島県 | 1,245 | 1,026 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「うつくしまふくしま大会」 つなぐ手に あふれる感動 わく勇氣 | 皇太子殿下、皇太子妃殿下福島県選手団激励会にご出席。公開競技は実施せず。 |
| 32 | H8 | 1996 | 10月26～27日 | 広島県 | 1,291 | 1,045 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「おりづるの大会ひろしま」 げんき かがやけ! | 皇太子殿下、皇太子妃殿下広島県選手団結団式にご出席。公開競技(車椅子テニス)。ソウル盲学校を招聘、式典で演奏披露。 |
| 33 | H9 | 1997 | 11月2～3日 | 大阪府 | 1,245 | 1,087 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「ふれ愛びっく大阪」 ときめいて今 はばたいて未来 | 個人競技の2回目出場を認める(但し個人競技参加者の1/3以内)。1部39歳以下2部40歳以上に分けて競技する。年間を通じて競技会を開催(アイススレッジホッケー、電動車椅子サッカー)(視覚テニス、カヌーは天候不良で中止) |
| 34 | H10 | 1998 | 11月7～8日 | 神奈川県 | 1,368 | 1,104 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「かながわ・ゆめ大会」 あなたと握手 あなたに 拍手 | 皇太子殿下、皇太子妃殿下地元選手団交流会にご出席。公開競技(盲人マラソン、ビームライフル、フロアバレーボール、車いすテニス)。 |
| 35 | H11 | 1999 | 11月6～7日 | 熊本県 | 1,263 | 992 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「ハートフルくまもと大会」 がんばるが、いっぱい。 | 公開競技は実施せず。 |
| 36 | H12 | 2000 | 10月28～29日 | 富山県 | 1,259 | 998 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 | 「きらりんびっく富山」 自分にチャレンジ!あしたに チャレンジ!! | 公開競技は実施せず。 |
| 第36回までの合計 | | | | | 36,636 | | | | |

(注)参加選手は、公開競技の参加者は含まない。

(4)全国知的障害者スポーツ大会(ゆうあいピック)

知的障がい者のスポーツは、1960年代まで入所施設、養護学校、特殊学級等での体育訓練や体育的行事等に限られ、身体障がい者のスポーツに比べ立ち遅れていた。その後、1970年代になると、都道府県内の入所施設合同大会や養護学校体育大会等が開催されはじめ、次第に全国規模の大会開催が関係者の間で望まれるようになった。

そこで厚生省(当時)は、「国連・障害者の十年」の最終年を契機として、1992年から「全国知的障害者スポーツ大会」を開催することを決定した。また実施にあたっては、全国身体障害者スポーツ大会をモデルとして、都道府県・指定都市を単位とする選手団の参加を得て毎年行うこととなった。なお、大会開催地は、開催を希望する都道府県の中から厚生大臣が決定することとした。

全国知的障害者スポーツ大会 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催県 | 選手数 | 役員数 | 皇室 | スローガン | 備考 |
|---|-----|------|-----------|-----|----------------|-------|-----------------|--------------------------------|---------------|
| 1 | H4 | 1992 | 11月21～22日 | 東京都 | 1,736 (527) | 1,123 | 皇太子殿下 | 手をつなぎ、この感動を分かちあおう | |
| 2 | H5 | 1993 | 10月16～17日 | 熊本県 | 2,103 (717) | 1,298 | 高円宮殿下 高円宮妃殿下 | であい 友愛 わかちあい | フットベースボールの追加 |
| 3 | H6 | 1994 | 10月15～16日 | 群馬県 | 2,268 (705) | 1,423 | 高円宮殿下 高円宮妃殿下 | いま 君がすばらしい | |
| 4 | H7 | 1995 | - | 兵庫県 | - | - | - | - | 阪神・淡路大震災により中止 |
| 5 | H8 | 1996 | 9月21～22日 | 北海道 | 2,646 (824) | 1,626 | 高円宮殿下 高円宮妃殿下 | 友 いま集い 愛 いまあふれ | 公開競技(相撲) |
| 6 | H9 | 1997 | 10月18～19日 | 愛知県 | 2,868 (944) | 1,669 | 高円宮殿下 高円宮妃殿下 | 力いっぱい、愛いっぱい | |
| 7 | H10 | 1998 | 10月17～18日 | 茨城県 | 2,614 (914) | 1,590 | 高円宮殿下 高円宮妃殿下 | いい友 いい愛 いい心 | |
| 8 | H11 | 1999 | 10月2～3日 | 島根県 | 2,601 (888) | 1,525 | 高円宮殿下 高円宮妃殿下 | 「ゆうあいびっく島根大会」 光る汗 光る笑顔に 光る愛 | |
| 9 | H12 | 2000 | 10月21～22日 | 岐阜県 | 2,722 (985) | 1,591 | 高円宮殿下 高円宮妃殿下 | 「ゆうあいびっく岐阜大会」 今 きみがいちばん光ってる | |

(注)選手数の()内は、団体競技参加者数(再掲)

(5)全国障害者スポーツ大会

平成7(1995)年に決定された「障害者プラン」に基づき、翌年から障がい者の行政が「障害者保健福祉部」という形で統合された。また、国際的な動向として、従来行われていた身体障がい者のスポーツ大会に知的障がい者も参加するようになってきた。

このような状況下、平成10(1998)年4月より3回にわたり開催された厚生省事務次官による私的懇談会「障害者スポーツに関する懇談会」において、「現在別々に開催されている全国身体障害者スポーツ大会とゆうあいピックについて、21世紀の初頭を目前に、競技性も加味しつつ統合実施を行うべきである」と報告された。

厚生省ではこの報告を受け、平成13(2001)年に開催される宮城大会より両大会を統合して実施する旨を障害保健福祉部長名で各都道府県知事・指定都市市長宛に通知した。(平成10年7月16日付)

また、当協会では、「全国身体障害者スポーツ大会とゆうあいピックの統合に関する検討委員会」を組織し、平成10(1998)年8月より5回にわたり会議を行い、円滑な大会運営の推進に必要な各種事項について検討した。

そして平成13(2001)年より、昭和40(1965)年から36回にわたり開催されてきた全国身体障害者スポーツ大会と、平成4(1992)年から8回(第4回大会中止)にわたり開催されてきた全国知的障害者スポーツ大会(ゆうあいピック)が

統合され、新たに「全国障害者スポーツ大会」として開催されることとなった。

なお、この全国大会を開催するにあたり、全国身体障害者スポーツ大会及び全国知的障害者スポーツ大会で実施した競技種目や参加者数について、当面は現状を変えないということであったが、全国大会の開催基準要綱では、国が認定している障がい者のうち、精神障がい者と内部障がい者が参加不可能となっていた。このうち、精神障がい者は第2回全国大会からオープン競技としてバレーボールを実施しており全国大会に正式競技として取り入れる時期に来ていた。また内部障がい者は、全国の障がい者スポーツセンターなどで医学的な指導のもとスポーツ活動が見られることから、協会医学委員会から競技会への参加について一部導入してもよいのではないかと意見が出されるなど、全国大会の見直しを求める機運が高まった。

そこで、上記内容を踏まえ協会、厚生労働省、関係団体、学識経験者による検討委員会を開催し開催基準要綱の見直しを行なった。具体的には、精神障がい者を対象としたバレーボールと、内部障がい者のうち、まずはぼうこう又は直腸機能障がい者の個人競技(陸上競技、アーチェリー、フライングディスク)を導入することとし、平成20(2008)年度の大分大会より実施している。

平成23(2011)年8月に施行されたスポーツ基本法に基づき

スポーツ施策の一元化が推進され、平成26(2014)年度よりパラスポーツの所管が厚生労働省から文部科学省へと移管された。これに伴い全国障害者スポーツ大会の中央主催者は、同年の長崎大会から当協会と文部科学省になった。さらに個人競技における身体障がい者と知的障がい者の参加割合についても見直しを行い、身体2:知的3だった参加比率を長崎大会より同率に変更した。

平成27(2015)年、これまで5年毎に開催してきた検討委員会を廃止し、新たに大会の中長期的かつ総合的な視点から見直しを行う「全国障害者スポーツ大会在り方委員会」と、開催基準要綱や競技規則等の見直しを行う「全国障害者スポーツ大会大会委員会」の2つの委員会を設置した。

当協会の技術委員会が中心となり全国障害者スポーツ大会の参加選手の障害種別や年齢構成、女性の選手の参加等の実態調査を実施、検討を進められており、全国障害者スポーツ大会大会委員会の設置を契機に、令和元(2019)年度の茨城大会から精神障がい者の個人競技として初めて卓球を導入した(大会は台風により中止)。さらに令和3(2021)年度の三重大会からは、重度の身体障がい者の参加を目的とし、一部規則を変更したボッチャを導入することとした。(大会は新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止)。



全国障害者スポーツ大会 実施競技と参加対象障害 一覧

| 競技 | 身体 | | | | 知的 | 精神 |
|-----------|-------------|----|----|----|-----------|-----------|
| | 肢体 | 視覚 | 聴覚 | 内部 | | |
| 個人競技 7 | 陸上競技 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | 水泳 | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | アーチェリー | ○ | | ○ | ○ | |
| | 卓球(STTを含む) | ○ | ○ | ○ | ○ | ◇ |
| | フライングディスク | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| | ボウリング | | | | ○ | |
| | ボッチャ | ◎ | | | | |
| 団体競技 7 | バスケットボール | | | | ○ | |
| | 車いすバスケットボール | ○ | | | | |
| | ソフトボール | | | | ○ | |
| | グランドソフトボール | | ○ | | | |
| | バレーボール | | | ○ | ○ | ◇ |
| | サッカー | | | | ○ | |
| | フットソフトボール* | | | | ○ | |
| | 7 | 5 | 6 | 3 | 10 | 2 |
| | 9(個人6・団体3) | | | | (個人5・団体5) | (個人1・団体1) |

◇・・・精神障害：2008年団体競技導入(バレーボール)、2019年個人競技導入(卓球)

◎・・・身体障害：2021年個人競技導入(ボッチャ：重度障がい)

*・・・2022年4月からフットベースボールからフットソフトボールに名称変更

全国障害者スポーツ大会 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催県 | 選手数 | 役員数 | 皇室 | スローガン | 備考 |
|----|-----|------|------------|------|----------------|-------|------------------------------------|---|---|
| 1 | H13 | 2001 | 10月27日～29日 | 宮城県 | 3,195 | 1,747 | 皇太子殿下 高円宮殿下 高円宮妃殿下 | 「翔く・新世紀みやぎ大会」 感動体感2001 | |
| 2 | H14 | 2002 | 11月9日～11日 | 高知県 | 3,199 (163) | 1,935 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 高円宮殿下 高円宮妃殿下 | 「よさこいピック高知」 みつめて夢 活かして力 | オープン競技(バレーボール(精神障がい)) |
| 3 | H15 | 2003 | 11月8日～10日 | 静岡県 | 3,289 (180) | 2,089 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 桂宮殿下 高円宮妃殿下 | 「わかふじ大会」 静岡でかなえよう夢 つたえよう感動 | オープン競技(バレーボール(精神障がい)) |
| 4 | H16 | 2004 | 11月13日～15日 | 埼玉県 | 3,301 (120) | 2,558 | 皇太子殿下 桂宮殿下 | 「彩の国まごころ大会」 ともに感動! ともに笑顔 | オープン競技(バレーボール(精神障がい)) |
| 5 | H17 | 2005 | 11月5日～7日 | 岡山県 | 3,212 (219) | 2,035 | 皇太子殿下 桂宮殿下 | 「輝いて!おかやま大会」 あなたがキラリ☆ | オープン競技(車いすテニス、バレーボール(精神障がい)) |
| 6 | H18 | 2006 | 10月14日～16日 | 兵庫県 | 3,261 | 2,071 | 皇太子殿下 桂宮殿下 | 「のじぎく兵庫大会」 はばたこう ともに今から ひょうごから | オープン競技(馬術、視覚障がい者サッカー、ローンボウルズ、ビームライフル射撃、バレーボール(精神障がい)) |
| 7 | H19 | 2007 | 10月13日～15日 | 秋田県 | 3,227 | 2,071 | 皇太子殿下 高円宮妃殿下 | 「秋田わか杉大会」 きっと出会える!夢と感動 | オープン競技(バレーボール(精神障がい)) |
| 8 | H20 | 2008 | 10月11日～13日 | 大分県 | 3,202 | 2,000 | 皇太子殿下 高円宮妃殿下 | 「チャレンジ!おおいた大会」 笑顔、元気、ともに未来へ 新たな一歩 | バレーボール(精神障がい)が正式競技に加わる。オープン競技(ふうせんバレーボール、卓球バレー) |
| 9 | H21 | 2009 | 10月10日～12日 | 新潟県 | 3,231 | 2,164 | 皇太子殿下 高円宮妃殿下 | 「トキめき新潟大会」 トキはなて 君の力を 大空へ | オープン競技(車いすダンス、車椅子ツインバスケットボール、フロアホッケー) |
| 10 | H22 | 2010 | 10月23日～25日 | 千葉県 | 3,238 | 1,925 | 皇太子殿下 高円宮妃殿下 | 「ゆめ半島千葉大会」 ゆめ半島 みんなが主役 花咲く笑顔 | オープン競技(ボッチャ、ライフル射撃、車椅子ツインバスケットボール、車椅子レクダンス) |
| 11 | H23 | 2011 | 10月22日～24日 | 山口県 | 3,238 | 2,166 | 皇太子殿下 高円宮妃殿下 | 「おいでませ!山口大会」 君の一生けんめいに会いたい | オープン競技(卓球バレー) |
| 12 | H24 | 2012 | 10月13日～15日 | 岐阜県 | 3,165 | 2,150 | 皇太子殿下 高円宮妃殿下 | 「ぎふ清流大会」 輝け はばたけ だれもが主役 | オープン競技(脳性まひ者7人制サッカー、障害者ゴルフ、車椅子ツインバスケットボール) |
| 13 | H25 | 2013 | 10月24日～26日 | 東京都 | 3,308 | 2,154 | 皇太子殿下 皇太子妃殿下 高円宮妃殿下 | 「スポーツ祭東京2013」 東京に多摩に島々に羽ばたけ アスリート | オープン競技(ウィルチェアラグビー、グラウンド・ゴルフ、車いすフェンシング、ゴールボール、視覚障害者ボウリング、障害者シンクロナイズドスイミング、スポーツチャンバラ、スポーツ吹矢、精神障害者フットサル、ダーツ、手のひら健康バレー、パドミントン、ハンドサッカー、ブラインドサッカー、ボート、ボッチャ、ユニカール) |
| 14 | H26 | 2014 | 11月1日～3日 | 長崎県 | 3,232 | 2,245 | 皇太子殿下 高円宮妃殿下 | 「長崎がんばらんば大会」 君の夢 はばたけ今 ながさきから | オープン競技(ふうせんバレーボール、視覚障害者ボウリング) |
| 15 | H27 | 2015 | 10月24日～26日 | 和歌山県 | 3,239 | 2,278 | 皇太子殿下 高円宮妃殿下 | 「紀の国わかやま大会」 躍動と歓喜、そして絆 | オープン競技(車いすテニス、卓球バレー) |
| 16 | H28 | 2016 | 10月22日～24日 | 岩手県 | 3,275 | 2,281 | 皇太子殿下 高円宮妃殿下 | 「希望郷いわて大会」 広げよう 感動。伝えよう 感謝 | オープン競技(ビリヤード、卓球バレー、ゲートボール、ペタンク) |
| 17 | H29 | 2017 | 10月28日～30日 | 愛媛県 | 3,288 | 2,285 | 皇太子殿下 高円宮妃殿下 | 「愛顔つなぐえひめ大会」 君は風 いしづちを駆け 瀬戸に舞え | オープン競技(肢体障がい者ボウリング、ブラインドテニス、精神障がい者フットサル) |
| 18 | H30 | 2018 | 10月13日～15日 | 福井県 | 3,311 | 2,323 | 皇太子殿下 高円宮妃殿下 | 「福井しあわせ元気大会」 織りなそう 力と技と美しさ | オープン競技(卓球バレー、車いすテニス、ゲートボール) |
| 19 | R1 | 2019 | 10月12日～14日 | 茨城県 | - | - | - | 「いきいき茨城ゆめ大会2019」 翔べ 羽ばたけ そして未来へ | 台風により中止 |
| 20 | R2 | 2020 | 10月24日～26日 | 鹿児島県 | - | - | - | 「燃ゆる感動かごしま大会」 熱い鼓動 風は南から | 新型コロナウイルス感染症拡大のため、国民体育大会と共に2023年に延期 |
| 21 | R3 | 2021 | 10月23日～25日 | 三重県 | - | - | - | 「三重とこわか大会」 ときめいて人 かがやいて未来 | 新型コロナウイルス感染症拡大のため、国民体育大会と共に中止 |
| 22 | R4 | 2022 | 10月29日～31日 | 栃木県 | - | - | - | 「いちご一会とちぎ大会」 夢を感動へ。感動を未来へ。 | |
| 特別 | R5 | 2023 | 10月23日～25日 | 鹿児島県 | - | - | - | 「燃ゆる感動かごしま大会」 熱い鼓動 風は南から | |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催県 | 選手数 | 役員数 | 皇室 | スローガン | 備考 |
|----|----|------|----|-----|-----|-----|----|-------|----|
| 21 | R6 | 2024 | | 佐賀県 | - | - | - | | |
| 21 | R7 | 2025 | | 滋賀県 | - | - | - | | |
| 21 | R8 | 2026 | | 青森県 | - | - | - | | |

(注)参加選手は、オープン競技の参加者は含まない。

全国身体障害者スポーツ大会・全国知的障害者スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の実施競技

①全国身体障害者スポーツ大会

| 回 | 年 | 開催地 | 個人競技 | | | | 団体競技 | | |
|----|------|------|------|----|----|--------|------|----|----|
| | | | AT | SW | AR | TT/STT | WB | GS | VB |
| 1 | 1965 | 岐阜県 | ● | ● | ● | ● | | | |
| 2 | 1966 | 大分県 | ● | ● | ● | ● | | | |
| 3 | 1967 | 埼玉県 | ● | ● | ● | ● | | | |
| 4 | 1968 | 福井県 | ● | ● | ● | ● | | | |
| 5 | 1969 | 長崎県 | ● | ● | ● | ● | | | |
| 6 | 1970 | 岩手県 | ● | ● | ● | ● | | | |
| 7 | 1971 | 和歌山県 | ● | ● | ● | ● | | | |
| 8 | 1972 | 鹿児島県 | ● | ● | ● | ● | ● | | |
| 9 | 1973 | 千葉県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | |
| 10 | 1974 | 茨城県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | |
| 11 | 1975 | 三重県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | |
| 12 | 1976 | 佐賀県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | |
| 13 | 1977 | 青森県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | |
| 14 | 1978 | 長野県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | |
| 15 | 1979 | 宮崎県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | |
| 16 | 1980 | 栃木県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | |
| 17 | 1981 | 滋賀県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | |
| 18 | 1982 | 島根県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 19 | 1983 | 群馬県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 20 | 1984 | 奈良県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 21 | 1985 | 鳥取県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 22 | 1986 | 山梨県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 23 | 1987 | 沖縄県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 24 | 1988 | 京都府 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 25 | 1989 | 北海道 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 26 | 1990 | 福岡県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 27 | 1991 | 石川県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 28 | 1992 | 山形県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 29 | 1993 | 徳島県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 30 | 1994 | 愛知県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 31 | 1995 | 福島県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 32 | 1996 | 広島県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 33 | 1997 | 大阪府 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 34 | 1998 | 神奈川県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 35 | 1999 | 熊本県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 36 | 2000 | 富山県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |

②全国知的障害者スポーツ大会

| 回 | 年 | 開催地 | 個人競技 | | | | | 団体競技 | | | | |
|---|------|---------|------|----|----|----|----|------|----|----|----|-----|
| | | | AT | SW | TT | BW | FD | BB | SB | FB | VB | FSB |
| 1 | 1992 | 東京都 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 2 | 1993 | 熊本県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 3 | 1994 | 群馬県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 4 | 1995 | 兵庫県(中止) | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 5 | 1996 | 北海道 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 6 | 1997 | 愛知県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 7 | 1998 | 茨城県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 8 | 1999 | 島根県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 9 | 2000 | 岐阜県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |

③全国障害者スポーツ大会

| 回 | 年 | 開催地 | 個人競技 | | | | | | | 団体競技 | | | | | | |
|----|------|----------|------|----|----|--------|----|----|----|------|----|----|----|----|----|-----|
| | | | AT | SW | AR | TT/STT | BW | FD | BO | WB | BB | SB | GS | FB | VB | FSB |
| 1 | 2001 | 宮城県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 2 | 2002 | 高知県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 3 | 2003 | 静岡県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 4 | 2004 | 埼玉県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 5 | 2005 | 岡山県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 6 | 2006 | 兵庫県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 7 | 2007 | 秋田県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 8 | 2008 | 大分県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 9 | 2009 | 新潟県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 10 | 2010 | 千葉県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 11 | 2011 | 山口県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 12 | 2012 | 岐阜県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 13 | 2013 | 東京都 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 14 | 2014 | 長崎県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 15 | 2015 | 和歌山県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 16 | 2016 | 岩手県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 17 | 2017 | 愛媛県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 18 | 2018 | 福井県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 19 | 2019 | 茨城県(中止) | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 20 | 2020 | 鹿児島県(延期) | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 21 | 2021 | 三重県(中止) | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 22 | 2022 | 栃木県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 特別 | 2023 | 鹿児島県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 23 | 2024 | 佐賀県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 24 | 2025 | 滋賀県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 25 | 2026 | 青森県 | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● |

- | | | | |
|-----|-------------|-----|--------------------------|
| AT | 陸上競技 | WB | 車いすバスケットボール |
| SW | 水泳 | BB | バスケットボール |
| AR | アーチェリー | SB | ソフトボール |
| TT | 卓球 | GS | グランドソフトボール |
| STT | サウンドテーブルテニス | FB | サッカー |
| BW | ボウリング | VB | バレーボール |
| FD | フライングディスク | FSB | フットソフトボール(旧称: フットベースボール) |
| BO | ボッチャ | | |

(6) ジャパンパラ競技大会

① 夏季競技大会

平成元(1989)年、国際パラリンピック委員会(IPC)が設立され、パラリンピックや競技別世界選手権大会がエリートスポーツ大会への道を歩みはじめるなど、世界の身体障がい者の競技スポーツはめまぐるしい動きをみせていた。

一方、わが国では、一生に一度しか参加できない「全国身体障害者スポーツ大会」の他、全国組織として活動する12の競技団体が自主運営する競技大会や、各種団体等の補助を受けて開催する競技大会などが行われていたが、世界の動向に対応したものではなかった。

このような状況下、平成2(1990)年6月、社会福祉・医療事業団法の一部改正により同事業団に長寿社会福祉基金が設けられ、その運用益により財源を生み出し在宅福祉事業が行われることが決定された。

これにより、当協会では、「身体障害者スポーツ振興事業」として新たに事業を行うこととなった。

そこで、次回行われるバルセロナパラリンピックから標準記録の設定が厳しくなると予想される陸上競技と水泳について、競技団体と共催して平成3(1991)年度より開催することを決定した。

なお、この大会をパラリンピックや世界選手権大会を

めざすトップレベルの選手のための大会と位置づけ、さらに標準記録の設定をはじめ、国際組織のクラス分けを導入した。また、競技規則についても国際組織のものを適用した。

その後、平成10(1998)年度よりアーチェリー競技大会が加わり(オリンピックラウンドを採用)、平成24(2012)年度より大会名称をジャパンパラ競技大会(旧ジャパンパラリンピック競技大会)に改める。平成26(2014)年度よりゴールボール競技大会、車いすラグビー競技大会、平成29(2017)年度よりボッチャ競技大会が加わった。

以降、開催競技については都度検討され行方ようになった。

② 冬季競技大会

第7回パラリンピック冬季競技大会が平成10(1998)年3月に長野県下で開催されることが決定された。

そこで、当協会では、当時、パラリンピック実施競技の中で唯一わが国で行われていたアルペンスキーのさらなる競技力向上と、クロスカン트리スキー、アイススレッジスピードレース、アイススレッジホッケー(現パラアイスホッケー)を行う選手の発掘・育成・強化することを決定した。

そして、平成5(1993)年度よりスキー競技大会を、その翌年度よりアイススレッジ競技大会の開催をはじめた。

陸上競技大会 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | 参加選手数 | | | 特記事項 |
|----|-----|------|-------------|--------------|-------|-----|----|--|
| | | | | | 計 | 男子 | 女子 | |
| 1 | H3 | 1991 | 9月28日 | 江戸川区陸上競技場 | 243 | 197 | 46 | ・海外選手を招待(韓国7名、タイ15名) |
| 2 | H4 | 1992 | 10月3日～4日 | 江戸川区陸上競技場 | 169 | 132 | 37 | |
| 3 | H5 | 1993 | 10月2日～3日 | 江戸川区陸上競技場 | 232 | 193 | 39 | |
| 4 | H6 | 1994 | 10月1日～2日 | 江戸川区陸上競技場 | 242 | 193 | 49 | |
| 5 | H7 | 1995 | 9月30日～10月1日 | 江戸川区陸上競技場 | 256 | 208 | 48 | |
| 6 | H8 | 1996 | 9月28日～29日 | 江戸川区陸上競技場 | 253 | 204 | 49 | |
| 7 | H9 | 1997 | 10月4日～5日 | 江戸川区陸上競技場 | 242 | 198 | 44 | |
| 8 | H10 | 1998 | 10月4日 | 江戸川区陸上競技場 | 267 | 215 | 52 | |
| 9 | H11 | 1999 | 9月25日 | 江戸川区陸上競技場 | 231 | 181 | 50 | ・天皇陛下、皇后陛下ご観戦を賜る。 ・天皇陛下御即位10年記念大会として開催。 |
| 10 | H12 | 2000 | 5月28日 | 大阪市長居第2競技場 | 165 | 119 | 46 | |
| 11 | H13 | 2001 | 9月16日 | 高知県立春野総合運動公園 | 106 | 79 | 27 | |
| 12 | H14 | 2002 | 9月7日～8日 | 岩沼市陸上競技場 | 121 | 99 | 22 | |
| 13 | H15 | 2003 | 9月20日～21日 | 町田市陸上競技場 | 207 | 162 | 45 | ・この年からIPC公認大会として実施 ・世界新記録樹立1 |
| 14 | H16 | 2004 | 5月23日 | 大阪市長居陸上競技場 | 170 | 135 | 35 | ・世界新記録樹立4 |
| 15 | H17 | 2005 | 10月22日～23日 | 大阪市長居陸上競技場 | 151 | 111 | 40 | |
| 16 | H18 | 2006 | 9月30日～10月1日 | 岡山県陸上競技場 | 320 | 247 | 73 | ・世界新記録樹立4 |
| 17 | H19 | 2007 | 10月20日～21日 | 大阪市長居陸上競技場 | 275 | 210 | 65 | ・6か国(フランス、香港、アイルランド、ロシアシンガポール、スペイン)50名の海外選手が参加 |
| 18 | H20 | 2008 | 6月22日 | 大阪市長居陸上競技場 | 221 | 174 | 47 | |
| 19 | H21 | 2009 | 9月22日 | 大阪市長居陸上競技場 | 227 | 170 | 57 | ・天皇陛下御即位20年記念大会 ・香港より2名の選手が参加 |
| 20 | H22 | 2010 | 7月31日～8月1日 | 仙台市陸上競技場 | 179 | 134 | 45 | |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | 参加選手数 | | | 特記事項 |
|----|-----|------|-----------|-----------------------|-------|-----|-----|---------------------------|
| | | | | | 計 | 男子 | 女子 | |
| 21 | H23 | 2011 | 9月24日～25日 | 大分市営陸上競技場 | 177 | 134 | 43 | ・韓国より2名、モンゴルより4名の選手が参加 |
| 22 | H24 | 2012 | 6月2日～3日 | 大阪市長居陸上競技場 | 296 | 218 | 78 | この年より大会名称を「ジャンパラ」に改める |
| 23 | H25 | 2013 | 9月7日～8日 | 維新百年記念公園陸上競技場 | 228 | 169 | 59 | |
| 24 | H26 | 2014 | 9月6日～7日 | 維新百年記念公園陸上競技場 | 243 | 187 | 56 | |
| 25 | H27 | 2015 | 9月19日～20日 | ヤンマースタジアム長居 | 312 | 218 | 94 | |
| 26 | H28 | 2016 | 6月3日～5日 | デンカビッグスワンスタジアム | 269 | 196 | 73 | |
| 27 | H29 | 2017 | 9月22日～24日 | とうほう・みんなのスタジアム | 373 | 275 | 98 | |
| 28 | H30 | 2018 | 7月7日～8日 | 正田醤油スタジアム群馬 | 362 | 266 | 96 | ・海外から選手を招聘 ・世界新記録樹立1 |
| 29 | R1 | 2019 | 7月20日～21日 | 岐阜メモリアルセンター 長良川競技場 | 464 | 344 | 120 | ・海外から選手を招聘 |
| 30 | R2 | 2020 | 5月2日～3日 | 国立競技場 | - | - | - | 新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止 |
| 31 | R3 | 2021 | 4月24日～25日 | 屋島レクザムフィールド | 286 | 209 | 77 | 新型コロナウイルス感染症拡大のため、無観客にて実施 |

水泳競技大会 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | 参加選手数 | | | 特記事項 |
|----|-----|------|-----------|------------|-------|-----|-----|--|
| | | | | | 計 | 男子 | 女子 | |
| 1 | H3 | 1991 | 11月24日 | 東京体育館室内プール | 106 | 77 | 29 | |
| 2 | H4 | 1992 | 11月29日 | 東京体育館室内プール | 93 | 73 | 20 | |
| 3 | H5 | 1993 | 11月28日 | 東京辰巳国際水泳場 | 96 | 63 | 33 | |
| 4 | H6 | 1994 | 11月20日 | 東京辰巳国際水泳場 | 101 | 66 | 35 | |
| 5 | H7 | 1995 | 11月26日 | 東京辰巳国際水泳場 | 119 | 79 | 40 | |
| 6 | H8 | 1996 | 11月17日 | 東京辰巳国際水泳場 | 103 | 37 | 66 | |
| 7 | H9 | 1997 | 11月16日 | 東京辰巳国際水泳場 | 113 | 76 | 37 | |
| 8 | H10 | 1998 | 11月15日 | なみはやドーム | 129 | 94 | 35 | |
| 9 | H11 | 1999 | 8月22日 | なみはやドーム | 146 | 101 | 45 | |
| 10 | H12 | 2000 | 8月20日 | なみはやドーム | 141 | 99 | 42 | |
| 11 | H13 | 2001 | 8月19日 | なみはやドーム | 161 | 113 | 48 | |
| 12 | H14 | 2002 | 8月18日 | なみはやドーム | 171 | 113 | 58 | |
| 13 | H15 | 2003 | 8月16日～17日 | なみはやドーム | 191 | 131 | 60 | ・この年からIPC公認大会として実施 ・IPC水泳公認クラス分け委員を招きIPCクラス分け研修を実施。・世界新記録樹立1 |
| 14 | H16 | 2004 | 8月15日 | なみはやドーム | 165 | 112 | 53 | |
| 15 | H17 | 2005 | 8月14日 | なみはやドーム | 148 | 100 | 48 | |
| 16 | H18 | 2006 | 7月16日～17日 | なみはやドーム | 172 | 119 | 53 | ・IPC水泳公認クラス分け委員の招聘 ・世界新記録樹立1・4か国(メキシコ、マレーシア、韓国、香港)15名の海外選手が参加 |
| 17 | H19 | 2007 | 8月18日～19日 | なみはやドーム | 187 | 127 | 60 | ・7か国(スイス、韓国、イギリス、ハンガリー、デンマーク、シンガポール、マレーシア)23名の海外選手が参加 |
| 18 | H20 | 2008 | 7月20日 | なみはやドーム | 163 | 114 | 49 | |
| 19 | H21 | 2009 | 7月20日 | なみはやドーム | 181 | 122 | 59 | ・天皇陛下御即位20年記念大会 ・韓国より2名の選手が参加 |
| 20 | H22 | 2010 | 7月18日 | なみはやドーム | 197 | 134 | 63 | |
| 21 | H23 | 2011 | 8月13日～14日 | なみはやドーム | 176 | 119 | 57 | |
| 22 | H24 | 2012 | 7月15日～16日 | なみはやドーム | 221 | 151 | 70 | この年より大会名称を「ジャンパラ」に改める |
| 23 | H25 | 2013 | 7月14日～15日 | なみはやドーム | 226 | 155 | 71 | |
| 24 | H26 | 2014 | 7月20日～21日 | なみはやドーム | 252 | 179 | 73 | |
| 25 | H27 | 2015 | 9月5日～6日 | 東京辰巳国際水泳場 | 265 | 185 | 80 | |
| 26 | H28 | 2016 | 7月17日～18日 | 横浜国際プール | 277 | 192 | 85 | |
| 27 | H29 | 2017 | 9月2日～3日 | 東京辰巳国際水泳場 | 277 | 219 | 107 | ・海外から選手を招聘 |
| 28 | H30 | 2018 | 9月22日～24日 | 横浜国際プール | 392 | 265 | 127 | ・海外から選手を招聘 |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | 参加選手数 | | | 特記事項 |
|----|----|------|-----------|---------|-------|-----|-----|---------------------------|
| | | | | | 計 | 男子 | 女子 | |
| 29 | R1 | 2019 | 9月21日～23日 | 横浜国際プール | 377 | 253 | 124 | ・海外から選手を招聘 |
| 30 | R2 | 2020 | 5月22日～24日 | 横浜国際プール | - | - | - | 新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止 |
| 31 | R3 | 2021 | 5月21日～23日 | 横浜国際プール | 220 | 149 | 71 | 新型コロナウイルス感染症拡大のため、無観客にて実施 |

アーチェリー競技大会 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | 参加選手数 | | | 特記事項 |
|----|-----|------|------------|--------------|-------|----|----|--|
| | | | | | 計 | 男子 | 女子 | |
| 1 | H10 | 1998 | 11月21日～22日 | 埼玉県障害者交流センター | 50 | 44 | 6 | |
| 2 | H11 | 1999 | 11月20日～21日 | 埼玉県障害者交流センター | 46 | 39 | 7 | |
| 3 | H12 | 2000 | 5月13日～14日 | 埼玉県障害者交流センター | 41 | 34 | 7 | ・シドニーパラリンピック日本代表選手選考大会として実施 |
| 4 | H13 | 2001 | 5月12日～13日 | 埼玉県障害者交流センター | 50 | 44 | 6 | |
| 5 | H14 | 2002 | 5月11日～12日 | 埼玉県障害者交流センター | 43 | 36 | 7 | ・この年より埼玉県内高等学校との団体対抗戦を実施 |
| 6 | H15 | 2003 | 5月10日～11日 | 埼玉県障害者交流センター | 46 | 32 | 14 | |
| 7 | H16 | 2004 | 5月8日～9日 | 埼玉県障害者交流センター | 49 | 37 | 12 | |
| 8 | H17 | 2005 | 7月23日～24日 | 埼玉県障害者交流センター | 47 | 35 | 12 | |
| 9 | H18 | 2006 | 7月15日～16日 | 埼玉県障害者交流センター | 65 | 46 | 19 | |
| 10 | H19 | 2007 | 7月21日～22日 | 埼玉県障害者交流センター | 81 | 62 | 19 | ・韓国より6名の選手が参加 |
| 11 | H20 | 2008 | 5月10日～11日 | 埼玉県障害者交流センター | 68 | 49 | 19 | |
| 12 | H21 | 2009 | 10月3日～4日 | 埼玉県障害者交流センター | 57 | 43 | 14 | ・天皇陛下御即位20年記念大会 ・香港より13名、韓国より6名の選手が参加の選手が参加 |
| 13 | H22 | 2010 | 10月9日～10日 | 埼玉県障害者交流センター | 58 | 43 | 15 | ・韓国より15名の選手が参加 |
| 14 | H23 | 2011 | 10月8日～9日 | 埼玉県障害者交流センター | 43 | 32 | 11 | |
| 15 | H24 | 2012 | 10月6日～7日 | 埼玉県障害者交流センター | 40 | 33 | 7 | この年より大会名称を「ジャンパラ」に改める |
| 16 | H25 | 2013 | 9月28日～29日 | 埼玉県障害者交流センター | 35 | 28 | 7 | |

ゴールボール競技大会 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | チーム数 | 特記事項 |
|---|-----|------|-------------|---------------|---|---|
| 1 | H26 | 2014 | 8月8日～10日 | 有明スポーツセンター | 4 | オーストラリアよりチームを招聘 |
| 2 | H27 | 2015 | 7月31日～8月2日 | 足立区総合スポーツセンター | 4 | 韓国、トルコ、ロシアよりチームを招聘 |
| 3 | H28 | 2016 | 7月22日～7月24日 | 足立区総合スポーツセンター | 4 | 韓国、イスラエルよりチームを招聘 |
| 4 | H29 | 2017 | 8月4日～6日 | 千葉ポートアリーナ | 4 | カナダ、ギリシャ、韓国よりチームを招聘 |
| 5 | H30 | 2019 | 2月1日～3日 | 千葉ポートアリーナ | 4 | ブラジル、トルコ、アメリカよりチームを招聘 |
| 6 | R1 | 2019 | 9月28日～29日 | 幕張メッセ・イベントホール | 4 | ブラジル、アメリカよりチームを招聘 |
| 7 | R3 | 2021 | 2月6日～7日 | 千葉ポートアリーナ | 5 (男子日本代表A、B、 女子日本代表A、B、 男子クラブチーム) | 新型コロナウイルス感染症拡大のため、国内選手のみで開催 |
| 8 | R3 | 2021 | 12月11日～12日 | 郷土の森総合体育館 | 3 (女子日本代表A、B、C) | 新型コロナウイルス感染症拡大のため、国内選手のみで開催 エキシビションとして男子日本代表A、Bの試合を実施 新型コロナウイルス感染症拡大のため、無観客にて実施 |

車いすラグビー競技大会 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | チーム数 | 特記事項 |
|---|-----|------|------------|-----------|------|-----------------------------|
| 1 | H26 | 2014 | 10月10日～12日 | 千葉ポートアリーナ | 4 | カナダよりチームを招聘 |
| 2 | H27 | 2015 | 5月22日～24日 | 千葉ポートアリーナ | 4 | イギリス、デンマーク、ニュージーランドよりチームを招聘 |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | チーム数 | 特記事項 |
|---|-----|------|------------|-----------|------|-----------------------------|
| 3 | H28 | 2016 | 5月19日～22日 | 千葉ポートアリーナ | 4 | オーストラリア、イギリス、アメリカよりチームを招聘 |
| 4 | H29 | 2017 | 5月25日～28日 | 千葉ポートアリーナ | 3 | オーストラリア、アメリカよりチームを招聘 |
| 5 | H30 | 2018 | 5月24日～27日 | 千葉ポートアリーナ | 4 | フランス、イギリス、スウェーデンよりチームを招聘 |
| 6 | R2 | 2020 | 3月12日～15日 | 代々木第一体育館 | - | 新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止 |
| 7 | R3 | 2021 | 11月18日～21日 | 千葉ポートアリーナ | 3 | 新型コロナウイルス感染症拡大のため、国内選手のみで開催 |

ボッチャ競技大会 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | 参加選手数 | | | 特記事項 |
|---|-----|------|------------|-------------|-------|----|----|--|
| | | | | | 計 | 男子 | 女子 | |
| 1 | H29 | 2017 | 11月17日～19日 | 武蔵野総合体育館 | 18 | 15 | 3 | ・チームBC1-2、BC3ペア、BC4ペアの種目を実施 ・イギリス、タイより選手を招聘 |
| 2 | H31 | 2019 | 1月18日～20日 | 新宿コスミックセンター | 18 | 16 | 2 | ・チームBC1-2、BC3個人、BC4ペアの種目を実施 ・カナダ、韓国より選手を招聘 |
| 3 | R2 | 2020 | 2月28日～3月1日 | 有明体操競技場 | - | - | - | ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止 |

アルペンスキー競技 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | 参加選手数 | | | 特記事項 |
|----|-----|------|-----------|-----------------|-------|-----|----|---|
| | | | | | 計 | 男子 | 女子 | |
| 1 | H6 | 1994 | 2月18日～20日 | ブランシュたかやますキー場 | 130 | 109 | 21 | ・クロスカントリースキーと共に開催 |
| 2 | H7 | 1995 | 3月3日～5日 | ブランシュたかやますキー場 | 81 | 71 | 10 | ・クロスカントリースキーと共に開催 |
| 3 | H8 | 1996 | 3月8日～10日 | ブランシュたかやますキー場 | 69 | 53 | 16 | ・クロスカントリースキーと共に開催 |
| 4 | H9 | 1997 | 3月1日～3日 | ブランシュたかやますキー場 | 130 | 111 | 19 | ・クロスカントリースキーと共に開催 ・12名の海外選手(韓国7名、ニュージーランド5名)受け入れ |
| 5 | H10 | 1998 | - | - | - | - | - | ・長野冬季パラリンピックのため実施せず |
| 6 | H11 | 1999 | 2月19日～21日 | ブランシュたかやますキー場 | 88 | 74 | 14 | ・クロスカントリースキーと共に開催 |
| 7 | H12 | 2000 | 3月10日～12日 | ARAI M&S PARK | 108 | 93 | 15 | ・クロスカントリースキーと共に開催 |
| 8 | H13 | 2001 | 3月9日～11日 | ARAI M&S PARK | 102 | 89 | 13 | ・クロスカントリースキーと共に開催 |
| 9 | H14 | 2002 | 2月15日～17日 | ARAI M&S PARK | 106 | 93 | 13 | ・クロスカントリースキーと共に開催 |
| 10 | H15 | 2003 | 3月7日～9日 | 安比高原スキー場 | 88 | 79 | 9 | ・この年より単独開催。 |
| 11 | H16 | 2004 | 2月22日～24日 | 京王赤倉チャンピオンスキー場 | 76 | 69 | 7 | |
| 12 | H17 | 2005 | 3月11日～13日 | 京王赤倉チャンピオンスキー場 | 70 | 62 | 8 | |
| 13 | H18 | 2006 | 2月2日～5日 | 八方尾根スキー場 | 67 | 59 | 8 | ・この年からIPC公認大会として実施 |
| 14 | H19 | 2007 | 2月1日～4日 | 八方尾根スキー場 | 62 | 53 | 9 | |
| 15 | H20 | 2008 | 1月29日～30日 | 八方尾根スキー場 | 46 | 39 | 7 | |
| 16 | H21 | 2009 | 3月20日～22日 | 八方尾根スキー場 | 41 | 37 | 4 | ・天皇陛下御即位20年記念大会 |
| 17 | H22 | 2010 | 2月9日～10日 | 八方尾根スキー場 | 40 | 36 | 4 | |
| 18 | H23 | 2011 | 3月20日～22日 | 八方尾根スキー場 | - | - | - | ・東日本大震災のため中止 |
| 19 | H24 | 2012 | 3月22日～26日 | 八方尾根スキー場 | 51 | 43 | 8 | この年より大会名称を「ジャンバラ」に改める ・イランより1名、オーストラリアより5名の選手が参加 |
| 20 | H25 | 2013 | 3月21日～24日 | 八方尾根スキー場 | 51 | 43 | 8 | ・韓国より2名、オーストラリアより2名の選手が参加 |
| 21 | H26 | 2014 | 1月25日～28日 | 八方尾根スキー場 | 50 | 41 | 9 | ・韓国より2名の選手が参加 |
| 22 | H27 | 2015 | 3月21日～24日 | 八方尾根スキー場 | 40 | 30 | 10 | ・韓国より1名の選手が参加 |
| 23 | H28 | 2016 | 3月20日～23日 | 八方尾根スキー場 | 34 | 25 | 9 | |
| 24 | H29 | 2017 | 3月18日～21日 | 八方尾根スキー場 | 32 | 25 | 7 | |
| 25 | H30 | 2018 | 2月2日～4日 | 菅平高原バインピークススキー場 | 38 | 27 | 11 | |
| 26 | H31 | 2019 | 3月27日～30日 | 八方尾根スキー場 | 33 | 24 | 9 | |

クロスカントリースキー競技 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | 参加選手数 | | | 特記事項 |
|----|-----|------|-----------|--------------------------------------|-------|----|----|---|
| | | | | | 計 | 男子 | 女子 | |
| 1 | H6 | 1994 | 2月18日～20日 | ブランシュたかやますキー場 | 16 | 13 | 3 | ・アルペンスキーと共に開催 |
| 2 | H7 | 1995 | 3月3日～5日 | ブランシュたかやますキー場 | 12 | 11 | 1 | ・アルペンスキーと共に開催 |
| 3 | H8 | 1996 | 3月8日～10日 | ブランシュたかやますキー場 | - | - | - | ・アルペンスキーと共に開催 |
| 4 | H9 | 1997 | 3月1日～3日 | ブランシュたかやますキー場 | 30 | 20 | 10 | ・アルペンスキーと共に開催 |
| 5 | H10 | 1998 | - | - | - | - | - | ・長野冬季パラリンピックのため実施せず |
| 6 | H11 | 1999 | 2月19日～21日 | ブランシュたかやますキー場 | 30 | 22 | 8 | ・アルペンスキーと共に開催 |
| 7 | H12 | 2000 | 3月10日～12日 | ARAI M&S PARK | 39 | 26 | 13 | ・アルペンスキーと共に開催 |
| 8 | H13 | 2001 | 3月9日～11日 | ARAI M&S PARK | 31 | 24 | 7 | ・アルペンスキーと共に開催 |
| 9 | H14 | 2002 | 2月15日～17日 | ARAI M&S PARK | 43 | 39 | 4 | ・アルペンスキーと共に開催 |
| 10 | H15 | 2003 | 3月7日～9日 | 野辺地かまど温泉スキー場 | 46 | 39 | 7 | ・この年より単独開催。 |
| 11 | H16 | 2004 | 2月21日～22日 | 池の平温泉スキー場 | 59 | 42 | 17 | |
| 12 | H17 | 2005 | 3月11日～13日 | 池の平温泉スキー場 | 33 | 24 | 9 | |
| 13 | H18 | 2006 | 2月17日～19日 | 白馬村スノーハープ | 31 | 24 | 7 | |
| 14 | H19 | 2007 | 3月2日～4日 | 白馬村スノーハープ | 34 | 28 | 6 | |
| 15 | H20 | 2008 | 2月22日～24日 | 白馬村スノーハープ | 29 | 25 | 4 | |
| 16 | H21 | 2009 | 2月20日～22日 | 白馬村スノーハープ 榑池高原スキー場 クロスカントリーコース | 26 | 21 | 5 | ・天皇陛下御即位20年記念大会 ・雪不足のため榑池クロスカントリーコースで 競技を実施 |
| 17 | H22 | 2010 | 1月8日～10日 | 富沢クロスカントリーコース | 40 | 35 | 5 | |
| 18 | H23 | 2011 | 2月4日 | 富沢クロスカントリーコース | 37 | 30 | 7 | ・韓国より選手参加 |
| 19 | H24 | 2012 | 2月17日～19日 | 白馬村スノーハープ | 31 | 27 | 4 | この年より大会名称を「ジャンバラ」に改める |
| 20 | H25 | 2013 | 2月8日～10日 | 白馬村スノーハープ | 31 | 27 | 4 | |
| 21 | H26 | 2014 | 1月25日～28日 | 富沢クロスカントリーコース | 44 | 38 | 6 | |
| 22 | H27 | 2015 | 3月6日～8日 | 白馬村スノーハープ | 27 | 24 | 3 | |
| 23 | H28 | 2016 | 2月12日～14日 | 白馬村スノーハープ | 26 | 21 | 5 | |

アイススレッジスピードレース競技 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | 参加選手数 | | | 特記事項 |
|---|-----|------|-----------|------------|-------|----|----|--|
| | | | | | 計 | 男子 | 女子 | |
| 1 | H7 | 1995 | 1月21日～22日 | 長野スケートセンター | 25 | 21 | 4 | ・アイススレッジホッケー競技と同時開催 |
| 2 | H8 | 1996 | 3月16日～17日 | 長野スケートセンター | 12 | 7 | 5 | ・アイススレッジホッケー競技と同時開催 |
| 3 | H9 | 1997 | 3月20日～23日 | ビッグハット | 16 | 11 | 5 | ・アイススレッジホッケー競技と同時開催 ・国際アイススレッジ競技会としても実施(参加 国：日本、ノルウェー) |
| 4 | H10 | 1998 | - | - | | | | ・長野冬季パラリンピックのため実施せず |
| 5 | H11 | 1999 | 2月26日 | ホワイトリング | 15 | 9 | 6 | ・アイススレッジホッケー競技と同時開催 |

アイススレッジホッケー競技 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | チーム数 | 特記事項 |
|---|-----|------|-----------|------------|------|--|
| 1 | H7 | 1995 | 1月21日～22日 | 長野スケートセンター | 2 | ・ノルウェーより講師招聘 |
| 2 | H8 | 1996 | 3月16日～17日 | 長野スケートセンター | 3 | |
| 3 | H9 | 1997 | 3月20日～23日 | ビッグハット | 3 | ・国際アイススレッジ競技会としても実施(参加 国：日本、スウェーデン、ノルウェー) |
| 4 | H10 | 1998 | - | - | - | ・長野冬季パラリンピックのため実施せず |
| 5 | H11 | 1999 | 2月26日 | ホワイトリング | 2 | ・大会に引き続き、国際アイススレッジホッケー 大会を実施(参加国：カナダ、ノルウェー、ス ウェーデン、日本) |
| 6 | H12 | 2000 | 2月12～13日 | やまびこスケートの森 | 3 | ・ショートトラック種目を実施(28選手が出場) |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | チーム数 | 特記事項 |
|----|-----|------|------------|------------|------|---|
| 7 | H13 | 2001 | 1月26日～28日 | やまびこスケートの森 | 4 | |
| 8 | H13 | 2001 | 12月15日～16日 | ビッグハット | 3 | |
| 9 | H15 | 2003 | 3月7日～9日 | 新井田アイスアリーナ | 5 | ・韓国代表チーム参加 |
| 10 | H16 | 2004 | 2月11日～12日 | やまびこスケートの森 | 3 | |
| 11 | H17 | 2005 | 2月13日 | やまびこスケートの森 | 4 | ・韓国代表チーム参加 |
| 12 | H17 | 2005 | 12月9日～10日 | やまびこスケートの森 | 3 | |
| 13 | H19 | 2007 | 1月13日～14日 | 大雪アイスアリーナ | 3 | ・初の北海道開催 |
| 14 | H20 | 2008 | 1月22日～26日 | 大雪アイスアリーナ | 4 | ・カナダ、ノルウェー、アメリカ参加 |
| 15 | H21 | 2009 | 1月13日～16日 | ビッグハット | 4 | ・天皇陛下御即位20年記念大会 ・カナダ、ノルウェー、アメリカ参加 |
| 16 | H22 | 2010 | 1月19日～24日 | ビッグハット | 4 | ・アメリカ、ノルウェー、チェコ参加 |
| 17 | H23 | 2011 | 3月10日～14日 | ビッグハット | 4 | ・アメリカ、ノルウェー、カナダ参加 ・東日本大震災により総当たり戦に変更 |

(7) 日本車いすバスケットボール選手権大会

車いすバスケットボールがわが国ではじめて紹介されたのは、昭和36(1961)年の「第1回大分県身体障害者体育大会」である。

その後、パラリンピック東京大会を契機に全国に広まり、やがて全国の身体障がい者施設でクラブチームが誕生した。そして昭和45(1970)年11月、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で「第1回車椅子バスケットボール競技大会」が開催された。その後、「全国車椅子バスケットボール競技大会」、「1974年全国車椅子バスケットボ

ール競技大会」と毎年開催され、さらに昭和50(1975)年5月に日本車椅子バスケットボール連盟(当時)が組織されたのを記念して「1975年日本車椅子バスケットボール連盟結成記念競技大会」が開催された。

そして翌昭和51(1976)年より大会名称を「日本車椅子バスケットボール選手権大会」に改め、第5回大会に位置付けた。昭和54(1979)年の第8回大会より内閣総理大臣杯を冠し開催され、平成30(2018)年の第46回大会より天皇盃を冠し開催されている。

車いすバスケットボール競技大会 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催場所 | 都市名 | チーム数 | 優勝チーム | 準優勝チーム | 皇室のご観覧 | その他特記事項 |
|---|-----|------|------------|-------------------------|---------|------|---------------------|---------------------|--------|--|
| 1 | S45 | 1970 | 11月29日 | 東京都立駒沢オリンピック公園総合運動場体育館 | 東京都世田谷区 | 7 | 労災リハビリテーション長野作業所チーム | 労災リハビリテーション千葉作業所チーム | | 第1回車椅子バスケットボール競技大会 |
| 2 | S46 | 1971 | 11月20日～21日 | 国立オリンピック記念青少年総合センター新体育館 | 東京都渋谷区 | 16 | 長野WBC | 労災リハビリテーション千葉作業所チーム | | 全国車椅子バスケットボール競技大会 |
| 3 | S49 | 1974 | 4月28日～29日 | 佼成学園体育館 | 東京都杉並区 | 20 | 長野WBC | 太陽の家WBC | | 1974年全国車椅子バスケットボール競技大会 |
| 4 | S50 | 1975 | 5月3日～4日 | 佼成学園体育館 | 東京都杉並区 | 16 | 長野WBC | 足立クラブ | | 1975年日本車椅子バスケットボール連盟結成記念競技大会 |
| 5 | S51 | 1976 | 5月2日～3日 | 佼成学園体育館 | 東京都杉並区 | 16 | 足立クラブ | 長野WBC | | 「日本車椅子バスケットボール選手権大会」と改称。過去4回を継続とした。 |
| 6 | S52 | 1977 | 4月30日～5月1日 | 佼成学園体育館 | 東京都杉並区 | 16 | 足立クラブ | 千葉作業所チーム | | |
| 7 | S53 | 1978 | 4月29日～30日 | 佼成学園体育館 | 東京都杉並区 | 16 | 長野WBC | 足立クラブ | | 内閣総理大臣杯が優勝チームに贈呈される。 |
| 8 | S54 | 1979 | 4月29日～30日 | 大阪市中央体育館 | 大阪市港区 | 18 | 千葉作業所チーム | 足立クラブ | | この年より「内閣総理大臣杯争奪」と付く。大阪市身体障害者スポーツセンター会館5周年記念大阪中央体育館開館20周年記念 |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催場所 | 都市名 | チーム数 | 優勝チーム | 準優勝チーム | 皇室のご観覧 | その他特記事項 |
|----|-----|------|------------|------------------------------|---------|------|---------------------|--------------|---------------------------------|--|
| 9 | S55 | 1980 | 4月27日～29日 | 佼成学園体育館 | 東京都杉並区 | 16 | 労災リハビリテーション千葉作業所チーム | 東京クラブ | | この年より(財)日本船舶振興会補助事業となる。 |
| 10 | S56 | 1981 | 5月3日～5日 | 佼成学園体育館 | 東京都杉並区 | 24 | 東京WBC | 千葉 | 皇太子御夫妻(今上天皇后両陛下)礼宮様、紀宮様のご観戦を賜る。 | 国際障害者年、第10回日本車椅子バスケットボール選手権大会を記念大会として開催。 |
| 11 | S57 | 1982 | 5月2日～3日 | 佼成学園体育館 | 東京都杉並区 | 16 | 千葉 | 東京WBC | | |
| 12 | S58 | 1983 | 4月30日～5月1日 | 東京都立駒沢オリンピック公園総合運動場屋内競技場、体育館 | 東京都世田谷区 | 18 | 東京WBC | 千葉 | | |
| 13 | S59 | 1984 | 4月29日～30日 | 東京都立駒沢オリンピック公園総合運動場屋内競技場、体育館 | 東京都世田谷区 | 18 | 北九州足立クラブ | 東京WBC | | |
| 14 | S60 | 1985 | 5月3日～4日 | 大分県立総合体育館 | 大分県大分市 | 16 | 千葉WBC | パラ神奈川スポーツクラブ | | 大分県身体障害者スポーツ協会創立25周年記念中村裕先生追悼大会 |
| 15 | S61 | 1986 | 5月3日～4日 | 佼成学園体育館 | 東京都杉並区 | 16 | 奈良ディアールWBC | パラ神奈川スポーツクラブ | | |
| 16 | S62 | 1987 | 5月3日～4日 | 東京都立駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場 | 東京都世田谷区 | 16 | 奈良ディアールWBC | パラ神奈川スポーツクラブ | | |
| 17 | S63 | 1988 | 5月4日～5日 | 東京都立駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場 | 東京都世田谷区 | 16 | 奈良ディアールWBC | パラ神奈川スポーツクラブ | | |
| 18 | H1 | 1989 | 5月3日～4日 | 神戸ポートアイランドホール | 神戸市中央区 | 18 | 東京WBC | パラ神奈川スポーツクラブ | | 1989年フェスピック神戸大会リハーサル大会 |
| 19 | H2 | 1990 | 5月3日～4日 | 東京都立夢の島総合体育館 | 東京都江東区 | 16 | パラ神奈川スポーツクラブ | 千葉ホークス | | |
| 20 | H3 | 1991 | 5月3日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 16 | 千葉ホークス | 埼玉ライオンズ | 天皇后両陛下に決勝戦をご観戦賜る。 | 開催20周年記念大会。第20回記念レセプション開催。永年貢献の8名に功労賞、41の企業等に感謝状を贈呈した。 |
| 21 | H4 | 1992 | 5月3日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 16 | 明和BBC | パラ神奈川スポーツクラブ | | |
| 22 | H5 | 1993 | 5月3日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 16 | パラ神奈川スポーツクラブ | 千葉ホークス | | |
| 23 | H6 | 1994 | 5月3日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 16 | 千葉ホークス | パラ神奈川スポーツクラブ | | |
| 24 | H7 | 1995 | 5月3日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 16 | 千葉ホークス | パラ神奈川スポーツクラブ | | |
| 25 | H8 | 1996 | 5月3日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 16 | 千葉ホークス | 三重パワーズ | 皇太子殿下同妃殿下のご観戦を賜る。 | 第25回記念大会 |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催場所 | 都市名 | チーム数 | 優勝チーム | 準優勝チーム | 皇室のご観覧 | その他特記事項 |
|----|-----|------|-----------|-------|--------|------|--------------|-----------|-------------------|--|
| 26 | H9 | 1997 | 5月3日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 16 | パラ神奈川スポーツクラブ | ワールドBC | | |
| 27 | H10 | 1998 | 5月3日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 18 | 千葉ホークス | 明和BBC | | |
| 28 | H11 | 1999 | 5月3日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 18 | ワールドBC | 千葉ホークス | 天皇后両陛下のご観戦を賜る。 | 天皇后陛下御即位10年記念大会。『ファンの集い』を5/3-4の両日各々4回実施、大会後には交流会を実施。 |
| 29 | H12 | 2000 | 5月3日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 17 | ワールドBC | 千葉ホークス | | パラ神奈川SC欠場により東京スポーツ愛好クラブがオープン参加。 |
| 30 | H13 | 2001 | 5月3日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 18 | ワールドBBC | 千葉ホークス | 天皇后両陛下のご観戦を賜る。 | 第30回記念大会 |
| 31 | H14 | 2002 | 5月3日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 20 | ワールドBBC | 千葉ホークス | | Kitakyushu Gold Cup 2002記念大会 |
| 32 | H15 | 2003 | 5月3日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 20 | 千葉ホークス | 明和BBC | | |
| 33 | H16 | 2004 | 5月3日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 20 | 明和BBC | 千葉ホークス | | |
| 34 | H17 | 2005 | 5月2日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 20 | 千葉ホークス | ワールドBBC | | |
| 35 | H18 | 2006 | 4月28日～30日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 20 | 千葉ホークス | 宮城MAX | 皇太子殿下同妃殿下のご観戦を賜る。 | |
| 36 | H19 | 2007 | 5月2日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 20 | 千葉ホークス | NO EXCUSE | | |
| 37 | H20 | 2008 | 5月2日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 20 | 宮城MAX | 千葉ホークス | | |
| 38 | H21 | 2009 | 5月4日～6日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 20 | 宮城MAX | 千葉ホークス | | 天皇后陛下御即位20年記念大会 |
| 39 | H22 | 2010 | 5月3日～5日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 20 | 宮城MAX | 千葉ホークス | | |
| | H23 | 2011 | | | | | | | | 東日本大震災の影響により中止 |
| 40 | H24 | 2012 | 5月2日～4日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 20 | 宮城MAX | NO EXCUSE | 天皇后両陛下のご観戦を賜る。 | 第40回記念大会 |
| 41 | H25 | 2013 | 5月3日～5日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 16 | 宮城MAX | NO EXCUSE | | |
| 42 | H26 | 2014 | 5月17日～18日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 16 | 宮城MAX | 千葉ホークス | | |
| 43 | H27 | 2015 | 5月4日～6日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 16 | 宮城MAX | 埼玉ライオンズ | | |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催場所 | 都市名 | チーム数 | 優勝チーム | 準優勝チーム | 皇室のご観覧 | その他特記事項 |
|----|-----|------|-----------|----------------|--------|------|-------|-----------|---------------|---------------------------|
| 44 | H28 | 2016 | 5月3日～5日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 16 | 宮城MAX | 千葉ホークス | | |
| 45 | H29 | 2017 | 5月3日～5日 | 東京体育館 | 東京都渋谷区 | 16 | 宮城MAX | NO EXCUSE | 皇太子御一家のご観戦を賜る | 第45回記念大会、第1回共生スポーツ祭りを同時開催 |
| 46 | H30 | 2018 | 5月19日～20日 | 武蔵野の森総合スポーツプラザ | 東京都調布市 | 8 | 宮城MAX | NO EXCUSE | | この年より「天皇盃」と付く |
| 47 | H31 | 2019 | 5月10日～12日 | 武蔵野の森総合スポーツプラザ | 東京都調布市 | 8 | 宮城MAX | 埼玉ライオンズ | | |
| 48 | R4 | 2022 | 1月21日～23日 | 武蔵野の森総合スポーツプラザ | 東京都調布市 | 13 | - | - | - | 新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止 |

(8) 日本女子車いすバスケットボール選手権大会

女子の車いすバスケットボールチームが誕生したのは昭和58(1983)年のことで、わずかに2チームであった。

その後、平成元(1989)年に行われたフェスティック神戸大会を記念して翌年より全日本女子車椅子バスケットボール選手権大会が開催されるようになった。

原則として大会は毎年神戸市で行われたが、阪神淡路大震災により1995年から1997年までの間は他県で開催された。

なお、平成30(2018)年の第29回大会より皇后盃を冠し開催されている。

女子車いすバスケットボール競技大会 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催場所 | 都市名 | チーム数 | 優勝チーム | 準優勝チーム | その他特記事項 |
|----|-----|------|--------------|----------------|---------|------|---------|---------|-----------------------------|
| 1 | H2 | 1990 | 11月17日～18日 | 神戸ポートアイランドホール | 神戸市中央区 | 9 | 東京グレース | WING | 全国男子ブロック選抜車椅子バスケットボール大会同時開催 |
| 2 | H3 | 1991 | 11月16日～17日 | 神戸ポートアイランドホール | 神戸市中央区 | 8 | 東京グレース | WING | 全国男子ブロック選抜車椅子バスケットボール大会同時開催 |
| 3 | H4 | 1992 | 11月14日～15日 | 神戸ポートアイランドホール | 神戸市中央区 | 8 | 東京グレース | WING | 全国男子ブロック選抜車椅子バスケットボール大会同時開催 |
| 4 | H5 | 1993 | 11月27日～28日 | 神戸ポートアイランドホール | 神戸市中央区 | 9 | 東京グレース | カクテル | 全国男子ブロック選抜車椅子バスケットボール大会同時開催 |
| 5 | H6 | 1994 | 10月22日～23日 | 神戸ポートアイランドホール | 神戸市中央区 | 9 | 東京グレース | 九州ドルフィン | 全国男子ブロック選抜車椅子バスケットボール大会同時開催 |
| 6 | H7 | 1995 | 8月5日～6日 | 横浜ラポール | 横浜市港北区 | 9 | 東京グレース | 九州ドルフィン | 阪神淡路大震災のため急遽開催地変更 |
| 7 | H8 | 1996 | 11月30日～12月1日 | 名古屋市稲永スポーツセンター | 愛知県名古屋市 | 10 | キャッツ | ELFIN | |
| 8 | H9 | 1997 | 11月17日～18日 | アクション福岡 | 福岡市博多区 | 8 | 九州ドルフィン | ELFIN | 第1回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催 |
| 9 | H10 | 1998 | 11月28日～29日 | グリーンアリーナ神戸 | 神戸市須磨区 | 9 | ELFIN | 九州ドルフィン | 第2回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催 |
| 10 | H11 | 1999 | 11月20日～21日 | グリーンアリーナ神戸 | 神戸市須磨区 | 9 | ELFIN | 九州ドルフィン | 第3回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催 |
| 11 | H12 | 2000 | 11月18日～19日 | グリーンアリーナ神戸 | 神戸市須磨区 | 9 | ELFIN | WING | 第4回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催 |
| 12 | H13 | 2001 | 11月17日～18日 | グリーンアリーナ神戸 | 神戸市須磨区 | 9 | ELFIN | WING | 第5回全国シニア選抜車椅子バスケットボール大会同時開催 |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催場所 | 都市名 | チーム数 | 優勝チーム | 準優勝チーム | その他特記事項 |
|----|-----|------|----------------|----------------|------------|------|----------------|----------------|---|
| 13 | H14 | 2002 | 10月12日 ～13日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 9 | ELFIN | 九州ドルフィン | 第6回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 |
| 14 | H15 | 2003 | 10月12日 ～13日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 8 | WING | 九州ドルフィン | 第7回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 |
| 15 | H16 | 2004 | 10月10日 ～11日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 9 | ELFIN | カクテル | 第8回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 |
| 16 | H17 | 2005 | 10月9日 ～10日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 8 | 九州ドルフィン | WING | 第9回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 |
| 17 | H18 | 2006 | 11月25日 ～26日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 8 | カクテル | WING | 第10回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 |
| 18 | H19 | 2007 | 11月3日 ～4日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 8 | カクテル | WING | 第11回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 |
| 19 | H20 | 2008 | 11月8日 ～9日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 8 | Brilliant Cats | カクテル | 第12回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 |
| 20 | H21 | 2009 | 11月7日 ～8日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 8 | カクテル | Brilliant Cats | 第13回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 |
| 21 | H22 | 2010 | 10月30日 ～31日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 8 | WING | カクテル | 第14回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 |
| 22 | H23 | 2011 | 11月26日 ～27日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 6 | SCRATCH | カクテル | 第15回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 |
| 23 | H24 | 2012 | 11月10日 ～11日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 7 | カクテル | SCRATCH | 第16回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 |
| 24 | H25 | 2013 | 11月2日 ～3日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 7 | ELFIN | カクテル | 第17回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 |
| 25 | H26 | 2014 | 11月15日 ～16日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 7 | カクテル | ELFIN | 第18回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 |
| 26 | H27 | 2015 | 11月21日 ～22日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 7 | カクテル | SCRATCH | 第19回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 |
| 27 | H28 | 2016 | 11月5日 ～6日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 7 | カクテル | Brilliant Cats | 第20回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 |
| 28 | H29 | 2017 | 7月15日 ～16日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 8 | カクテル | SCRATCH | 第21回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 |
| 29 | H30 | 2018 | 11月10日 ～11日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | 7 | カクテル | SCRATCH | 第22回全国シニア選抜車椅子バスケット ボール大会同時開催 この年より「皇后盃」と付く |
| 30 | R2 | 2020 | 1月12日 ～13日 | 神戸市中央体育館 | 神戸市 中央区 | 8 | カクテル | SCRATCH | |
| 31 | R3 | 2021 | 11月27日 ～28日 | グリーンアリーナ 神戸 | 神戸市 須磨区 | - | - | - | 新型コロナウイルス感染症拡大のため、 中止 |

(9)日本車いすツインバスケットボール選手権大会

車いすツインバスケットボールは、昭和40年代半ばから昭和50年代前半にかけて、頸髄損傷で車椅子を使用している四肢麻痺者のためにわが国のリハビリテーションセンターで生まれたスポーツである。その後、昭和57(1982)年に国立療養箱根病院と神奈川県総合リハビリテーションセンター間で親善試合が行われ、さらにその翌年には第12回日本車椅子バスケットボール選手権大会

にてデモンストレーションゲームが行われた。

しかしこの当時、施設ごとにルールが異なるなど統一されていなかったため、昭和61(1986)年2月にチーム代表者会議が開かれ統一ルールが制定された。

そして昭和62(1987)年12月、名古屋市において第1回日本車椅子ツインバスケットボール選手権大会が開催された。第10回大会より厚生大臣杯を冠する大会になり、第29回大会より文部科学大臣杯を冠する大会になった。

ツインバスケットボール競技大会 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催場所 | 都市名 | チーム数 | 優勝チーム | 準優勝チーム | 皇室のご観覧 | その他特記事項 |
|----|-----|------|-----------|--|-------|------|------------|--------------|---------------|---|
| 1 | S62 | 1987 | 12月6日 | 三好公園総合体育館 | 名古屋市 | 10 | ウォリアーズBBC | 名古屋フェニックスBBC | | |
| 2 | S63 | 1988 | 11月13日 | 東京都多摩障害者スポーツセンター | 東京都 | 12 | 名古屋フェニックス | 東京ウォリアーズ | | |
| 3 | H1 | 1989 | 5月4日 | 東京体育館 | 東京都 | 11 | 大阪グッパーズ | 東京ワンダラーズ | | 第18回日本車椅子バスケットボール選手権大会の中で「ツインバスケットボールの部」として実施 |
| 4 | H2 | 1990 | 6月17日 | 名古屋市稲永スポーツセンター | 名古屋市 | 10 | 名古屋フェニックス | 三河ジャガーズ | | |
| 5 | H3 | 1991 | 6月30日 | 神奈川県立中央地区体育センター／神奈川県総合リハビリテーションセンター体育館 | 神奈川県 | 12 | 名古屋フェニックス | 三河ジャガーズ | | |
| 6 | H4 | 1992 | 6月28日 | 姫路市体育館 | 兵庫県 | 8 | ワンダラーズBBC | 神奈川ジャンクス | | |
| 7 | H5 | 1993 | 6月20日 | 名古屋市稲永スポーツセンター | 名古屋市 | 8 | ネッカーズBBC | ワンダラーズBBC | | オープン試合としてジュニア戦(4チーム)を実施 |
| 8 | H6 | 1994 | 6月12日 | 横浜ラポール | 横浜市 | 8 | ワンダラーズBBC | 大阪グッパーズ | | |
| 9 | H7 | 1995 | 5月28日 | 大阪市中央体育館 | 大阪府 | 8 | 東京ウォリアーズ | 三河ジャガーズ | | |
| 10 | H8 | 1996 | 5月25日～26日 | 豊橋市総合体育館 | 愛知県 | 10 | 名古屋フェニックス | ネッカーズBBC | | この大会より厚生大臣杯を冠した大会になった |
| 11 | H9 | 1997 | 5月24日～25日 | 横浜ラポール | 横浜市 | 12 | 横浜レッドブリックス | 東京ウォリアーズ | | |
| 12 | H10 | 1998 | 5月23日～24日 | 佐世保市体育文化館 | 長崎県 | 12 | ワンダラーズBBC | 沖縄フェニックス | | |
| 13 | H11 | 1999 | 5月22日～23日 | 新潟市東総合スポーツセンター | 新潟県 | 12 | ワンダラーズWSC | ロス・キホーテス | | |
| 14 | H12 | 2000 | 5月27日～28日 | 岡山市総合文化体育館 | 岡山県 | 12 | ロス・キホーテス | 名古屋フェニックス | | |
| 15 | H13 | 2001 | 5月19日～20日 | 豊橋市総合体育館 | 愛知県 | 12 | ロス・キホーテス | 神奈川ジャンクス | | |
| 16 | H14 | 2002 | 5月11日～12日 | 千葉ポートアリーナ | 千葉県 | 12 | 沖縄フェニックス | 千葉ピーナッツ | | |
| 17 | H15 | 2003 | 7月19日～20日 | べっぶアリーナ | 大分県 | 12 | 沖縄フェニックス | Horsetail | 高円宮妃殿下のご観戦を賜る | |
| 18 | H16 | 2004 | 5月2日～23日 | グランディ・21 | 宮城県 | 12 | 太陽の家ブレイカーズ | 沖縄フェニックス | 高円宮妃殿下のご観戦を賜る | |
| 19 | H17 | 2005 | 5月14日～15日 | くろしおアリーナ | 高知県 | 13 | KINGS | 横浜レッドブリックス | 高円宮妃殿下のご観戦を賜る | |
| 20 | H18 | 2006 | 5月27日～28日 | Vアリーナ | さいたま市 | 14 | 横浜レッドブリックス | Horsetail | 高円宮妃殿下のご観戦を賜る | |
| 21 | H19 | 2007 | 6月2日～3日 | スカイホール豊田 | 愛知県 | 14 | 神奈川ジャンクス | Horsetail | 高円宮妃殿下のご観戦を賜る | |
| 22 | H20 | 2008 | 6月7日～8日 | 沖縄県立武道館 | 沖縄県 | 14 | 沖縄フェニックス | キャロット | 高円宮妃殿下のご観戦を賜る | |
| 23 | H21 | 2009 | 6月6日～7日 | 新潟市東総合スポーツセンター | 新潟市 | 14 | 沖縄フェニックス | キャロット | 高円宮妃殿下のご観戦を賜る | |
| 24 | H22 | 2010 | 6月12日～13日 | パークアリーナ小牧 | 愛知県 | 12 | 神奈川ジャンクス | 沖縄フェニックス | | |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催場所 | 都市名 | チーム数 | 優勝チーム | 準優勝チーム | 皇室のご観覧 | その他特記事項 |
|----|-----|------|-----------|------------|-----|------|-----------|-----------|---------------|-------------------------|
| | H23 | 2011 | | | | | | | | 東日本大震災により中止 |
| 25 | H24 | 2012 | 6月2日～3日 | パークアリーナ小牧 | 愛知県 | 14 | 神奈川ジャンクス | Horsetail | | |
| 26 | H25 | 2013 | 6月8日～9日 | パークアリーナ小牧 | 愛知県 | 14 | Horsetail | 神奈川ジャンクス | | |
| 27 | H26 | 2014 | 6月7日～8日 | パークアリーナ小牧 | 愛知県 | 14 | Horsetail | 神奈川ジャンクス | 高円宮妃殿下のご観戦を賜る | |
| 28 | H27 | 2015 | 6月13日～14日 | パークアリーナ小牧 | 愛知県 | 12 | Horsetail | キャロッツ | | |
| 29 | H28 | 2016 | 6月11日～12日 | パークアリーナ小牧 | 愛知県 | 12 | Horsetail | 大阪グッパーズ | | この大会より文部科学大臣杯を冠した大会になった |
| 30 | H29 | 2017 | 6月10日～11日 | パークアリーナ小牧 | 愛知県 | 12 | Horsetail | バスターズ | | |
| 31 | H30 | 2018 | 6月9日～10日 | アミューズ豊田 | 静岡県 | 12 | 神奈川JUNKS | キャロッツ | | |
| 32 | R1 | 2019 | 6月22日～23日 | 墨田区総合体育館 | 東京都 | 12 | 神奈川JUNKS | Horsetail | 高円宮妃殿下のご観戦を賜る | |
| 33 | R2 | 2020 | 6月13日～14日 | おおきにアリーナ舞洲 | 大阪府 | - | - | - | - | 新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止 |

(10)全国車いす駅伝競走大会

1988年に開催された第24回全国身体障害者スポーツ大会の公開競技として実施。

その後、1990年に名称を「全国車いす駅伝競走大会」と

して毎年開催されるようになった。

なお、平成30(2018)年の第29回大会より天皇盃を冠し開催されている。

車いす駅伝競走大会 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催地 | チーム数 | 団体戦(男子のみ) | |
|----|-----|------|-------|-----|------|-----------|-----|
| | | | | | | 1位 | 2位 |
| 1 | H2 | 1990 | 2月25日 | 京都 | 23 | 大阪A | 山口 |
| 2 | H3 | 1991 | 2月24日 | 京都 | 32 | 山口 | 神戸市 |
| 3 | H4 | 1992 | 2月23日 | 京都 | 34 | 大阪A | 山口 |
| 4 | H5 | 1993 | 2月21日 | 京都 | 40 | 山口 | 神戸市 |
| 5 | H6 | 1994 | 2月27日 | 京都 | 38 | 神戸市 | 山口 |
| 6 | H7 | 1995 | 3月12日 | 京都 | 33 | 京都A | 和歌山 |
| 7 | H8 | 1996 | 2月25日 | 京都 | 37 | 山口 | 神戸市 |
| 8 | H9 | 1997 | 2月23日 | 京都 | 36 | 神戸市 | 山口 |
| 9 | H10 | 1998 | 2月22日 | 京都 | 36 | 神戸市 | 山口 |
| 10 | H11 | 1999 | 2月28日 | 京都 | 33 | 神戸市 | 京都A |
| 11 | H12 | 2000 | 2月27日 | 京都 | 33 | 大分 | 山口 |
| 12 | H13 | 2001 | 2月25日 | 京都 | 31 | 大分 | 山口 |
| 13 | H14 | 2002 | 2月24日 | 京都 | 28 | 大分 | 京都A |
| 14 | H15 | 2003 | 2月23日 | 京都 | 30 | 大分 | 京都A |
| 15 | H16 | 2004 | 2月29日 | 京都 | 33 | 大分 | 北九州 |
| 16 | H17 | 2005 | 2月27日 | 京都 | 27 | 大分 | 福岡 |
| 17 | H18 | 2006 | 2月26日 | 京都 | 28 | 大分 | 福岡 |
| 18 | H19 | 2007 | 2月25日 | 京都 | 32 | 大分A | 福岡 |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催地 | チーム数 | 団体戦(男子のみ) | |
|----|-----|------|-------|-----|------------------------------|-----------|-----|
| | | | | | | 1位 | 2位 |
| 19 | H20 | 2008 | 2月24日 | 京都 | 27 | 福岡 | 大分A |
| 20 | H21 | 2009 | 2月22日 | 京都 | 30 | 京都A | 大分A |
| 21 | H22 | 2010 | 2月21日 | 京都 | 28 | 京都A | 大分A |
| 22 | H23 | 2011 | 2月20日 | 京都 | 29 | 大阪A | 大分A |
| 23 | H24 | 2012 | 2月19日 | 京都 | 25 | 福岡 | 京都A |
| 24 | H25 | 2013 | 2月17日 | 京都 | 28 | 福岡 | 大分A |
| 25 | H26 | 2014 | 3月9日 | 京都 | 26 | 福岡 | 大分A |
| 26 | H27 | 2015 | 3月8日 | 京都 | 24 | 福岡A | 東京 |
| 27 | H28 | 2016 | 3月13日 | 京都 | 23 | 東京 | 岡山 |
| 28 | H29 | 2017 | 3月12日 | 京都 | 18 | 大分A | 福岡 |
| 29 | H30 | 2018 | 3月11日 | 京都 | 23 | 大分A | 福岡A |
| 30 | H31 | 2019 | 3月10日 | 京都 | 25 (オープン参加の健常者チーム1チームを含む) | 福岡A | 大分A |
| 31 | R2 | 2020 | 3月8日 | 京都 | ※新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止 | | |
| 32 | R3 | 2021 | 3月14日 | 京都 | ※新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止 | | |

(11)大分国際車いすマラソン大会

別府太陽の家の中村裕理事長の提唱により、大分県の「国際障害者年」の記念事業として、昭和56(1981)年より世界初の車いす単独のマラソンが行われることになった。

大会の準備段階では、フルマラソンを完走できるかどうかが疑問視されていたため第2回大会までハーフマラソンのみが行われていた。

その後、第3回大会から国際ストーク・マンデビル車いすスポーツ連盟(ISMWSF)公認大会として開催されるようになり、ハーフマラソンに加えフルマラソンも実施されるようになった。

第27回大会から国際パラリンピック委員会(IPC)公認大会として開催されている

大分国際車いすマラソン大会 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 選手数 | | 備考 |
|---|-----|------|--------|-----|-----|------------------------------|
| | | | | フル | ハーフ | |
| 1 | S56 | 1981 | 11月1日 | - | 117 | ハーフマラソンのみ |
| 2 | S57 | 1982 | 10月24日 | - | 118 | ハーフマラソンのみ |
| 3 | S58 | 1983 | 11月13日 | 57 | 61 | フルマラソン及びハーフマラソンISMWSF公認大会となる |
| 4 | S59 | 1984 | 11月11日 | 76 | 90 | |
| 5 | S60 | 1985 | 11月10日 | 66 | 119 | 皇太子殿下・同妃殿下ご臨席 |
| 6 | S61 | 1986 | 11月2日 | 80 | 134 | |
| 7 | S62 | 1987 | 11月1日 | 69 | 88 | 本大会より技術セミナーを行った。 |
| 8 | S63 | 1988 | 11月6日 | 120 | 189 | 浩宮殿下ご臨席 |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 選手数 | | 備考 |
|----|-----|------|--------|-----|-----|--|
| | | | | フル | ハーフ | |
| 9 | H1 | 1989 | 11月5日 | 130 | 174 | 常陸宮殿下、同妃殿下ご臨席 |
| 10 | H2 | 1990 | 10月28日 | 195 | 214 | 秋篠宮殿下、同妃殿下ご臨席記念大会。視覚障害タンDEM(二人乗自転車)サイクリング実施。 |
| 11 | H3 | 1991 | 11月4日 | 184 | 283 | 高円宮殿下、同妃殿下ご臨席 |
| 12 | H4 | 1992 | 11月1日 | 168 | 262 | |
| 13 | H5 | 1993 | 10月31日 | 171 | 229 | |
| 14 | H6 | 1994 | 10月30日 | 190 | 277 | |
| 15 | H7 | 1995 | 10月29日 | 198 | 235 | 清子内親王殿下ご臨席 |
| 16 | H8 | 1996 | 11月9日 | 194 | 409 | |
| 17 | H9 | 1997 | 11月2日 | 183 | 216 | |
| 18 | H10 | 1998 | 11月1日 | 205 | 229 | 寛仁親王殿下、同妃殿下ご臨席 |
| 19 | H11 | 1999 | 10月31日 | 168 | 214 | |
| 20 | H12 | 2000 | 11月12日 | 175 | 242 | 寛仁親王殿下ご臨席 |
| 21 | H13 | 2001 | 11月11日 | 197 | 265 | |
| 22 | H14 | 2002 | 10月20日 | 171 | 248 | |
| 23 | H15 | 2003 | 11月16日 | 151 | 197 | |
| 24 | H16 | 2004 | 10月31日 | 145 | 174 | |
| 25 | H17 | 2005 | 10月30日 | 164 | 199 | |
| 26 | H18 | 2006 | 10月29日 | 109 | 171 | |
| 27 | H19 | 2007 | 10月28日 | 98 | 148 | IPC公認大会となる |
| 28 | H20 | 2008 | 11月9日 | 102 | 146 | |
| 29 | H21 | 2009 | 11月25日 | 109 | 193 | |
| 30 | H22 | 2010 | 11月14日 | 139 | 211 | 第30回記念大会、皇太子殿下ご臨席 |
| 31 | H23 | 2011 | 10月30日 | 89 | 131 | |
| 32 | H24 | 2012 | 10月28日 | 91 | 143 | |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 選手数 | | 備考 |
|----|-----|------|--------|-----|-----|---|
| | | | | フル | ハーフ | |
| 33 | H25 | 2013 | 10月26日 | 91 | 156 | |
| 34 | H26 | 2014 | 11月9日 | 81 | 152 | |
| 35 | H27 | 2015 | 11月8日 | 77 | 155 | |
| 36 | H28 | 2016 | 10月29日 | 57 | 173 | |
| 37 | H29 | 2017 | 10月29日 | - | - | 台風により中止 |
| 38 | H30 | 2018 | 11月18日 | 68 | 155 | |
| 39 | R1 | 2019 | 11月17日 | 83 | 153 | |
| ※ | R2 | 2020 | 11月15日 | 22 | 77 | 新型コロナウイルス感染症拡大のため、国内選手のみ参加の大会「大分車いすマラソン2020」として開催 |
| 40 | R3 | 2021 | 11月21日 | 24 | 103 | オンラインにより秋篠宮殿下同妃殿下ご臨席 |

(12)全国ろうあ者体育大会

戦後、ろうあ者のスポーツは、全日本ろうあ連盟体育部を中心に、野球、陸上競技、卓球等の大会が個々に開催されていた。

このような状況下、昭和39(1964)年に東京オリンピックが開催されたが、同大会にハンガリーやドイツからろうあ者が出場したことが話題となった。また、オリンピック出場選手とは別に国際ろうあ者スポーツ委員会(旧 国際聴覚障がい者スポーツ連盟)副会長のロビー・バーンズ氏が来日したことが契機となり、世界ろうあ者競技大会への

参加に関する機運が高まった。

このような経緯を経て、これまで個々に開催されてきた野球、陸上競技、卓球の各大会をまとめ、ろうあ者の総合体育大会を開催することが強く望まれるようになった。

そして昭和42(1967)年、第1回全国ろうあ者体育大会が開催され、以後、毎年開催されるようになった。

また冬季大会については、翌昭和43(1968)年2月より開催されるようになった。

全国ろうあ者体育大会 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催地 | 参加数 | 競 技 種 目 | | | | | | | | | | | | |
|---|-----|------|-------------|------|-----|---------|----|----|--------|------|-----|--------|-------|--------|--------|----------|----|------|
| | | | | | | 野球 | 卓球 | 陸上 | バレーボール | サッカー | テニス | ゲートボール | ボウリング | バドミントン | ソフトボール | バスケットボール | 柔道 | 軟式庭球 |
| 1 | S42 | 1967 | 10月23日～24日 | 東京都 | 500 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| 2 | S43 | 1968 | 9月7日～8日 | 神奈川県 | 562 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| 3 | S44 | 1969 | 9月21日～22日 | 石川県 | 400 | ○ | ○ | | | | | | | | | | | |
| 4 | S45 | 1970 | 10月3日～ | 岐阜県 | 720 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| 5 | S46 | 1971 | 10月3日～4日 | 徳島県 | 410 | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | | | |
| 6 | S47 | 1972 | 9月30日～10月2日 | 兵庫県 | 609 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| 7 | S48 | 1973 | 10月6日～7日 | 大分県 | 638 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催地 | 参加数 | 競 技 種 目 | | | | | | | | | | | | |
|----|-----|------|-----------|------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|----------|---------|---------|---------|----------|----|------|
| | | | | | | 野球 | 卓球 | 陸上 | バレーボール | サッカー | テニス | ゲートボール | ボウリング | バドミントン | ソフトボール | バスケットボール | 柔道 | 軟式庭球 |
| 8 | S49 | 1974 | 9月21日～24日 | 神奈川県 | 702 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| 9 | S50 | 1975 | 9月19日～21日 | 秋田県 | 604 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| 10 | S51 | 1976 | 9月11日～12日 | 京都府 | 800 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| 11 | S52 | 1977 | 9月14日～18日 | 広島県 | 800 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| 12 | S53 | 1978 | 9月20日～24日 | 高知県 | 1,100 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | |
| 13 | S54 | 1979 | 9月12日～16日 | 北海道 | 700 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ | ○ | |
| 14 | S55 | 1980 | 9月11日～15日 | 愛知県 | 1,000 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ | ○ | |
| 15 | S56 | 1981 | 9月16日～20日 | 宮崎県 | 900 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ | ○ | |
| 16 | S57 | 1982 | ※1 | 分散 | 760 | ○ 福岡 | ○ 東京 | ○ 大阪 | ○ 福岡 | ○ 東京 | ○ 大阪 | | | | | ○ | | |
| 17 | S58 | 1983 | 9月14日～18日 | 青森県 | 1,100 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | | |
| 18 | S59 | 1984 | 9月12日～16日 | 静岡県 | 1,000 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | | ○ | |
| 19 | S60 | 1985 | 9月12日～16日 | 滋賀県 | 1,117 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | |
| 20 | S61 | 1986 | 9月13日～15日 | 分散 | 1,160 | ○ 高知 | ○ 高知 | ○ 愛媛 | ○ 香川 | 中止 | ○ 大阪 | | | | | | | |
| 21 | S62 | 1987 | 9月11日～13日 | 山口県 | 1,265 | ○ | ○ | ○ | ○ | ◆ | ○ | ○ | | | | | | |
| 22 | S63 | 1988 | 9月16日～18日 | 山梨県 | 1,600 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | |
| 23 | H1 | 1989 | 9月15日～17日 | 三重県 | — | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | |
| 24 | H2 | 1990 | 9月14日～16日 | 熊本県 | 1,305 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | |
| 25 | H3 | 1991 | 9月12日～16日 | 北海道 | 1,500 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◆ | | ○ | | |
| 26 | H4 | 1992 | 9月9日～13日 | 新潟県 | 3,263 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◆ | ◆ | ○ | | |
| 27 | H5 | 1993 | 9月7日～12日 | 奈良県 | 2,383 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | |
| 28 | H6 | 1994 | 9月13日～18日 | 山形県 | 1,836 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | |
| 29 | H7 | 1995 | 9月5日～10日 | 茨城県 | 1,883 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 30 | H8 | 1996 | 9月10日～15日 | 大分県 | 1,658 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 31 | H9 | 1997 | 9月9日～14日 | 香川県 | 1,700 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 32 | H10 | 1998 | 9月1日～6日 | 広島県 | 1,600 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 33 | H11 | 1999 | 9月14日～19日 | 福岡県 | 1,836 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◆ | | | |
| 34 | H12 | 2000 | ※2 | 分散 | 3,396 | ○ 新潟 | ○ 高知 | 中止 | ○ 大阪 | ○ 京都 | ○ 長野 | ○ 神奈川 | ○ 岡山 | ○ 秋田 | ○ 埼玉 | ○ 三重 | | |
| 35 | H13 | 2001 | 9月13日～16日 | 和歌山県 | 1,910 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 36 | H14 | 2002 | 9月13日～16日 | 宮城県 | 1,876 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 37 | H15 | 2003 | 9月12日～15日 | 長野県 | 1,882 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 38 | H16 | 2004 | 9月16日～19日 | 岐阜県 | 1,879 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| 39 | H17 | 2005 | 9月22日～25日 | 長崎県 | 1,506 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催地 | 参加数 | 競 技 種 目 | | | | | | | | | | | | | |
|----|-----|------|-------------|-------------|-------|---------|---------|----|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|----------|----|------|-------|
| | | | | | | 野球 | 卓球 | 陸上 | バレーボール | サッカー | テニス | ゲートボール | ボウリング | バドミントン | ソフトボール | バスケットボール | 柔道 | 軟式庭球 | フットサル |
| 40 | H18 | 2006 | 9月14日～17日 | 栃木県 | 1,806 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 41 | H19 | 2007 | 9月13日～16日 | 岡山県 | 1,640 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 42 | H20 | 2008 | 9月12日～14日 | 大阪府 | 1,695 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 43 | H21 | 2009 | 9月19日～22日 | 福島県 | 1,363 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 44 | H22 | 2010 | 9月16日～19日 | 徳島県 | 1,400 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 45 | H23 | 2011 | 9月15日～18日 | 愛知県 | 1,620 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 46 | H24 | 2012 | 9月13日～16日 | 千葉県 | 1,502 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 47 | H25 | 2013 | 9月12日～15日 | 富山県 | 1,394 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 48 | H26 | 2014 | 9月25日～28日 | 沖縄県 | 1,136 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 49 | H27 | 2015 | 9月17日～20日 | 京都府 | 1,562 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 50 | H28 | 2016 | 9月15日～18日 | 分散 | 1,171 | ○ 青森 | ○ 山形 | | ○ 福島 | ○ 秋田 | ○ 山形 | | ○ 福島 | ○ 秋田 | ○ 宮城 | ○ 宮城 | | | |
| 51 | H29 | 2017 | 9月21日～24日 | 静岡県 | 1,433 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | |
| 52 | H30 | 2018 | 9月20日～23日 | 埼玉県 | 1,437 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ◆ |
| 53 | R1 | 2019 | 9月19日～22日 | 鳥取県・ 島根県 | 1,309 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ◆ |
| 54 | R2 | 2020 | 9月18日～10月4日 | 九州 | - | 中止 | 中止 | 中止 | 中止 | 中止 | 中止 | | 中止 | 中止 | 中止 | 中止 | | | 中止 |
| 55 | R3 | 2020 | 9月16日～9月19日 | 兵庫 | - | 中止 | 中止 | 中止 | 中止 | 中止 | 中止 | | 中止 | 中止 | 中止 | 中止 | | | 中止 |

※1 9月4日(サッカー)11月25日～26日(卓球)9月18日～19日(陸上・テニス・柔道)10月20日～21日(野球・バレー)

※2 9月1日～3日(バレーボール)、9月8日～10日(ソフトボール)、9月15日～17日(卓球、サッカー、ボウリング、バスケットボール)、9月22日～24日(野球、テニス、バドミントン)

※3 ◆=オープン

全国ろうあ者冬季体育大会 年表

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | 参加数 | 種 目 | | |
|---|-----|------|-----------|------------------|-----|-------------|-----------|------------|
| | | | | | | アルペン スキー | 技術 スキー | スノー ボード |
| 1 | S43 | 1968 | 2月4日～6日 | 群馬県／武尊オリンピックスキー場 | 160 | ○ | | |
| 2 | S44 | 1969 | 2月3日～5日 | 新潟県／赤倉スキー場 | | ○ | | |
| 3 | S45 | 1970 | 2月4日～6日 | 宮城県／鳴子花淵山スキー場 | 55 | ○ | | |
| 4 | S47 | 1972 | 2月27日～29日 | 新潟県／上越国際スキー場 | | ○ | | |
| 5 | S49 | 1974 | 3月3日～5日 | 長野県／志賀高原一の瀬スキー場 | 230 | ○ | | |
| 6 | S50 | 1975 | 2月21日～23日 | 北海道／小樽天狗山国設スキー場 | | ○ | | |
| 7 | S51 | 1976 | 2月6日～8日 | 鳥取県／大山国際スキー場 | 120 | ○ | | |
| 8 | S52 | 1977 | 2月21日～23日 | 新潟県／上越国際スキー場 | 120 | ○ | | |
| 9 | S53 | 1978 | 2月12日～15日 | 岐阜県／流葉スキー場 | 100 | ○ | | |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | 参加数 | 種 目 | | |
|----|-----|------|------------|-------------------------|-----|-------------|-----------|------------|
| | | | | | | アルペン スキー | 技術 スキー | スノー ボード |
| 10 | S54 | 1979 | 2月5日～8日 | 群馬県／草津スキー場 | 86 | ○ | | |
| 11 | S55 | 1980 | 3月6日～9日 | 富山県／粟巣野スキー場 | — | ○ | | |
| 12 | S56 | 1981 | 2月25日～28日 | 山形県／蔵王スキー場 | — | ○ | | |
| 13 | S57 | 1982 | 2月24日～27日 | 岐阜県／朴の木平スキー場 | 95 | ○ | | |
| 14 | S58 | 1983 | 3月6日～9日 | 秋田県／田沢湖スキー場 | — | ○ | | |
| 15 | S59 | 1984 | 2月9日～12日 | 北海道／小樽天狗山国設スキー場 | 132 | ○ | | |
| 16 | S60 | 1985 | 2月21日～24日 | 新潟県／小田急石打スキー場 | 167 | ○ | | |
| 17 | S61 | 1986 | 2月12日～15日 | 岐阜県／朴の木平スキー場 | 130 | ○ | | |
| 18 | S62 | 1987 | 2月25日～28日 | 石川県／白峰スキー場 | 中止 | ○ | | |
| 19 | S63 | 1988 | 3月2日～5日 | 岐阜県／流葉スキー場 | 70 | ○ | | |
| 20 | H1 | 1989 | 2月15日～18日 | 兵庫県／奥神鍋スキー場(中止) | | | | |
| 21 | H2 | 1990 | 2月27日～3月2日 | 岩手県／安比高原スキー場 | 95 | ○ | | |
| 22 | H3 | 1991 | 3月3日～6日 | 長野県／斑尾高原スキー場 | 182 | ○ | | |
| 23 | H4 | 1992 | 2月17日～19日 | 群馬県／水上・奥利根国際スキー場 | 200 | ○ | | |
| 24 | H5 | 1993 | 2月24日～26日 | 岐阜県／鷲ヶ岳スキー場 | 212 | ○ | | |
| 25 | H6 | 1994 | 2月27日～3月2日 | 北海道／サホロスキー場 | 180 | ○ | | |
| 26 | H7 | 1995 | 2月28日～3月2日 | 新潟県／上越国際スキー場 | 132 | ○ | ○ | |
| 27 | H8 | 1996 | 2月28日～3月1日 | 青森県／大鱈国際スキー場 | 75 | ○ | ○ | |
| 28 | H9 | 1997 | 2月20日～22日 | 北海道／朝里川温泉スキー場 | 94 | ○ | ○ | |
| 29 | H10 | 1998 | 1月29日～2月1日 | 北海道／阿寒湖畔スキー場 | — | ○ | ○ | |
| 30 | H11 | 1999 | 2月18日～21日 | 長野県／野沢温泉スキー場 飯山市北竜湖スキー場 | 170 | ○ | ○ | |
| 31 | H12 | 2000 | 2月17日～20日 | 山梨県／キッツメドウズ大泉・清里スキー場 | 107 | ○ | ○ | ○ |
| 32 | H13 | 2001 | 中止 | | | | | |
| 33 | H14 | 2002 | 2月14日～17日 | 山形県／赤倉温泉スキー場 | 134 | ○ | ○ | ○ |
| 34 | H15 | 2003 | 3月13日～16日 | 北海道／名寄 | 80 | ○ | ○ | ○ |
| 35 | H16 | 2004 | 2月26日～29日 | 富山県／大山町極楽坂スキー場 | 71 | ○ | ○ | ○ |
| 36 | H17 | 2005 | 2月16日～20日 | 群馬県／尾瀬戸倉スキー場 | 92 | ○ | ○ | ○ |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 会場 | 参加数 | 種 目 | | |
|----|-----|------|-------------|-----------------------------|-----|-------------|-----------|------------|
| | | | | | | アルペン スキー | 技術 スキー | スノー ボード |
| 37 | H18 | 2006 | 2月2日～5日 | 岩手県／雫石スキー場 | 99 | ○ | ○ | ○ |
| 38 | H19 | 2007 | 2月23日～25日 | 岐阜県／モンデウス飛騨位山 スノーパーク スキー場 | 53 | ○ | ○ | ○ |
| 39 | H20 | 2008 | 中止 | | | | | |
| 40 | H21 | 2009 | 中止 | | | | | |
| 41 | H22 | 2010 | 2月19日～21日 | 北海道／小樽市天狗山国設スキー場 | 51 | ○ | ○ | ○ |
| 42 | H26 | 2014 | 中止 | | | | | |
| 43 | H30 | 2018 | 2月10日～12日 | 岩手県／雫石スキー場 | 50 | ○ | ○ | ○ |
| 44 | R4 | 2022 | 2月11日～2月13日 | 福井県／九頭竜スキー場およびDAINO スポーツランド | | | | |

※41回大会以降は、4年に1度、デフリンピック冬季大会の前年に行うことになった。

3.養成研修事業

厚生省は、昭和40(1965)年から全国身体障害者スポーツ大会が開催されるようになったことを契機に「身体障害者スポーツ指導者講習会」を当協会に委託し、昭和41(1966)年より開催するようになった。

当初の開催目的は「身体障害者の機能訓練の促進とスポーツの振興」であったが、昭和43(1968)年からは「身体障害者指導者認定講習会」として、身体障がい者のスポーツの健全な普及・振興を目的に行われるようになった。また、昭和48(1973)年からは名称を「身体障害者スポーツ指導者研修会」とし、12日間にわたる研修会を行うようになった。さらに、この年から地方研修会も併せて行われるようになった。その後、中央研修会や地方研修会に加え、すでに指導経験のある指導者を対象とした特別研修会なども行われるようになった。

当協会では、これら研修を受けた指導者の組織的活動を推進するため、昭和60(1985)年に「財団法人日本身体障害者スポーツ協会公認身体障害者スポーツ指導者制度」を発足させた。

この制度による資格は、身体障害者スポーツ指導員(現初級)、上級身体障害者スポーツ指導員(現 中級)、特別上級身体障害者スポーツ指導員(現 上級)、身体障害者スポーツコーチ(現 スポーツコーチ)であった。

その後、平成5(1993)年には「財団法人日本身体障害者スポーツ協会公認身体障害者スポーツ指導員資格取得認

定校」を指定する制度を発足し、平成13(2001)年には、財団法人日本体育協会(現(公財)日本スポーツ協会)公認指導員を、平成14(2002)年には(公社)日本理学療法士協会登録理学療法士を対象とした中級指導員養成講習会の開催、平成17(2005)年には、「財団法人日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ医」を新しい資格として確立した。

また、平成21(2009)年、制度の名称を、「財団法人日本障害者スポーツ協会公認資格認定制度」と改称し、資格取得方法を整理した。同年には、「財団法人日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツトレーナー」が確立された。

なお、障害者スポーツコーチは、平成8(1996)年にその在り方について技術委員会等で検討され、翌平成9(1997)年より研修期間を3年間で15日間(1年に5日間)の研修会とした。のち、平成12年、15年の改正を経て、平成23年(2011年)より、1年間で取得可能な前後期制の導入に至った。

平成26(2014)年、協会名称「公益財団法人日本障がい者スポーツ協会」への標記変更に伴い、「障がい」に関する標記について整理した。

障がい者スポーツ指導員養成講習会の基準カリキュラムは、国の施策やスポーツ界の動向、障がい者の状況等を見据え、技術委員会を中心に検討が図られており、令和2(2020)年度に初級・中級・上級障がい者スポーツ指導員の養成講習会基準カリキュラムの改正を行った。

障がい者スポーツ指導者数の推移(1991年以降)

(人)

| | 91 | 92 | 93 | 94 | 95 | 96 | 97 | 98 | 99 | 00 | 01 | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 初級 | 1,022 | 1,538 | 2,250 | 2,983 | 3,921 | 5,150 | 6,639 | 8,156 | 10,257 | 12,235 | 14,260 | 16,276 | 17,568 | 17,703 | 18,872 | 19,438 | 19,626 | 18,603 | 18,871 | 18,706 | 18,841 | 18,778 | 18,292 | 18,810 | 19,020 | 19,278 | 20,494 | 21,435 | 22,025 | 20,370 | 20,982 |
| 中級 | 234 | 251 | 286 | 305 | 360 | 400 | 456 | 563 | 693 | 853 | 965 | 1,135 | 1,384 | 1,598 | 1,833 | 1,895 | 2,114 | 2,138 | 2,253 | 2,322 | 2,395 | 2,448 | 2,519 | 2,663 | 2,859 | 3,117 | 3,370 | 3,717 | 3,992 | 3,989 | 4,125 |
| 上級 | 63 | 71 | 85 | 94 | 114 | 143 | 174 | 207 | 255 | 287 | 331 | 370 | 401 | 434 | 481 | 540 | 528 | 528 | 631 | 685 | 688 | 695 | 689 | 743 | 767 | 758 | 812 | 845 | 861 | 827 | 843 |
| 合計 | 1,319 | 1,860 | 2,621 | 3,382 | 4,395 | 5,693 | 7,269 | 8,926 | 11,205 | 13,375 | 15,556 | 17,781 | 19,353 | 19,735 | 21,186 | 21,873 | 22,268 | 21,301 | 21,755 | 21,713 | 21,924 | 21,921 | 21,500 | 22,216 | 22,646 | 23,153 | 24,676 | 25,997 | 26,878 | 25,186 | 25,950 |

※1997年度よりスポーツコーチ養成講習会ははじまる

※各年12月31日現在の人数を掲載した

障がい者スポーツ医数の推移

(人)

| 障がい者スポーツ医 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|-----------|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 35 | 55 | 77 | 111 | 138 | 167 | 186 | 203 | 235 | 275 | 331 | 395 | 455 | 517 | 568 | 608 | 602 |

障がい者スポーツトレーナー数の推移

(人)

| 障がい者スポーツトレーナー | 09 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
|---------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 38 | 47 | 59 | 68 | 76 | 96 | 113 | 132 | 154 | 183 | 207 | 235 | 234 |

障がい者スポーツコーチ数の推移

(人)

| 障がい者スポーツコーチ | 85 | 86 | 87 | 88 | 89 | 90 | 91 | 92 | 93 | 94 | 95 | 96 | 97 | 98 | 99 | 00 | 01 |
|-------------|-----|-----|----|----|----|----|----|-----|-----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 17 | 33 | 33 | 33 | 33 | 32 | 32 | 32 | 31 | 31 | 31 | 32 | 32 | 33 | 50 | 51 | 58 |
| | 02 | 03 | 04 | 05 | 06 | 07 | 08 | 09 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| | 62 | 73 | 74 | 76 | 83 | 87 | 97 | 104 | 134 | 97 | 115 | 125 | 139 | 134 | 152 | 165 | 180 |
| | 19 | 20 | 21 | | | | | | | | | | | | | | |
| 182 | 203 | 201 | | | | | | | | | | | | | | | |

第 2 章

パラリンピックのあゆみ

1. リハビリの手段としてスポーツを導入

身体障がい者のスポーツの黎明期に大きく貢献したのが、英国のストーク・マンデビル病院である。

1944年、イギリスのチャーチル首相らは、ドイツとの戦争激化により負傷し脊髄を損傷する兵士が急増することを見越して、兵士の治療と社会復帰を目的に、ロンドン郊外にあったストーク・マンデビル病院内に脊髄損傷科(Spinal Unit)を開設した(1960年に国立脊髄損傷センターと改名)。その初代科長に、1939年にナチスによるユダヤ人排斥運動によりイギリスに亡命した医師、ルードウィヒ・グットマン卿(Sir Ludwing Guttman)が任命された。グットマン卿は、「手術よりスポーツを」の方針を掲げ、スポーツを治療に取り入れる方法を用いた(1944年にパンチボール訓練を導入、その翌年からは車いすによるポロやバスケットボール、卓球などを導入)。

1948年7月29日、グットマン卿は、ロンドンオリンピックの開会式の日、ストーク・マンデビル病院内で16名(男子14名・女子2名)の車いす患者(英国退役軍人)によるアーチェリー大会を開催した。

これがパラリンピックの発祥である。



ストーク・マンデビル競技大会

2. 国際競技大会へと発展

ストーク・マンデビル病院で行われるこの大会は毎年開催されるようになり、1952年にはオランダの参加を得て国際競技会へと発展し、これが第1回国際ストーク・マンデビル大会となった(約130名が参加)。

1960年、イギリス、オランダ、ベルギー、イタリア、フランスの5か国により国際ストーク・マンデビル大会委員会(ISMGC)が設立され、グットマン卿がその初代会長に就任した。ISMGCは、オリンピック開催年に実施する大会は、オリ



グットマン卿

ンピック開催国でオリンピック終了後に実施したい旨を表明。同年、オリンピックの開催されたローマにおいて、国際ストーク・マンデビル大会が開催された(23か国・約400名が参加)。この大会は国際パラリンピック委員会(IPC)設立後、さかのぼって第1回パラリンピック大会とされた。

3. パラリンピック東京大会

グットマン卿は、この大会を観戦していた渡辺華子女史(共同通信社ローマ総局長夫人)と会い、4年後の東京オリンピックの直後に国際ストーク・マンデビル大会を開催したい旨を話している。

渡辺女史は、このローマ大会直後に観戦記を新聞に発表。1961年4月、世界歴戦者連盟(W.V.F)の日本理事・沖野亦男と「国立身体障害者更生指導所」所長の稗田正虎氏は、渡辺女史からローマ大会の様態を聞き、日本における身体障がい者のスポーツの高揚について啓蒙活動をはじめ、8月には「身体障害者スポーツ振興会」を組織した(実質的活動はほとんど行われなかった)。

また、渡辺女史から紹介されたとのことで、グットマン卿から沖野、稗田の両氏に、1964年の東京オリンピック直後に東京で国際ストーク・マンデビル大会を実施したい旨を記した協力依頼文書が届き、厚生省社会局長に伝えられている。

1962年、国際身体障がい者スポーツ大会開催のための準備委員会が設立された。その委員長に、当時の社会福祉事業振興会会長(元日本障害者スポーツ協会(当時)名誉会長)の葛西嘉資氏が就任した。葛西会長は、中村裕博士の協力を得、大会開催のための準備を進めた。

そして1964年、国際ストーク・マンデビル大会を第1部(後の第2回パラリンピック)、すべての身体障がい者を対象とした西ドイツの参加選手を含む国内特別大会を第2部とする「国際身体障害者スポーツ大会」が開催された。



パラリンピック東京大会開会式

4. 様々な身体障がいアスリートが参加

第3回、第4回パラリンピック大会は、第1回大会同様、国際ストック・マンデビル大会として開催されたが、1976年に開催された第5回トロント大会(トロントリンピアード)は、国際身体障がい者スポーツ機構(ISOD)との共催で行われ、視覚障がいや切断の選手も参加できるようになった。

また同年、ISODが中心となり、切断者と視覚障がい者による冬季大会がエンシェルトツヴィーク(スウェーデン)で開催された(IPC設立後、第1回冬季パラリンピック大会と位置づけられた)。

1978年、国際脳性麻痺者協会を基盤として国際脳性麻痺者スポーツ・レクリエーション協会(CPISRA)が設立。

1980年3月、グットマン卿逝去(享年80歳)。この年、国際視覚障がい者スポーツ協会(IBSA)が設立された。またこの年は、モスクワオリンピックの開催年であったが、西側諸国のボイコットの影響もあり、アーネム(オランダ)で開催された。大会名は「Olympic for the Disabled」とされ、脳性麻痺選手の出場が認められた。

同年2月、ISODにより、ヤイロ(ノルウェー)において第2回冬季大会が実施された。

1982年、ISMGF、ISOD、IBSA、CPISRAの4団体により国際調整委員会(ICC)が発足した。

1984年3月、冬季大会がインスブルックで開催され、21か国から419名の選手が出場した。またこの年は、ロサンゼルスオリンピック大会の開催年でもあった。当初会場は、車いす競技をイリノイ州(アメリカ)で、その他の身体障がい者競技をニューヨーク(この大会から、先天性欠損や低身長などの、その他の機能障がい者(Les Autres)も参加できるようになった)で行う予定であった。ところが、イリノイ州が財政難を理由に急遽キャンセル。そのため、ISMGFが車いす競技を引き受け、英国のストック・マンデビル病院で実施した(この車いす競技大会は、IOCの承認を得、パラリンピックの名称を使用した)。

1985年、IOCはICCがオリンピック年に開催する国際身体障がい者スポーツ大会を「パラリンピック大会」と名乗ることに同意した(オリンピックという言葉が名称の一部に使用することは禁止された)。

1986年、国際ろうスポーツ委員会(ICSD)と国際知的障がい者スポーツ連盟(Inas)がICCに加盟した。

5. ICCからIPCへ 世界最高峰の競技大会

ICCは、国際障害別団体の会長や代表などにより組織されていたため実働組織として十分に機能していなかった。そのため、リハビリの延長ではなく競技性の高いスポーツ大会を望む多くの競技者やスポーツリーダーから不満が噴出していった。

そこで1987年、アーネム(オランダ)での会議を契機に、これらの不満を解消するための特別委員会を設立し、すべての競技者や組織、国・地域を統一すべく模索がはじまった。

1988年、ICC主催によりソウルパラリンピック大会が開催され、60か国から3,061名の選手が出場した(ろう者と知的障害者の出場は認められていなかった)。この大会は、IOCが「パラリンピック」の名称使用を公式に承認したはじめての大会であった(オリンピックで使用した会場も使用された)。また同年1月、前回同様インスブルックにおいて第4回冬季大会が実施された。

1989年9月22日、ドイツのデュッセルドルフの会議において、国際パラリンピック委員会(IPC)が創設された。初代会長には、カナダのロバート・D・ステッドワード博士が就任した。

1992年、アルベールビル(フランス)においてパラリンピック冬季大会が開催された。また同年、夏季パラリンピックがバルセロナ(スペイン)で開催された。この大会はICCが主催・運営し、ドーピングコントロールなどの責任に関してはIPCが負い開催された。また車いすテニスが正式競技に加わった。

1994年、リレハンメルにおいてパラリンピック冬季大会が開催され、この大会が実質的なIPC主催の初のパラリンピックとなった(アイススレッジスピードレースが正式競技に加わった)。

1995年、ICSDがIPCから脱会した。

1996年、アトランタパラリンピック大会が開催され(馬術が正式競技に加わった)。陸上競技と水泳の一部の種目において、知的障がい者の参加がはじめて認められた。

1997年、ドイツのボン市がIPCの本部招致に成功。当時、西ドイツの首都であったボン市は東西ドイツ統一後、国際的なステイタスを失うことを危惧しており、国際組織本部等の招致活動を積極的に行っていた。そこでボン市は、築100年以上の歴史的な建物と改築費を提供し、1998年9月にIPC事務局が始動した。

1998年、長野県においてわが国初のパラリンピック冬季大会が開催された。

6.JPC設立以降に実施されたパラリンピック競技大会の特徴

2000年、シドニーパラリンピック大会が開催され、車いすラグビーとセーリングが正式競技に加わった。大会期間中、IOCとIPCとの協力関係に関する話し合いが持たれ、「オリンピック開催都市は、オリンピック終了後、引き続いてパラリンピックを開催しなければならない」との基本的な合意に達した(p.45「1. IOC - IPC間の協力体制の構築」参照)。

また、陸上競技、水泳、卓球、バスケットボールに知的障がい種目が正式に導入されたが、大会後、知的障がい選手の障がい詐称事件が発覚したため、国際知的障がい者スポーツ連盟(当時: INAS-FID、現在のVirtus)のIPC加盟権が保留された(p.45「2. 知的障がい選手の障がい詐称事件」参照)

2002年3月、ソルトレークシティ冬季パラリンピック大会開催。この大会より、アイススレッジスピードレースが実施競技から除外され、アルペンスキー、クロスカントリースキー、バイアスロン、アイススレッジホッケーの4競技の実施となった。

2004年9月、アテネパラリンピック大会より、5人制サッカー(視覚障がい)が正式競技に、車いすテニスのクアードクラス、柔道女子、シッティングバレーボール女子が正式種目に採用された。

2006年3月、トリノパラリンピック冬季大会開催。本大会より、車いすカーリングが正式競技に採用された。

2008年9月、北京パラリンピック大会開催。オリンピック開催都市はパラリンピック大会も開催するというIPC-

IOC合意に基づき実施された最初の大会となった。ボートが正式競技に採用された。

2010年3月、バンクーバー冬季パラリンピック大会開催。

2012年8月、ロンドンパラリンピック大会開催。2004年アテネ大会以降中断されていた知的障がい選手の種目が陸上競技・卓球・水泳で正式種目として実施された。

2014年3月、ソチ冬季パラリンピック大会開催。アルペンスキー競技にスノーボード・クロス(下肢障がいクラスの種目)が正式種目として採用された。

2016年9月、リオパラリンピック大会開催。カヌーとトリアスロンが正式競技として採用された。初めて難民選手団(Independent Paralympic Athletes)が参加した。また、国ぐるみのドーピングが発覚したロシアについては選手団の参加が認められなかった(P.46「4. NPCロシアの資格停止問題」参照)

2018年3月、平昌パラリンピック冬季大会開催。ソチ大会ではアルペンスキーの中の種目として実施されたスノーボードが正式競技として実施された。パラアイスホッケーでは韓国・北朝鮮による南北合同チームが出場した。

2021年8月、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大により、東京2020大会が1年延期され開催(P.48「東京2020パラリンピック競技大会」参照)。本大会より、セーリング、7人制サッカーが除外され、バドミントン、テコンドーが新たに正式競技として実施された。ドーピング問題で国を代表しての参加が認められなかったロシアは「RPC(ロシアパラリンピック委員会)」として出場。またリオ大会に引き続き難民選手団も結成された。

国際パラリンピック委員会

正式名称: International Paralympic Committee (IPC)
加盟国数: 183か国・地域(2022年2月現在)
事務局: ドイツ(ボン)
モットー: 「Spirit in Motion (スピリット・イン・モーション)」



IPCのシンボルマークは「スリーアギトス」と呼ばれている。「アギト」とは、ラテン語で「私は動く」という意味で、困難なことがあってもあきらめずに、限界に挑戦し続けるパラリンピアンを表現している。赤・青・緑の三色は、世界の国旗で最も多く使用されている色ということで選ばれた。

パラリンピックの価値

国際パラリンピック委員会(IPC)は、パラリンピアンたちに秘められた力こそが、パラリンピックの象徴であるとし、以下の四つの価値を重視しています。

勇気

マイナスの感情に向き合い、乗り越えようと思う精神力

強い意志

困難があっても、諦めず限界を突破しようとする力

インスピレーション

人の心を揺さぶり、駆り立てる力

公平※

多様性を認め、創意工夫をすれば、誰もが同じスタートラインに立てることを気づかせる力

※IPC発表の英語表記は「Equality」でありその一般的な和訳は「平等」ですが、「平等」な状況を生むには、多様な価値感や個性に即した「公平」な機会の担保が不可欠です。そしてそのことを気づかせてくれるのがパラリンピックやパラスリートの力である、という点を強調するため、IPC承認の下、あえて「公平」としています。

パラリンピック競技大会

●夏季競技大会

※IPC ホームページより(2021年12月23日現在)

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催地 | 大会規模 | | 日本選手団 | | 成績 | | | 特記事項 |
|----|-----|------|----------------|---------------------|------|------|-------|-----|----|----|----|---|
| | | | | | 国 | 選手 | 選手 | 役員 | 金 | 銀 | 銅 | |
| 1 | S35 | 1960 | 9月18日 ～25日 | ローマ(イタリア) | 17 | 209 | | | | | | 日本不参加 |
| 2 | S39 | 1964 | 11月8日 ～12日 | 東京(日本) | 21 | 378 | 53 | 31 | 1 | 5 | 4 | 第1部を国際ストーク・マンデビル競技大会、第2部を国内大会として実施(当時の正式名称:国際身体障害者スポーツ大会) |
| 3 | S43 | 1968 | 11月4日 ～13日 | テルアビブ (イスラエル) | 28 | 774 | 37 | 26 | 2 | 2 | 8 | |
| 4 | S47 | 1972 | 8月2日～ 9日 | ハイデルベルグ (西ドイツ) | 41 | 922 | 25 | 12 | 4 | 5 | 3 | |
| 5 | S51 | 1976 | 8月3日～ 11日 | トロント(カナダ) | 41 | 1271 | 37 | 14 | 10 | 6 | 3 | ISODとの共催。視覚障害と切断の選手も参加 |
| 6 | S55 | 1980 | 6月21日 ～7月5日 | アーネム (オランダ) | 42 | 1653 | 37 | 13 | 9 | 10 | 7 | 脳性まひ者が参加 |
| 7 | S59 | 1984 | 6月17日 ～29日 | ニューヨーク (アメリカ) | 54 | 2105 | 52 | 29 | 9 | 7 | 8 | 分裂大会。ニューヨークには立位選手(先天性欠損や低身長などの身体障がい者も参加)、ストークマンデビルには車いす選手が参加。 |
| | | | 7月22日 ～8月1日 | ストークマンデビル (イギリス) | | | | | | | | |
| 8 | S63 | 1988 | 10月15日 ～24日 | ソウル(韓国) | 60 | 3041 | 141 | 43 | 17 | 12 | 17 | 大会名にはじめて正式に「パラリンピック」が使用された。 |
| 9 | H4 | 1992 | 9月3日～ 14日 | バルセロナ (スペイン) | 84 | 2999 | 75 | 32 | 8 | 7 | 15 | |
| 10 | H8 | 1996 | 8月15日 ～25日 | アトランタ (アメリカ) | 104 | 3252 | 81 | 42 | 14 | 10 | 13 | 陸上競技、水泳への知的障害者の参加が認められた。 |
| 11 | H12 | 2000 | 10月18日 ～29日 | シドニー (オーストラリア) | 123 | 3871 | 151 | 89 | 13 | 17 | 11 | 陸上競技、水泳、卓球、バスケットボールへの知的障害者の参加が認められた。 |
| 12 | H16 | 2004 | 9月17日 ～28日 | アテネ(ギリシャ) | 135 | 3749 | 163 | 108 | 17 | 15 | 20 | 知的障害者の参加が認められなかった。 |
| 13 | H20 | 2008 | 9月6日～ 17日 | 北京(中国) | 146 | 3951 | 162 | 132 | 5 | 14 | 8 | ボートが正式競技に加わった。 ボッチャ、シッティングバレーボール(女子)に日本初参加。 |
| 14 | H24 | 2012 | 8月29日 ～9月9日 | ロンドン (イギリス) | 164 | 4243 | 134 | 121 | 5 | 5 | 6 | 陸上競技、水泳、卓球への知的障害者の参加が認められた。 |
| 15 | H28 | 2016 | 9月7日～ 18日 | リオデジャネイロ (ブラジル) | 160 | 4327 | 132 | 98 | 0 | 10 | 14 | カヌー、トライアスロンが正式競技に加わった。 難民選手団(Independent Paralympic Athletes)が参加した。ロシア選手団が国家ぐるみのドーピング不正により不参加となった。 |
| 16 | R3 | 2021 | 8月24日～ 9月5日 | 東京 (日本) | 162 | 4403 | 254 | 209 | 13 | 15 | 23 | 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、約一年の延期をもって開催する。 バドミントン、テコンドーが正式競技に加わった。 ロシア人選手がドーピング不正により国家を代表した選手団の派遣が認められず、RPC(ロシアパラリンピック委員会)として参加した。 |

●冬季競技大会

※IPC ホームページより(2021年3月10日現在)

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催地 | 大会規模 | | 日本選手団 | | 成績 | | | 特記事項 |
|---|-----|------|---------------|------------------------|------|-----|-------|----|----|---|---|--------|
| | | | | | 国 | 選手 | 選手 | 役員 | 金 | 銀 | 銅 | |
| 1 | S51 | 1976 | 2月23日 ～28日 | エンシェルスヴィーク (スウェーデン) | 16 | 198 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 日本不参加。 |
| 2 | S55 | 1980 | 2月1日～ 7日 | ヤイロ (ノルウェー) | 18 | 299 | 5 | 6 | 0 | 0 | 0 | |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催地 | 大会規模 | | 日本選手団 | | 成績 | | | 特記事項 |
|----|-----|------|----------------|---------------------|------|-----|-------|----|----|----|----|---|
| | | | | | 国 | 選手 | 選手 | 役員 | 金 | 銀 | 銅 | |
| 3 | S59 | 1984 | 1月18日 ～24日 | インスブルック (オーストリア) | 21 | 419 | 12 | 9 | 0 | 0 | 0 | アイススレッジスピードレースが正式競技に加わった。 |
| 4 | S63 | 1988 | 1月18日 ～24日 | インスブルック (オーストリア) | 22 | 377 | 14 | 13 | 0 | 0 | 2 | |
| 5 | H4 | 1992 | 3月25日 ～4月1日 | アルペールビル (フランス) | 24 | 365 | 15 | 23 | 0 | 0 | 2 | エントリー数と会場の問題でアイススレッジスピードレースは実施せず。知的障がいと視覚障がいのデモンストレーションイベントを実施。 |
| 6 | H6 | 1994 | 3月10日 ～19日 | リレハンメル (ノルウェー) | 31 | 469 | 27 | 36 | 0 | 3 | 3 | IPC主催の初のパラリンピック。アイススレッジホッケーが正式競技に加わった。 |
| 7 | H10 | 1998 | 3月5日～ 14日 | 長野 (日本) | 31 | 562 | 70 | 71 | 12 | 16 | 13 | 歴代最高位のメダルランキング4位を記録。クロスカントリースキーへの知的障害者の参加が認められた。 |
| 8 | H14 | 2002 | 3月7日～ 16日 | ソルトレークシティ (アメリカ) | 36 | 415 | 36 | 40 | 0 | 0 | 3 | この大会以降、冬季大会での知的障害者の参加が認められなくなる。 |
| 9 | H18 | 2006 | 3月10日 ～19日 | トリノ (イタリア) | 38 | 474 | 40 | 50 | 2 | 5 | 2 | 車いすカーリングが正式競技に加わった。 |
| 10 | H22 | 2010 | 3月12日 ～21日 | バンクーバー (カナダ) | 44 | 502 | 41 | 53 | 3 | 3 | 5 | |
| 11 | H26 | 2014 | 3月7日～ 16日 | ソチ (ロシア) | 45 | 541 | 20 | 35 | 3 | 1 | 2 | アルペン競技にスノーボードが新種目として加わった。 |
| 12 | H30 | 2018 | 3月9日～ 18日 | ピョンチャン (韓国) | 49 | 567 | 38 | 48 | 3 | 4 | 3 | 前回大会でアルペンスキーの一種目だったスノーボードが競技として独立し、冬季パラリンピックの正式競技に加わった。 |
| 13 | R4 | 2022 | 3月4日～ 13日 | 北京 (中国) | | | | | | | | |

パラリンピック競技大会 実施競技

●夏季競技大会

| 回 | 開催地 | AR | AT | WB | DA | WF | SN | SW | TT | PO | LB | GB | SH | SIV | STV | WL | BO | CY | EQ | FB7 | FB5 | WT | JU | WR | SA | RW | IDB | CN | TR | BA | TK |
|----|-------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|----|----|----|----|-----|-----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|
| 1 | ローマ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 東京 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | テルアビブ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | ハイデルベルグ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ▲ | ▲ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | トロント | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | アーネム | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | ニューヨーク アイレスペリー | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | |
| 8 | ソウル | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | ▲ | ○ | | | | | | | |
| 9 | バルセロナ | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | | | |
| 10 | アトランタ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | | | |
| 11 | シドニー | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | | ▲ | ▲ | | | | |
| 12 | アテネ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | | | |
| 13 | 北京 | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | | | |
| 14 | ロンドン | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | | | |
| 15 | リオ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | | ○ | ○ |
| 16 | 東京 | ○ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | | | | | ○ | ○ | ○ |

○ 実施競技

▲ デモンストレーション競技

AR アーチェリー

PO パワーリフティング

CY 自転車

RW ボート

AT 陸上競技

LB ローンボウルズ

EQ 馬術

IDB 知的障がい者バスケットボール

WB 車いすバスケットボール

GB ゴールボール

FB7 脳性麻痺者7人制サッカー

CN カヌー

DA ダーチェリー

SH 射撃

FB5 視覚障害者5人制サッカー

TR トライアスロン

WF 車いすフェンシング

SIV シットイングバレーボール

WT 車いすテニス

BA バドミントン

SN スノーカー

STV スタンディングバレーボール

JU 柔道

TK テコンドー

SW 水泳

WL レスリング

WR 車いすラグビー

TT 卓球

BO ボッチャ

SA セーリング

●冬季競技大会

| 回 | 開催地 | AS | CR | BT | IS | IH | WC | SB | 数 |
|----|-------------|----|----|----|----|----|----|----|---|
| 1 | エンシェルトツヴィーク | ○ | ○ | | | | | | 2 |
| 2 | ヤイロ | ○ | ○ | | | | | | 2 |
| 3 | インスブルック | ○ | ○ | | ○ | | | | 3 |
| 4 | インスブルック | ○ | ○ | | ○ | | | | 3 |
| 5 | アルペールビル | ○ | ○* | ○* | — | | | | 3 |
| 6 | リレハンメル | ○ | ○* | ○* | ○ | ○ | | | 5 |
| 7 | 長野 | ○ | ○* | ○* | ○ | ○ | | | 5 |
| 8 | ソルトレークシティ | ○ | ○* | ○* | | ○ | | | 4 |
| 9 | トリノ | ○ | ○* | ○* | | ○ | ○ | | 5 |
| 10 | バンクーバー | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | 5 |
| 11 | ソチ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○* | 5 |
| 12 | 平昌 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 6 |
| 13 | 北京 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 6 |

AS アルペンスキー CR クロスカントリースキー BT バイアスロン
 IS アイススレッジスピードレース IH アイススレッジホッケー WC 車いすカーリング
 SB スノーボードクロス

※アルペンスキーの種目としてスノーボードクロスを実施

※トリノ大会まではクロスカントリースキーとバイアスロンをそれぞれノルディックスキーの種目として実施していた。

アジアパラ競技大会

1975年より9回にわたり開催してきたフェスピック競技大会を継承している、アジア地域におけるパラリンピック・ムーブメントの推進とパラスポーツのさらなる進展を図るために開催するアジア地域の障がい者総合スポーツ大会。4年に一度、国際パラリンピック委員会(IPC)の地域委員会であるアジアパラリンピック委員会(APC)が主催する。

<実施競技>

正式競技は規定されていないが、基本的な考え方としては、パラリンピック正式競技のうちアジア地域で一定の参加数が見込める競技と、地域内での普及を目指している競技やパラリンピック競技以外の地域内での普及を目指す競技等の中から決定される。

アジアパラリンピック委員会 Asian Paralympic Committee (APC)

(加盟国) 44か国・地域
 (会 長) マジド・ラシド(UAE)
 (設立経緯)

2002年10月に設立された、IPCの地域委員会のひとつ。アジアパラリンピック評議会が前身。2005年1月1日より従来のIPCアジア地域と中東地域が合併し全アジア地域の代表団体として活動を開始した。さらに2006年11月27日、フェスピック連盟とアジアパラリンピック評議会が解散し、28日、二つの組織が合併して、アジアパラリンピック委員会が正式に発足した。

| 年 | 西暦 | 期日 | 開催地 | 大会規模 | | | 日本選手団 | | | 成績 | | | | 実施競技 |
|-----|------|----------------|-----------------|------|-------|------------|-------|-----|-----|-----|----|----|----|---|
| | | | | 国 | 選手 | 役員 | 計 | 選手 | 役員 | 計 | 金 | 銀 | 銅 | |
| H22 | 2010 | 12月12日 ～19日 | 中国 広州 | 41 | 2,289 | 1,451 | 359 | 223 | 136 | 103 | 32 | 39 | 32 | アーチェリー、陸上競技、バドミントン、ボッチャ、自転車競技、5人制サッカー、7人制サッカー、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、ボート、射撃、水泳、シッティングバレーボール、テンピンボウリング、卓球、車いすバスケットボール、車いすフェンシング、車いすテニス(19競技) |
| H26 | 2014 | 10月18日 ～24日 | 韓国 仁川 | 41 | 2,497 | 約 1,500 | 476 | 285 | 191 | 143 | 38 | 49 | 56 | アーチェリー、陸上競技、バドミントン、ボッチャ、自転車競技、5人制サッカー、7人制サッカー、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、ボート、セーリング、射撃、水泳、シッティングバレーボール、テンピンボウリング、卓球、車いすバスケットボール、車いすフェンシング、車いすテニス、車いすダンス、車いすラグビー、ローンボウルズ(23競技) |
| H30 | 2018 | 10月6日～ 13日 | インドネシア ジャカルタ | 43 | 2,888 | | 484 | 304 | 180 | 198 | 45 | 70 | 83 | アーチェリー、陸上競技、バドミントン、ボッチャ、自転車、チェス、ゴールボール、柔道、ローンボウルズ、パワーリフティング、射撃、水泳、テンピンボウリング、卓球、シッティングバレーボール、車いすバスケットボール、車いすフェンシング、車いすテニス |

アジアユースパラ競技大会

アジアパラリンピック委員会(APC)が主催。アジア地域の障がいのある若い世代が競い合う国際総合競技大会。

2003年に香港で開催されたFESPICユース競技大会を第1回大会としている。

| 西暦 | 期日 | 開催地 | 大会規模 | | | 日本選手団 | | | 成績 | | | | 実施競技 | 備考 |
|------|------------|-------------------|------|------|------|-------|-----|----|-----|----|----|----|---|---|
| | | | 国 | 選手 | 役員 | 計 | 選手 | 役員 | 計 | 金 | 銀 | 銅 | | |
| 2009 | 9月8日～13日 | 日本 東京 | 25 | 463 | 335 | 213 | 133 | 80 | 123 | 65 | 36 | 22 | 陸上競技、水泳、卓球、ボッチャ、ゴールボール ※オープン競技として車いすテニスが行われた | ・開会式に皇太子殿下のご臨席を賜る ・年齢区分(A:17～19歳 B:14～16歳) |
| 2013 | 10月26日～30日 | マレーシア クアラルンプール | 27 | 723 | 548 | 165 | 93 | 72 | 84 | 39 | 20 | 25 | 陸上競技、水泳、柔道、チェス、テンピンボウリング、パワーリフティング、バドミントン、車いすテニス、ボッチャ、アーチェリー、車いすバスケットボール、卓球、ゴールボール、シッティングバレーボール | ・年齢区分は競技により異なる ※日本は下線の6競技に参加 |
| 2017 | 12月10日～13日 | UAE ドバイ | 30 | 713 | 553 | 172 | 87 | 85 | 98 | 44 | 28 | 26 | 陸上競技、バドミントン、ボッチャ、ゴールボール、パワーリフティング、水泳、卓球 | ・年齢区分は競技により異なる ・アーチェリー、テンピンボウリング、チェスは実施中止 |
| 2021 | 12月2日～6日 | バーレーン マナーマ | 30 | 約700 | 約800 | 85 | 39 | 46 | 59 | 33 | 12 | 14 | 陸上競技、バドミントン、ボッチャ、ゴールボール(男女)、パワーリフティング、水泳、テコンドー、卓球、車いすバスケットボール(男女) | ・年齢区分は競技により異なる ※日本は下線の5競技に参加 |

參考資料

JPC 加盟団体またはJPSA 当協会登録団体が加盟する国際スポーツ組織

JPC 加盟国際スポーツ組織

| | | |
|-----|---|---|
| IPC | 正式名称: International Paralympic Committee 日本語名: 国際パラリンピック委員会 事務局: ドイツ(ボン) 加盟組織: 日本パラリンピック委員会(JPC) | |
| | 障がい別国際組織 (IOSDs) | |
| | IWAS | 正式名称: International Wheelchair & Amputee Sports Federation 日本語名: 国際車いす・切断者スポーツ連盟 事務局: イギリス(エイルズベリー) |
| | CPISRA | 正式名称: Cerebral Palsy International Sports and Recreation Association 日本語名: 国際脳性麻痺者スポーツ・レクリエーション協会 事務局: イギリス |
| | IBSA | 正式名称: International Blind Sports Federation 日本語名: 国際視覚障がい者スポーツ連盟 事務局: ドイツ(ボン) |
| | Virtus | 正式名称: Virtus 日本語名: バータス(国際知的障がい者スポーツ連盟) 事務局: イギリス(シェフィールド) |
| | IPC 地域組織 (Regional Organisation) | |
| | APC | 正式名称: Asian Paralympic Committee 日本語名: アジアパラリンピック委員会 事務局: UAE(ドバイ) |
| | パラリンピック競技国際統括組織 (IFs) | |
| | 世界バラスポーツ (旧IPCスポーツ) | アルペンスキー、陸上競技、パイアスロン、クロスカントリースキー、スノーボード、 パラアイスホッケー、パワーリフティング、射撃、水泳、パラダンススポーツ |
| | IOSD スポーツ | ブラインドサッカー(IBSA)、ゴールボール(IBSA)、柔道(IBSA)、車いすフェンシング(IWAS) |
| | IF スポーツ | アーチェリー(世界アーチェリー連盟)、バドミントン(世界バドミントン連盟)、 ボッチャ(国際ボッチャ競技連盟)、カヌー(国際カヌー連盟)、自転車(国際自転車競技連合)、 馬術(国際馬術連盟)、ボート(国際ボート連盟)、 シッティングバレーボール(世界パラバレーボール連盟)、卓球(国際卓球連盟)、 テコンドー(ワールドテコンドー)、トライアスロン(ワールドトライアスロン) 車いすバスケットボール(国際車いすバスケットボール連盟)、 車いすカーリング(世界カーリング連盟)、 車いすラグビー(国際車いすラグビー連盟)、 車いすテニス(国際テニス連盟) |

JPC 加盟競技団体が加盟する国際スポーツ組織

| | |
|------|---|
| ICSD | 正式名称: International Committee of Sports for the Deaf 日本語名: 国際ろう者スポーツ委員会 本部: スイス(ローザンヌ) 加盟組織: 一般財団法人全日本ろうあ連盟スポーツ委員会 |
|------|---|

JPSA 登録団体が加盟する国際スポーツ組織

| | |
|----|---|
| SO | 正式名称: Special Olympics 日本語名: スペシャルオリンピックス 本部: アメリカ(ワシントンDC) 加盟組織: 公益財団法人スペシャルオリンピックス日本 |
|----|---|

パラスポーツの国際動向

1. IOC－IPC間の協力体制の構築

シドニー2000パラリンピック大会開催中、サマランチ国際オリンピック委員会(IOC)会長(当時。以後同じ)と、ステッドワード国際パラリンピック委員会(IPC)会長(当時。以後同じ)によって、IOCとIPCとの協力関係に関する話し合いが持たれ、「2008年以降、オリンピック開催都市は、オリンピック終了後、引き続いてパラリンピックを開催しなければならない」との基本的な合意に達した。2001年6月19日、スイス・ローザンヌで、サマランチIOC会長と、ステッドワードIPC会長によって、IOCとIPCとの協力関係に関する2度目の話し合いが持たれ、より詳細な協力関係に関する合意がなされた。

主な合意内容は次のとおり。①この合意は、2008年夏季大会と2010年冬季大会で有効になる。②オリンピック開催都市は、オリンピックの終了後、パラリンピックを開催する。③オリンピック組織委員会は、パラリンピックも開催する。④オリンピックで使用する会場は、可能な限りパラリンピックでも使用する。⑤IOCは、パラリンピック開催にともなう財政的援助を行う。⑥IPCは、独自の国際競技連盟をもつ競技団体(IFs)、IPC傘下にある競技(IPC Sports: 当時)、国際障害別競技団体(IOSD)を整理し、IPCをIFとする競技の組織化を図るなど組織構成の見直しをする。⑦パラリンピックのエリート性を高めるため、(ア)パラリンピック大会時のクラス分けを極力削除し、例外的な場合のみ行う。(イ)競技数の上限を定める(夏季22まで、冬季8まで)。(ウ)種目数を削減する(夏季450まで、冬季75まで)。(エ)競技成立のための最少出場人数の見直し及び、実施種目が国際レベルに達しているかどうかの見直しを図る。(オ)最多参加人数の制限(選手: 夏季4000、冬季800、役員・競技パートナー: 夏季2200、冬季900)。⑧オリンピックとパラリンピックは同じ選手村を使用する。⑨パラリンピック選手及び役員の大会エントリー費は無料とする。⑩選手及び役員の旅費、宿泊及び選手の地上での輸送における条件はオリンピックと同一にする。⑪パラリンピックの放映権は、開催都市オリンピック組織委員会が有する。⑫IOCは、オリンピックとパラリンピックの両大会での後援が得られるスポンサー獲得をめざし、IPCはその活動を支援する。⑬オリンピックの放映担当者は、パラリンピックの映像を制作する義務を負う。⑭パラリンピック開催準備のため7年間で完全に確保される。

上記の協力体制の強化に伴い、IPCの組織およびガバナンスも強化された。中でも、マーケティング体制整備に伴うロゴや用語を含むパラリンピックの知的財産、選手肖像権の管理体制の強化、大会出場資格に関する厳密な規則整備、競技別国際統括組織の独立運営の推進、アンチ・ドーピング規則やクラス分け規程遵守といったような動きが挙げられる。

IOC-IPC間の協力体制に関する合意書はその後更新され、両者はより緊密に連携を取るようになってきた。2022年2月現在最新のIOC-IPC合意は2018年3月に締結されたもので、2032年に開催されるオリンピック・パラリンピック大会までの両者の協力体制についての合意が行われている。

2. 知的障がい選手の障がい詐称事件

シドニー2000パラリンピック大会の知的障がい者バスケットボールで優勝したスペインチームにおいて、健常者が知的障がい者として出場していたことが、大会終了後、選手自身の告発により明らかとなった。これを受けIPCは2001年の臨時総会でINAS-FID*(当時。以下同じ)の資格認定に対する見直しを求め、合意が得られるまでは、INAS-FIDのIPC加盟権を保留し、パラリンピック大会を含むIPC公認大会には知的障がいのある選手の出場資格を停止することとした。具体的な知的障がいのある選手の大会への復帰条件として、以下が示された:

- (1) 知的障がいがあるということを証明するための判定基準を設定し、妥当性を証明すること。
- (2) 選手が出場する特定の競技や種目において、知的障がいがある選手がその競技に対してどのように影響をおよぼしているかを評定するための障がい要因を証明すること。
- (3) 抗議・上訴手順のために必要な構成要素や情報を構築すること。

2004年11月のIPC臨時総会において、INAS-FIDの加盟権は復権し、その後競技ごとに、上記資格認定制度の見直しを行い、合意できた競技からIPC公認大会で正式競技として実施することとなった。

アテネ2004パラリンピック大会では、知的障がいのある選手の競技は正式競技としては実施されず、Exhibition(公開競技)として、卓球、バスケットボールの2競技が実施された。この後、トリノ2006パラリンピック冬季大会、北京2008パラリンピック大会、バンクーバー2010パラリンピック冬季大会では知的障がいの競技・種目は実施されなかった。

知的障がいのある選手がIPC公認大会へ参加するための基準設定についての研究を進めるために、2007年にIPCとINAS-FIDとで共同ワーキンググループを設立し、「参加資格」「競技特性」「競技中の抗議・上訴手続き」の3つの領域について、解決に向けた活動を開始した。この結果、2009年9月、ロンドン2012パラリンピック大会およびそれ以降の大会での知的障がいのある選手の資格停止解除について大きな進展があった旨のIPCおよびINAS-FIDの共同声明が発表された。

知的障がいのある選手の資格認定については上記4つの条件を「前提条件」とした上で、タッチパネル式の言語を使用しない知能検査および競技ごとの実技検査をあわせて「INASクラス分け」手順とすることが確定した。

陸上競技、水泳、卓球の3競技については、上記3点の改善内容およびクラス分け手順がIPCに承認され、ロンドン2012パラリンピック大会ではこの3競技において、知的障がいのある選手の陸上競技6種目、水泳6種目、卓球2種目が正式種目として実施された。リオ2016パラリンピック大会では陸上競技8種目、水泳8種目、卓球2種目が実施され、東京2020パラリンピック大会では、陸上競技8種目、水泳10種目、卓球2種目が実施される予定である。冬季競技については、まだ公認大会への参加は認められていない。

2017年からは、ダウン症の選手および知的発達に遅れが伴わない高機能自閉症の選手のクラス分けについても整備を進めている。

* 知的障がいスポーツの国際統括組織名称：1986年、INAS-FMH (国際精神薄弱者スポーツ協会)として発足。2000年、INAS-FIDに改名。2011年、INAS (Inas)に改名。2019年、Virtus (バータス)に改名。

3. NPCロシアの資格停止問題

世界アンチ・ドーピング機構(WADA)の第三者調査機関が2016年7月に発表したマクラーレンレポートで、ロシアの国家ぐるみのドーピングがあったことが告発された。これを受けIPC理事会では、ロシアパラリンピック委員会(NPCロシア)がIPC加盟組織としての責任および義務、特に世界アンチ・ドーピング規程およびIPCアンチ・ドーピング規程を遵守するという義務を果たす能力に欠けるとして、NPCロシアを即時資格停止とする処分を下した。これにより、NPCロシアはIPC加盟組織としてのあらゆる権利、特に意見を述べる権利(資格停止に関する内容は例外とする)、加盟組織による会議において投票する権利、IPC公認の競技会に競技者を派遣する権利、またIPCの活動に参加する権利を剥奪され、その結果、自国の選手団をリオ2016パラリンピック大会に派遣することができなくなった。その後、2016年11月、IPCはロシアがIPC加盟権を復権させるための条件を提示した。

平昌2018パラリンピック冬季大会では、厳しい条件の下で一部のロシア選手の個人参加が「Neutral Paralympic Athlete (NPA: 中立なパラリンピックアスリート)」として認められたが、ロシアの国旗・国歌の使用は一切認められなかった。その後2019年3月、IPCは条件付きではあるもののNPCロシアの資格停止を解除した。

しかし同年12月、世界アンチ・ドーピング機構(WADA)は、ロシアの検査機関のデータ改ざんを受け、ロシアアンチ・ドーピング機構(RUSADA)がWADAアンチ・ドーピング規程を適切に遵守していないとし、ロシア選手団の4年間の出場資格停止処分を課すことを決定。2020年12月、スポーツ仲裁裁判所(CAS)は以下の通り、最終的な判断を下した。

- ・ロシア選手団の2年間の出場資格停止(東京2020、北京2022へのロシア選手団としての参加は不可)
- ・条件を満たした選手が「中立なアスリート」として参加することは可

東京2020パラリンピック大会では「RPC(ロシアパラリンピック委員会)」として参加を承認された。

4. 東京2020パラリンピック競技大会

2013年9月、ブエノスアイレスで実施されたIOC総会において、2020年に実施されるオリンピック、パラリンピック競技大会が東京で行われることが決定した。

2014年には実施競技が決定したが、IPC Handbookに明記されている「世界的に普及している競技であることを示すための条件」を満たすことができなかつたため、セーリングと脳性まひ者7人制サッカーが正式競技から除外され、代わりにバドミントン、テコンドーが新たに採用された。

大会準備は順調に進捗していたが、2020年3月11日、世界保健機関(WHO)は新型コロナウイルス感染症の世界的大流行(パンデミック)を宣言。これを受けて3月24日、安倍総理大臣(当時)とIOCのバッハ会長が電話会談を行い、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を1年程度延長し、遅くとも2021年夏までに開催することで合意。これにIPCのパーソンズ会長も全面合意を表明し、正式に1年延期が発表された。オリンピック・パラリンピック大会が延期されるのは史上初のことだった。

2020年3月30日に開催されたIOC臨時理事会において大会の延期日程が決定され、大会名称(「東京2020パラリンピック競技大会」)はそのまま、大会期間は2021年8月24日から9月5日となった。

ただちに1年延期に影響を受けるあらゆる事業の見直しが始まり、新型コロナウイルス感染症対策を盛り込んだ新たな大会運営に関する検討も行われた。この結果、大会は無観客で実施、随行者(Accompanying person)のアクセレディテーションを発行しない、ホスピタリティプログラムを実施しない等の方針が決定され、組織委員会は、IOC・IPCとの協働により、2021年2月から7月にかけて3回に渡り、選手・サポートスタッフ、ファミリー(IPC・NPC関係者)、メディア等、参加者の属性ごとの感染防止策および行動規定を示した「Playbook」を発行。大会期間中も唾液採取による抗原検査を実施し、感染者、濃厚接触者の隔離等Playbookに則り徹底して実施した結果、大会を原因とするクラスターは発生せず、無事に大会を終了した。

オリンピック大会ではほぼ実施されなかつた学校連携観戦プログラムはパラリンピックでは実施。新型コロナウイルス感染症のため取りやめが相次いだ、結果的には約1万5000人の児童/生徒が大会を観戦した。

JPCにおける障がい者スポーツの国際動向

1. 国際組織への日本人理事の輩出

IPCおよびその加盟組織の日本人理事・常任委員

| 役職 | 氏名 | 就任期間 | 備考 |
|-------------------------|---------|-------------|------------------------------------|
| IPC理事(東アジア代表) | 初山 泰弘 | 1991年～2002年 | |
| IPC理事 | 山脇 康 | 2013年～2021年 | |
| IPC理事 | マセソン 美季 | 2021年～ | |
| IPC TUE委員 | 陶山 哲夫 | 2008年～2009年 | |
| IPC教育委員 | マセソン 美季 | 2018年～ | IOC教育委員も務めている(2018～) |
| IPC アンチ・ドーピング委員 | 山本 真由美 | 2018年～2019年 | JADA勤務職員 |
| IPC アスリート評議会 | 鈴木 孝幸 | 2021年～ | |
| APC*理事(医学委員長) | 陶山 哲夫 | 2002年～2006年 | *アジアパラリンピック評議会(アジアパラリンピック委員会の前身) |
| APC理事(医事科学委員長) | | 2006年～2019年 | |
| APC理事(大会調整委員長) | 麻生 学 | 2006年～2019年 | |
| APC理事(東アジア代表) | | 2019年～ | |
| APC理事(副会長) | 水野 正幸 | 2015年～ | |
| APC競技・開発委員 | 中森 邦男 | 2007年～ | |
| | 三井 利仁 | 2007年～2010年 | |
| | 田中 俊之 | 2007年～2010年 | |
| APC医事科学委員 | 中村 太郎 | 2007年～2010年 | |
| | 青木 隆明 | 2014年～ | |
| | 安岡 由恵 | 2016年～2019年 | |
| APCアスリート委員会 | 河合 純一 | 2011年～ | |
| APC女性スポーツ委員 | 大久保 春美 | 2011年～2018年 | |
| APC法務倫理委員 | 松田 幸大 | 2016年～2021年 | |
| IBSA理事 | 松崎 英吾 | 2017年～ | |
| Virtus理事 | 谷口 広明 | 2020年～ | |
| Virtusスキー委員長 | 荒井 秀樹 | 2019年～ | |
| Inasスキー技術代表 | 荒井 秀樹 | 2000年～2019年 | 団体名称変更のため2019年より、Virtusスキー委員長として活動 |
| Inasアジア理事(冬季スポーツディレクター) | | 2012年～2019年 | |
| Virtusアジア理事(スポーツディレクター) | 斎藤 利之 | 2019年～ | |
| Inasアジア理事(夏季スポーツディレクター) | 野村 一路 | 2015年～2019年 | |

2. Sport for Tomorrowへの参画

2014年に開始された、東京2020に向けたスポーツを通じた国際協力プログラムであるSport for Tomorrow コンソーシアム運営委員会の構成組織として、パラスポーツ分野での研修会、合同合宿、ワークショップ等を相手国のNPCやIPCおよびAPC、政府や国内関係機関と協力して実施した。この中には東京2020パラリンピックに過去最大数の国が参加するための支援も含まれており、日本からの支援が終了した後も活動が継続できるような仕組みのもと、プログラムを実施した。

3. IPC公認教材I'mPOSSIBLE(アイムポッシブル)日本版

東京2020大会に向け、国内ではパラリンピック教育への関心が高まってきたが、IPCにはパラリンピック教育のための教材はなく、また国内で制作されるオリンピック・パラリンピック教育のための資料にも、パラリンピックの価値や意義などが十分に示されたものがなかった。

この状況を受け、日本財団パラリンピックサポートセンター(当時)(パラサポ)とグローバルスポーツ開発基金からの資金援助、またJPCからの制作協力を得て、IPCの開発を担うアギトス財団(当時)がパラリンピック教材I'mPOSSIBLE(国際版)を制作した。

さらに日本国内の教育制度および教員の負担を最小限に抑え、国内で効果的にパラリンピック教育が実施できるよう、JPCとパラサポは、I'mPOSSIBLE日本版事務局を立ち上げ、公益財団ベネッセこども基金の協力を得てI'mPOSSIBLE日本版を制作。2017年に小学生版4授業分を発表したのを皮切りに、2021年5月までに小学生版、中学高校生版それぞれ15授業分を発表。教材は日本全国の約36,000の小中高等学校、特別支援校等、教育委員会へ無償で配布するとともに、東京2020組織委員会のオリンピック・パラリンピック教育ポータルサイトからも全教材をダウンロードできるようにした。2021年10月からはJPCが事務局機能を担っており、教材のダウンロードもJPCサイトより行うことができるようになった。

従来、アスリートや競技関係者がいなければ実施が難しいとされてきたパラリンピック教育であるが、パラリンピックについての知識がない一人ひとりの教師が自分で授業を行うことができるようになったことから、I'mPOSSIBLE開発後は徐々に国内でのパラリンピック教育が広がりを見せるようになってきた。さらに普及を進めるため2017年より、日本版事務局では教員研修を実施し、教材の役割や活用方法、授業を展開するためのアイデアなどを教師や教育委員会に伝えている。

また、IPC、アギトス財団、国内組織と協力し、JPCメンバーが、他国でのI'mPOSSIBLE教員研修会に講師として参画し、海外でのパラリンピック教育の普及にも協力を行っている。

なお、アギトス財団の各種開発事業は2020年にIPCに移行されたため、それ以降はI'mPOSSIBLE国際版についてはIPCが制作・管理・普及を行っている。東京2020大会後も、更なる普及を目指し、活動を続ける。

4. 表彰等

| 年 | 賞 | 表彰主体 | 受賞者氏名 | 備考 |
|-------|---------------------------------------|-------|------------------|---|
| 1998年 | パラリンピック勲章 | IPC | 吉村 吾朗 | 長野1998パラリンピック冬季競技大会組織委員会会長(長野県知事):いずれも当時 |
| | パラリンピック勲章 | IPC | 塚田 佐 | 長野市長(当時) |
| | パラリンピック勲章 | IPC | 伊原 義文 | 長野1998パラリンピック冬季競技大会組織委員会事務総長(当時) |
| 2003年 | パラリンピック勲章 | IPC | 初山 泰弘 | IPC理事(東アジア地域代表)としての功績に対して |
| 2005年 | パラリンピックスポーツ大賞最優秀女子選手賞 | IPC | 成田 真由美(水泳) | アテネ2004パラリンピック大会でのパフォーマンスに対して |
| | パラリンピックメディア大賞オンライン部門賞 | IPC | ヤフー株式会社 | アテネ2003パラリンピック大会でのウェブ報道に対して |
| 2007年 | パラリンピック名誉賞 | IPC | 畑田 和男 | フェスピック連盟(2006年にAPCと合併)会長としての功績に対して |
| 2010年 | ファン・ヨン・デ功労賞 | 同賞事務局 | 遠藤 隆行 | スポーツを通じて障がいや困難を克服し、パラリンピック精神を体現していることに対して |
| 2011年 | パラリンピックスポーツ大賞最優秀チーム賞 | IPC | アイススレッジホッケー日本チーム | バンクーバー 2010パラリンピック冬季大会でのパフォーマンスに対して |
| 2014年 | アジアパラリンピック委員会スポーツ大賞2014女子ベストユースアスリート賞 | APC | 鎌田 美希(水泳) | KL2013アジアユースパラ大会でのパフォーマンスに対して |
| 2015年 | パラリンピックメディア大賞写真部門賞 | IPC | 前田 尚紀 | 読売新聞東京本社 写真部(当時) |
| 2016年 | パラリンピック殿堂 | IPC | 河合 純一(水泳) | パラリンピアンとしてのこれまでの活動に対して |
| 2019年 | ムハンマド・ビン・ラーシド・アール・マクトゥーム クリエイティブスポーツ賞 | 同賞事務局 | JPC | I'mPOSSIBLE日本版の制作および普及に対して |
| 2021年 | パラリンピック勲章 | IPC | 山脇 康 | IPC理事としての功績に対して |

パラリンピック大会以外の国際総合大会の歴史

国際ストック・マンデビル車椅子競技大会

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催地 | 選手団 | | | メダル | | | 備考・その他国際大会 |
|---------------------|-----|------|------------|-------|-----|----|----|-----|---|---|--|
| | | | | | 選手 | 役員 | 計 | 金 | 銀 | 銅 | |
| 第1回大会から第10回大会には不参加。 | | | | | | | | | | | |
| 11 | S37 | 1962 | 7月25日～28日 | イギリス | 2 | 3 | 5 | 0 | 0 | 0 | 初参加 |
| 12 | S38 | 1963 | 7月24日～27日 | イギリス | 2 | 6 | 8 | 0 | 0 | 0 | パラリンピック東京大会準備打ち合わせ |
| 13 | S39 | 1964 | 11月8日～12日 | 東京 | 53 | 31 | 84 | 1 | 5 | 3 | パラリンピック 東京大会 |
| 14 | S40 | 1965 | 7月20日～24日 | イギリス | 3 | 8 | 11 | 0 | 0 | 0 | |
| 15 | S41 | 1966 | 7月26日～30日 | イギリス | 4 | 6 | 10 | 1 | 1 | 1 | |
| 16 | S42 | 1967 | 7月25日～30日 | イギリス | 5 | 3 | 8 | 1 | 1 | 1 | 同日程にて西ドイツ親善大会に参加(7月21日・22日) |
| 17 | S43 | 1968 | 11月4日～13日 | テルアビブ | 37 | 26 | 63 | 2 | 2 | 9 | パラリンピック イスラエル大会 |
| 18 | S44 | 1969 | 7月28日～8月2日 | イギリス | 6 | 6 | 12 | 3 | 1 | 4 | 同日程にてオーストリア 第2回国際下半身麻痺者スポーツ大会参加(7月22日～24日) |
| 19 | S45 | 1970 | 7月19日～24日 | イギリス | 6 | 4 | 10 | 4 | 1 | 0 | |
| 20 | S46 | 1971 | 7月25日～31日 | イギリス | 6 | 4 | 10 | 2 | 2 | 2 | |

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催地 | 選手団 | | | メダル | | | 備考・その他国際大会 |
|----------------------|-----|------|--------------|------------------------------|-----|----|----|-----|----|---|---|
| | | | | | 選手 | 役員 | 計 | 金 | 銀 | 銅 | |
| 21 | S47 | 1972 | 8月2日～9日 | ハイデルベルグ | 25 | 12 | 37 | 4 | 5 | 3 | パラリンピック ハイデルベルグ大会 |
| 22 | S48 | 1973 | 7月16日～22日 | イギリス | 6 | 4 | 10 | 3 | 3 | 2 | |
| 23 | S49 | 1974 | 7月21日～27日 | イギリス | 6 | 4 | 10 | 2 | 4 | 3 | 同日程にてローマ国際大会へ参加 |
| 24 | S50 | 1975 | 7月20日～26日 | イギリス | 6 | 4 | 10 | 3 | 1 | 2 | |
| 第5回パラリンピック | | | | | | | | | | | |
| 26 | S52 | 1977 | | イギリス | | | | | | | 第2回フェスピックのため参加せず |
| 27 | S53 | 1978 | 7月23日～29日 | イギリス | 15 | 10 | 25 | 3 | 4 | 3 | |
| 28 | S54 | 1979 | 7月23日～29日 | イギリス | 15 | 10 | 25 | 5 | 4 | 1 | |
| 第6回パラリンピック | | | | | | | | | | | |
| 30 | S56 | 1981 | 7月26日～8月1日 | イギリス | 15 | 10 | 25 | 7 | 6 | 2 | |
| 31 | S57 | 1982 | 7月25日～31日 | イギリス | 14 | 10 | 24 | 4 | 2 | 2 | |
| 32 | S58 | 1983 | 7月24日～30日 | イギリス | 15 | 10 | 25 | 1 | 3 | 1 | |
| 第7回パラリンピック | | | | | | | | | | | |
| 34 | S60 | 1985 | 7月28日～8月4日 | イギリス | 15 | 10 | 25 | 4 | 3 | 4 | |
| 35 | S61 | 1986 | 7月27日～8月3日 | イギリス | 15 | 10 | 25 | 7 | 4 | 2 | |
| 36 | S62 | 1987 | 7月26日～8月2日 | イギリス | 14 | 16 | 30 | 3 | 3 | 6 | 同日程にて第11回オーストリア国際脊損スポーツ大会に参加 |
| 第8回パラリンピック | | | | | | | | | | | |
| 38 | H1 | 1989 | 7月23日～30日 | イギリス | 15 | 12 | 27 | 0 | 0 | 3 | |
| 39 | H2 | 1990 | 7月28日～8月4日 | イギリス | 8 | 11 | 19 | 5 | 4 | 3 | 同日程にてバスケットボールチーム(男子)は、ゴールドカップ大会(ベルギー)に出場 |
| 40 | H3 | 1991 | 7月20日～31日 | イギリス | 14 | 18 | 32 | 0 | 1 | 2 | |
| 第9回パラリンピック | | | | | | | | | | | |
| 42 | H5 | 1993 | 8月25日～30日 | イギリス | 13 | 14 | 27 | 5 | 4 | 3 | イタリア(ミラノ市)で開催予定であったが中止となる。急遽英国で開催されたが陸上、アーチェリー、バスケットボールが行われない変則の大会となった。 |
| 43 | H6 | 1994 | 7月22日～30日 | イギリス | 12 | 15 | 27 | 2 | 3 | 5 | 陸上は5種目のみ。水泳実施せず |
| 44 | H7 | 1995 | 7月21日～28日 | イギリス | 14 | 14 | 28 | 1 | 2 | 5 | |
| 第10回パラリンピック | | | | | | | | | | | |
| 46 | H9 | 1997 | 7月25日～8月2日 | イギリス | | | | | | | 参加せず |
| 47 | H10 | 1998 | 8月20日～30日 | イギリス | 20 | 30 | 50 | | | | 日本よりウィルチェアーラグビーチーム及びツインバスケットボールチームが参加。ツインバスケットボールチームはデモンストラーションを行う。 |
| 48 | H11 | 1999 | 10月11日～17日 | ニュージーランド (クライスト チャーチ市) | 38 | 20 | 58 | 14 | 10 | 3 | 陸上、水泳、ウィルチェアーラグビー、アーチェリー、パワーリフティング |
| 49回から51回まで不参加 | | | | | | | | | | | |
| 52 | H15 | 2003 | 10月25日～11月2日 | ニュージーランド (クライスト チャーチ市) | 23 | 24 | 39 | 9 | 10 | 2 | 水泳、陸上、ウィルチェアーラグビー、キュースポーツ、アーチェリー切断選手も参加。 |

デフリンピック

■夏季競技大会

| 回 | 開催年 | 開催国 | 開催都市 | 日本代表団派遣 | | |
|----|------|----------|-----------|---------|----|-----|
| | | | | 選手 | 役員 | 計 |
| 1 | 1924 | フランス | パリ | | | 非加盟 |
| 2 | 1928 | オランダ | アムステルダム | | | 〃 |
| 3 | 1931 | 西ドイツ | ニュルンベルク | | | 〃 |
| 4 | 1935 | イギリス | ロンドン | | | 〃 |
| 5 | 1939 | スウェーデン | ストックホルム | | | 〃 |
| 6 | 1949 | デンマーク | コペンハーゲン | | | 〃 |
| 7 | 1953 | ベルギー | ブリュッセル | | | 〃 |
| 8 | 1957 | イタリア | ミラノ | | | 〃 |
| 9 | 1961 | フィンランド | ヘルシンキ | | | 〃 |
| 10 | 1965 | アメリカ | ワシントンD.C. | 7 | 4 | 11 |
| 11 | 1969 | ユーゴスラビア | ベオグラード | 9 | 4 | 13 |
| 12 | 1973 | スウェーデン | マルメ | 9 | 4 | 13 |
| 13 | 1977 | ルーマニア | ブカレスト | 17 | 8 | 25 |
| 14 | 1981 | 西ドイツ | ケルン | 34 | 11 | 45 |
| 15 | 1985 | アメリカ | ロサンゼルス | 52 | 15 | 77 |
| 16 | 1989 | ニュージーランド | クライストチャーチ | 40 | 16 | 56 |
| 17 | 1993 | ブルガリア | ソフィア | 41 | 13 | 54 |
| 18 | 1997 | デンマーク | コペンハーゲン | 44 | 14 | 58 |
| 19 | 2001 | イタリア | ローマ | 60 | 26 | 86 |
| 20 | 2005 | オーストラリア | メルボルン | 102 | 33 | 135 |
| 21 | 2009 | 台湾 | 台北 | 154 | 91 | 245 |
| 22 | 2013 | ブルガリア | ソフィア | 149 | 70 | 219 |
| 23 | 2017 | トルコ共和国 | サムスン | 108 | 69 | 177 |

※19回大会からデフリンピックと言う。

■冬季競技大会

| 回 | 開催年 | 開催国 | 開催都市 | 日本代表団派遣 | | |
|----|------|--------|---------------------|---------|----|-----|
| | | | | 選手 | 役員 | 計 |
| 1 | 1949 | オーストリア | ゼーフェクト | | | 非加盟 |
| 2 | 1953 | ノルウェー | オスロ | | | 〃 |
| 3 | 1955 | 西ドイツ | オーバーアマガウ | | | 〃 |
| 4 | 1959 | スイス | モンタナブフナーラ | | | 〃 |
| 5 | 1963 | スウェーデン | オーレ | | | 〃 |
| 6 | 1967 | 西ドイツ | ベルヒテスガーデン | 3 | 3 | 6 |
| 7 | 1971 | スイス | アデルボーデン | | | 不参加 |
| 8 | 1975 | アメリカ | レイクプラシッド | 10 | 3 | 13 |
| 9 | 1979 | フランス | メリベル | 8 | 5 | 13 |
| 10 | 1983 | イタリア | マドンナ・ディ・カンピリオ | 9 | 6 | 15 |
| 11 | 1987 | ノルウェー | オスロ | 10 | 4 | 14 |
| 12 | 1991 | カナダ | バンフ | 9 | 6 | 15 |
| 13 | 1995 | フィンランド | ウッラス | 10 | 5 | 15 |
| 14 | 1999 | スイス | ダボス | 10 | 5 | 15 |
| 15 | 2003 | スウェーデン | スツバル | 14 | 15 | 29 |
| 16 | 2007 | アメリカ | ソルトレークシティ | 17 | 22 | 39 |
| 17 | 2011 | スロバキア | ハイタトラス | | | 中止 |
| 18 | 2015 | ロシア | ハンティ・マンシーク、マグニトゴルスク | 22 | 26 | 48 |
| 19 | 2019 | イタリア | ヴァルテッリーナ、ヴァルキアヴェンナ | 15 | 32 | 47 |

フェスピック競技大会

| 回 | 年 | 西暦 | 期日 | 開催地 | 参加国 | 参加数 | 日本選手団 | | | | | | | 日本の成績 | | | | | |
|---|-----|------|--------------|-------------------|-----|-------|--------------------|----|----|------------------|-----|---------|-------------------|-------|-----|------------|------------|-----------|-------------|
| | | | | | | | 車椅子 | 切断 | 視覚 | CP | 機能 | ろうあ | 計 | 役員 | 合計 | 金 | 銀 | 銅 | 計 |
| 1 | S50 | 1975 | 6月1日～3日 | 日本 大分市・別府市 | 18 | 973 | 116 | 41 | 88 | 0 | 221 | 76 | 542 | 207 | 749 | 247 | 168 | 124 | 539 |
| 2 | S52 | 1977 | 11月20日～26日 | オーストラリア パラマッタ市 | 16 | 430 | 25 | 7 | 2 | 0 | 0 | - | 34 | 22 | 56 | 41 | 22 | 16 | 79 |
| 3 | S57 | 1982 | 10月31日～11月7日 | 香港 沙田市 | 23 | 744 | 37 | 9 | 13 | 5 | 0 | - | 64 | 39 | 103 | 57 | 44 | 27 | 128 |
| 4 | S61 | 1986 | 8月31日～9月7日 | インドネシア スラカルタ市 | 19 | 834 | 21 | 8 | 10 | 7 | 0 | - | 46 | 32 | 78 | 42 | 36 | 27 | 105 |
| 5 | H1 | 1989 | 9月15日～20日 | 日本 神戸市 | 41 | 1,646 | 212 | 89 | 78 | 54 | 81 | - | 514 | 72 | 586 | 80 | 127 | 103 | 310 |
| 6 | H6 | 1994 | 9月4日～10日 | 中国 北京市 | 42 | 2,081 | 21 | 25 | 12 | 8 | 21 | - | 87 | 39 | 126 | 37 | 26 | 25 | 88 |
| 7 | H11 | 1999 | 1月10日～16日 | タイ バンコク市 | 34 | 2,258 | 24 | 25 | 20 | 12 | 12 | 知的 5 | 98 | 44 | 142 | 27 | 30 | 29 | 86 |
| 8 | H14 | 2002 | 10月26日～11月1日 | 韓国 釜山市 | 40 | 2,199 | 選手数(知的) 138(19) | | | 役員数(知的) 70(6) | | | 合計(知的) 208(25) | | | 45 (12) | 36 (11) | 29 (4) | 110 (27) |
| 9 | H18 | 2006 | 11月25日～12月1日 | マレーシア クアラルンプール | 46 | 3,641 | 選手数(知的) 162(16) | | | 役員数(知的) 98(8) | | | 合計(知的) 260(24) | | | 29 (9) | 33 (6) | 38 (8) | 100 (23) |

2006年11月27日解散(翌28日、アジアパラリンピック評議会と合併→アジアパラリンピック委員会発足)

フェスピック競技大会実施競技

| 回 | 開催地 | AR | AT | TT | SW | WF | PO | WB | DA | SN | SH | LB | CH | BD | VB | FB | JU | WT | BO | GB | CY | SA | TB | 競技数 |
|---|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 1 | 大分市、別府市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | 8 |
| 2 | パラマッタ市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | 11 |
| 3 | 沙田市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | 9 |
| 4 | スラカルタ市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | 11 |
| 5 | 神戸市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | 13 |
| 6 | 北京市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 14 |
| 7 | バンコク市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | 15 |
| 8 | 釜山市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 17 |
| 9 | クアラルンプール市 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 19 |

AT 陸上競技 WB 車いすバスケットボール BD バドミントン GB ゴールボール
 SW 水泳 DA ダーチェリー VB バレーボール CY 自転車
 TT 卓球 SN スノーカー FB サッカー SA セーリング
 AR アーチェリー SH 射撃 JU 柔道 TB テンピンボウリング
 WF 車いすフェンシング LB ローンボウルズ WT 車いすテニス
 PO パワーリフティング CH チェス BO ボッチャ

フェスピックユース競技大会

| 回 | 西暦 | 期日 | 開催地 | 大会規模 | | | 日本選手団 | | | | 成績 | | | 実施競技 | 備考 |
|---|-------|------------|---------------------|------|-----|-----|-------|----|----|----|----|----|----|------------------------|-----------------------------|
| | | | | 国 | 選手 | 役員 | 計 | 選手 | 役員 | 計 | 金 | 銀 | 銅 | | |
| 1 | 2003年 | 12月23日～28日 | 中国 香港特別行政区 沙田 | 15 | 311 | 183 | 54 | 29 | 25 | 57 | 31 | 16 | 10 | 陸上競技、バドミントン、ボッチャ、卓球、水泳 | 年齢区分 (A:16～19歳、B:12～15歳) |

スペシャルオリンピックス世界大会

●夏季競技大会

| 回 | 年 | 西暦 | 開催国 | 開催都市・州 | 参加国地域数 | 選手数(日本選手団) |
|----|-----|------|----------|-----------|--------|------------|
| 1 | S43 | 1968 | アメリカ | シカゴ | 3 | 1,000 |
| 2 | S46 | 1970 | アメリカ | シカゴ | 3 | 2,400 |
| 3 | S48 | 1972 | アメリカ | ロサンゼルス | 3 | 1,500 |
| 4 | S50 | 1975 | アメリカ | ミシガン州 | 12 | 2,000 |
| 5 | S54 | 1979 | アメリカ | ニューヨーク州 | 20 | 2,500 |
| 6 | S58 | 1983 | アメリカ | ルイジアナ州 | 48 | 4000(68) |
| 7 | S62 | 1987 | アメリカ | インディアナ州 | 60 | 4500(30) |
| 8 | H2 | 1991 | アメリカ | ミネソタ州 | 107 | 6000(124) |
| 9 | H6 | 1995 | アメリカ | コネチカット州 | 143 | 7000(30) |
| 10 | H10 | 1999 | アメリカ | ノースカロライナ州 | 150 | 7,000(45) |
| 11 | H14 | 2003 | アイルランド | ダブリン | 160 | 7,000(77) |
| 12 | H19 | 2007 | 中国 | 上海 | 164 | 7,000(120) |
| 13 | H23 | 2011 | ギリシャ | アテネ | 170 | 6,961(75) |
| 14 | H27 | 2015 | アメリカ | ロサンゼルス | 164 | 8,000(118) |
| 15 | H31 | 2019 | アラブ首長国連邦 | アブダビ | 190 | 7,500(104) |

●冬季競技大会

| 回 | 年 | 西暦 | 開催国 | 開催都市・州 | 参加国地域数 | 選手数(日本選手団) |
|----|-----|------|-----------|---------------------------|--------|------------|
| 1 | S52 | 1977 | アメリカ | コロラド州 | 2 | 346 |
| 2 | S56 | 1981 | アメリカ | バーモント州 | 7 | 600 |
| 3 | S60 | 1985 | アメリカ | ユタ州 | 14 | 825(8) |
| 4 | H1 | 1989 | アメリカ | ネバダ州 カリフォルニア州 | 27 | 1000(5) |
| 5 | H5 | 1993 | オーストリア | ザルツブルグ | 51 | 1200(5) |
| 6 | H9 | 1997 | カナダ | トロント | 70 | 1,780(17) |
| 7 | H13 | 2001 | アメリカ | アラスカ州 | 70 | 2,000(16) |
| 8 | H17 | 2005 | 日本 | 長野 | 84 | 1,829(150) |
| 9 | H21 | 2009 | アメリカ | アイダホ州 | 95 | 2,000(87) |
| 10 | H25 | 2013 | 韓国 | ピョンチャン | 111 | 3,300(84) |
| 11 | H29 | 2017 | オーストリア共和国 | グラーツ、シュラートミンク、ラムサウ、ローアモース | 110 | 3,000(54) |

国内外の動向

| 年 | 情勢/法令等 | 国際的な流れ | わが国の流れ |
|------|--------|--|---|
| 1878 | M11 | | 京都府盲啞院創立 |
| 1888 | M21 | ドイツで聴覚障害者のためのスポーツクラブ創設 | |
| 1889 | M22 | 「大日本帝国憲法」発布 | |
| 1890 | M23 | | 松本尋常小学校「落第生学級」設置 |
| 1910 | M43 | ドイツ聴覚障害者スポーツ協会創設 | |
| 1922 | T11 | 身体障害者自転車クラブ創設(イギリス) | |
| 1923 | T12 | 関東大震災 | |
| 1924 | T13 | 第8回夏季オリンピック 第1回冬季オリンピック | 国際聴覚障害者スポーツ連盟(CISS)設立(現ICSD) 第1回デフリンピック夏季競技大会開催 (フランス・パリ) |
| 1928 | S3 | 第9回夏季オリンピック 第2回冬季オリンピック | 第2回デフリンピック夏季競技大会開催 (オランダ・アムステルダム) |
| 1931 | S6 | | 第3回デフリンピック夏季競技大会開催 (西ドイツ・ニュールンベルグ) |
| 1932 | S7 | 第10回夏季オリンピック 第3回冬季オリンピック | 英国片上肢ゴルフ協会設立(イギリス) |
| 1933 | S8 | | 視覚障害者水泳大会開催(ノルウェー) |
| 1934 | S9 | | 第1回京阪神聾啞陸上競技大会開催 |
| 1935 | S10 | | 第4回デフリンピック夏季競技大会開催 (イギリス・ロンドン) |
| 1936 | S11 | 第11回夏季オリンピック 第4回冬季オリンピック | |
| 1937 | S12 | 教育審議会設置 | |
| 1939 | S14 | | 第5回デフリンピック夏季競技大会開催 (スウェーデン・ストックホルム) |
| 1945 | S20 | 国連憲章 | フィンランド戦傷者スポーツ協会設立 |
| 1946 | S21 | 「日本国憲法」公布 | |
| 1947 | S22 | 「児童福祉法」公布 | ケルンスポーツ大学「身体障害者スポーツ講座」開設 (H.ローレンツェン教授) |
| 1948 | S23 | 第14回夏季オリンピック 第5回冬季オリンピック ドイツ分断 | 世界精神衛生連盟(WFMH)結成 英国ストーク・マンデビル病院スポーツフェスティバル開催 |
| 1949 | S24 | 国連児童権利宣言 「身体障害者福祉法」公布 「社会教育法」公布 | ストーク・マンデビル競技会開催 (イギリス・エイルズベリー) 第6回デフリンピック夏季競技大会開催 (デンマーク・コペンハーゲン) 第1回デフリンピック冬季競技大会開催 (オーストリア・ゼーフェクト) |
| 1950 | S25 | 「精神衛生法」公布 「生活保護法」公布 | 第1回戦傷者スポーツ大会(ドイツ) 第1回切断者スキー大会開催(ドイツ) ストーク・マンデビル競技会開催 (イギリス・エイルズベリー) |
| 1951 | S26 | | ドイツ戦傷者スポーツ研究会(ADV)設立 ストーク・マンデビル競技会開催 (イギリス・エイルズベリー) |
| 1952 | S27 | 第15回夏季オリンピック 第6回冬季オリンピック | 第1回国際ストーク・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー) |
| 1953 | S28 | | 第7回デフリンピック夏季競技大会開催 (ベルギー・ブリュッセル) 第2回デフリンピック冬季競技大会開催 (ノルウェー・オスロ) 第2回国際ストーク・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー) |
| 1954 | S29 | | 第3回国際ストーク・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー) |

| 年 | 情勢/法令等 | 国際的な流れ | わが国の流れ |
|------|--------|---|--|
| 1955 | S30 | 第3回デフリンピック冬季競技大会開催 (西ドイツ・オーバーアマガウ) 第4回国際ストック・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー) | 第1回全国ろうあ優勝野球大会 第1回アジア盲人福祉会議開催(東京) |
| 1956 | S31 | 第16回夏季オリンピック 第7回冬季オリンピック | 第5回国際ストック・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー) |
| 1957 | S32 | ドイツ戦傷者スポーツ協会(DVS)設立(1975年「ドイツ障害者スポーツ協会(DBS)」に改名) 第8回デフリンピック夏季競技大会開催 (イタリア・ミラノ) 世界歴戦者連盟主催「身体障害者のスポーツの専門家会議」開催 | |
| 1958 | S33 | 「学校保健法」公布 | 国際肢体不自由者福祉協会世界大会「スポーツ部会」開催 第1回長野県身体障害者スポーツ大会開催(長野) |
| 1959 | S34 | 第4回デフリンピック冬季競技大会開催 (スイス・モンタナブフーナラ) 第8回国際ストック・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー) | |
| 1960 | S35 | 第17回夏季オリンピック 国際ストック・マンデビル大会委員会(ISMGC)設立 第8回冬季オリンピック | 身体障害者のためのスポーツの国際的な運営グループとして、International Working Group on Sports for the Disabledが設立 第1回パラリンピック夏季競技大会開催 (イタリア・ローマ) 脊髄損傷 渡辺華子女史、第1回ローマ大会観戦。 その後、観戦記を新聞発表 |
| 1961 | S36 | 「スポーツ振興法」公布 障害福祉年金支給開始 | 英国対麻痺障害者スポーツ協会(BSAD)設立 第9回デフリンピック夏季競技大会開催 (フィンランド・ヘルシンキ) 啓蒙冊子「身体障害者スポーツ」刊行(沖野) 大分県身体障害者スポーツ大会開催(大分) 身体障害者スポーツ振興会結成 |
| 1962 | S37 | 第1回英連邦麻痺障害者競技会開催 (オーストラリア) 第11回国際ストック・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー) | 国際身体障害者スポーツ大会準備委員会結成 「身体障害者のスポーツに関する研究」(稗田) 第11回ストック・マンデビル大会に2名の日本選手初参加 |
| 1963 | S38 | 厚生省社会局長通知：「身体障害者スポーツ振興について」 第5回デフリンピック冬季競技大会開催 (スウェーデン・オーレ) 第12回国際ストック・マンデビル大会開催 (イギリス・エイルズベリー) 第1回国際身体障害者スポーツ大会開催 (オーストリア・リンツ) | 身体障害者体育大会山口大会開催(山口) 第1回国際身体障害者スポーツ大会に5名の日本選手初参加 全国聾学校体育連盟設立 財団法人国際身体障害者スポーツ大会運営委員会設立 日本ろうあ体育協会設立(現全日本ろうあ連盟スポーツ委員会) |
| 1964 | S39 | 第18回夏季オリンピック 第9回冬季オリンピック | International Working Group on Sports for the Disabledが内部の意見対立等により解散。これに代わって国際身体障害者スポーツ機構(ISOD)が設立 第2回パラリンピック夏季競技大会(東京)脊髄損傷 国際身体障害者スポーツ大会・第2部国内大会開催 第13回脊髄損傷学会開催 (グットマン博士に勲章伝達：勲三等旭日章) 第1回全国ろうあ卓球・体操選手権大会開催 |
| 1965 | S40 | 第10回デフリンピック夏季競技大会開催 (アメリカ・ワシントン) | (財)日本身体障害者スポーツ協会設立 第1回全国身体障害者スポーツ大会開催(岐阜) |
| 1966 | S41 | 第2回国際身体障害者スポーツ大会開催 (オーストリア・リンツ) 第2回英連邦麻痺障害者競技会開催(ジャマイカ) | 第2回全国身体障害者スポーツ大会開催(大分) 身体障害者スポーツ指導者講習会はじまる (JSAD主催) (全スポ大会を円滑に進めるための伝達講習の色合い) |
| 1967 | S42 | ISOD本部をバリからイギリスに移設 (事務局：ストック・マンデビル) 第6回デフリンピック冬季競技大会開催 (西ドイツ・ベルヒテスガーデン) 第1回汎アメリカ競技会(カナダ・ウイニペグ) | 第1回全国ろうあ者体育大会開催 第6回デフリンピックへ日本選手団初参加 わが国初の車椅子バスケットチーム「東京スポーツ愛好クラブ」誕生 第3回全国身体障害者スポーツ大会開催(埼玉) 身体障害者スポーツ指導者講習会(JSAD主催) |

| 年 | 情勢/法令等 | 国際的な流れ | わが国の流れ |
|------|---|--|--|
| 1968 | S43 第19回夏季オリンピック 第10回冬季オリンピック | スペシャルオリンピックス設立(アメリカ) 国際脳性麻痺協会設立 第3回パラリンピック夏季競技大会開催(イスラエル・テルアビブ) 脊髄損傷 第1回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催(アメリカ・シカゴ) | 第1回全国ろうあ者冬季体育大会開催 身体障害者スポーツ指導者認定講習会(JSAD主催) 第4回全国身体障害者スポーツ大会開催(福井) |
| 1969 | S44 | 第11回デフリンピック夏季競技大会開催(ユーゴスラビア・ベオグラード) | 第5回全国身体障害者スポーツ大会開催(長崎) 第4回身体障害者スポーツ指導者認定講習会(JSAD主催) |
| 1970 | S45 「心身障害者対策基本法」公布(1993年から障害者基本法と改称) | 第2回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催(アメリカ・シカゴ) | 第1回車椅子バスケットボール競技大会開催(後に第1回日本選手権と位置づけ) 第5回身体障害者スポーツ指導者認定講習会(JSAD主催) 第6回全国身体障害者スポーツ大会開催(岩手) |
| 1971 | S46 学校教育法「養護・訓練」 | 第7回デフリンピック冬季競技大会開催(スイス・アデルボーデン) | 第7回全国身体障害者スポーツ大会開催(和歌山) 第6回身体障害者スポーツ指導者認定講習会(JSAD・国立身障センター共催) |
| 1972 | S47 第20回夏季オリンピック 第11回冬季オリンピック | 国際ストック・マンデビル大会委員会(ISMGC)が国際ストック・マンデビル競技連盟(ISMGF)に改名 第4回パラリンピック夏季競技大会開催(西ドイツ・ハイデルベルグ) 脊髄損傷 第3回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催(アメリカ・ロサンゼルス) | 第8回全国身体障害者スポーツ大会開催(鹿児島) 第7回身体障害者スポーツ指導者認定講習会(JSAD・国立身障センター共催) 日本身体障害者スキー協会設立 第1回全国身体障害者スキー大会開催 |
| 1973 | S48 厚生省事務次官通達「療育手帳制度」はじまる 厚生省社会局更生課長通知:「都道府県身体障害者スポーツ協会の設立について」 | 第12回デフリンピック夏季競技大会開催(スウェーデン・マルメ) | 第1回全国身体障害者アーチェリー選手権大会開催 第9回全国身体障害者スポーツ大会開催(千葉) 身体障害者スポーツ指導者研修会(JSAD・国立身障センター共催) |
| 1974 | S49 | 国際協力事業団(JICA)設立 | 第10回全国身体障害者スポーツ大会開催(茨城) 大阪市身体障害者スポーツセンター開設(H9年、大阪市長居障害者スポーツセンターに改名) 1974年全国車椅子バスケットボール競技大会開催 身体障害者スポーツ指導者研修会(JSAD・国立身障センター共催) |
| 1975 | S50 | 極東・南太平洋障害者スポーツ連盟(FESPIC)設立(後にFESPIC連盟と改称) 第1回フェスピック競技大会開催(日本・大分) 第8回デフリンピック冬季競技大会開催(アメリカ・レイクプラシッド) 第4回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催(アメリカ・ミシガン) | 第11回全国身体障害者スポーツ大会開催(三重) 身体障害者スポーツ指導者研修会(JSAD・国立身障センター共催) 日本車椅子バスケットボール連盟設立 |
| 1976 | S51 第21回夏季オリンピック 第12回冬季オリンピック | 北欧障害者スポーツ連盟(NHIF)設立 第5回パラリンピック夏季競技大会開催(カナダ・トロント) 脊髄損傷・切断・視覚障害 第1回パラリンピック冬季競技大会 切断・視覚障害・ポリオ(スウェーデン・エンシェルトヴィーク) | 第12回全国身体障害者スポーツ大会開催(佐賀) 第1回冬季パラに日本選手2名が非公式に参加 身体障害者スポーツ指導者研修会(JSAD・国立身障センター共催) 日本身体障害者アーチェリー連盟設立 |
| 1977 | S52 | 第2回フェスピック競技大会開催(オーストラリア・パラマッタ) 第13回デフリンピック夏季競技大会開催(ルーマニア・ブカレスト) 第1回スペシャルオリンピックス冬季世界大会(アメリカ・コロラド州) | 第13回全国身体障害者スポーツ大会開催(青森) 身体障害者スポーツ指導者研修会(JSAD・国立身障センター共催) |
| 1978 | S53 | 国際脳性麻痺者スポーツ・レクリエーション協会(CPISRA)設立 脳性麻痺者国際セミナー & 大会開催(イギリス・エジンバラ) | 第14回全国身体障害者スポーツ大会開催(長野) 身体障害者スポーツ指導者研修会(JSAD・国立身障センター共催) |
| 1979 | S54 | 国際障害者スポーツ機構ヨーロッパ委員会(EC-ISOD)設立 第9回デフリンピック冬季競技大会開催(フランス・メリベル) 第5回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催(アメリカ・ニューヨーク) | 第15回全国身体障害者スポーツ大会開催(宮崎) 身体障害者スポーツ指導者研修会(JSAD・国立リハセンター共催) |

| 年 | 情勢/法令等 | 国際的な流れ | わが国の流れ |
|------|-------------------------------------|--|---|
| 1980 | S55 第22回夏季オリンピック 第13回冬季オリンピック | 国際視覚障害者スポーツ連盟 (IBSA) 設立 グットマン博士逝去 (享年80歳) 第6回パラリンピック夏季競技大会開催 (オランダ・アーネム) 脊髄損傷・切断・視覚障害・ 脳性麻痺 第2回パラリンピック冬季競技大会開催 (ノルウェー・ヤイロ) 切断・視覚障害 | 第16回全国身体障害者スポーツ大会開催 (栃木) 第1回日本チェアスキー大会開催 日本チェアスキー協会設立 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立リハセンター共催) |
| 1981 | S56 国連「国際障害者年行動 計画」採択 | 第14回デフリンピック夏季競技大会開催 (西ドイツ・ケルン) 第2回スペシャルオリンピックス冬季世界大会 (アメリカ・バーモント) | 第1回大分国際車いすマラソン大会開催 日本スペシャルオリンピックス委員会発足 (1992年解散) 日本肢体不自由者卓球協会設立 名古屋市障害者スポーツセンター開設 第1回日本肢体不自由者卓球大会開催 (大阪) (1987年より日本障害者卓球大会) 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立リハセンター共催) 身体障害者スポーツ規則改善格付研修会 (JSAD・国立リハセンター共催) 第17回全国身体障害者スポーツ大会開催 (滋賀) |
| 1982 | S57 | 国際調整委員会 (ICC) 設立 第3回フェスピック競技大会開催 (香港・沙田市) | 第1回全国盲人マラソン小田原大会開催 第18回全国身体障害者スポーツ大会開催 (島根) 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立リハセンター共催) 国立療養所箱根病院・神奈川県総合リハセンター間 で車椅子ツインバスケの親善試合 |
| 1983 | S58 | 第10回デフリンピック冬季競技大会開催 (イタリア・マドンナ・ディ・カンピリオ) 第6回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催 (アメリカ・ルイジアナ) | 第19回全国身体障害者スポーツ大会開催 (群馬) 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立リハセンター共催) 広島市中心障害者福祉センター開設 日本盲人マラソン協会設立 (1999年NPO 法人認可) 第1回大阪車椅子トラック競技選手権大会開催 |
| 1984 | S59 第23回夏季オリンピック 第14回冬季オリンピック | 世界盲人連合 (WBU) 設立 第7回パラリンピック夏季競技大会開催 (エイルズベリー/ニューヨーク) 第3回パラリンピック冬季競技大会開催 (オーストリア・インスブルック) | 第1回日本身体障害者水泳選手権大会開催 日本身体障害者水泳連盟設立 東京都多摩障害者スポーツセンター開設 福岡市立障害者スポーツセンター開設 第1回日本車いすテニス競技大会開催 第20回全国身体障害者スポーツ大会開催 (奈良) |
| 1984 | S59 | | 第3回冬季パラに日本選手団が初参加 身体障害者スポーツ指導者研修会 (JSAD・国立リハセンター共催) 東京ゆうあいピック開催 (スペシャルオリンピックス東京地区委員会主催) |
| 1985 | S60 | 第15回デフリンピック夏季競技大会開催 (アメリカ・ロサンゼルス) 第3回スペシャルオリンピックス冬季世界大会 (アメリカ・ユタ) | 第21回全国身体障害者スポーツ大会開催 (鳥取) 西宮市総合福祉センター開設 第1回飯塚国際車いすテニス大会開催 (社福) 日本盲人会連合スポーツ協議会設立 身体障害者スポーツ指導者研修会 [中級コース] (日本リハ協会主催) 身体障害者スポーツ指導者研修会 [上級コース] (日本リハ協会主催) 身体障害者スポーツ指導者研修会 [施設A コース] (日本リハ協会主催) 身体障害者スポーツ指導者研修会 [施設B コース] (日本リハ協会主催) |

| 年 | 情勢/法令等 | 国際的な流れ | わが国の流れ |
|------|-----------|--|---|
| 1986 | S61 | 国際精神薄弱者スポーツ協会 (INAS-FMH) 設立 (現Inas) 第4回フェスピック競技大会開催 (インドネシア・スラカルタ) | 第1回全日本視覚障害者柔道大会開催 日本視覚障害者柔道連盟設立 (2008年NPO認可) 東京都障害者総合スポーツセンター開設 第22回全国身体障害者スポーツ大会開催 (山梨) 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) ゲーム・スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会共催) |
| 1987 | S62 | 第11回デフリンピック冬季競技大会開催 (ノルウェー・オスロ) 第7回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催 (アメリカ・インディアナ州) | 第1回日本車椅子ツインバスケットボール選手権大会開催 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会共催) 第23回全国身体障害者スポーツ大会開催 (沖縄) |
| 1988 | S63 | 第8回パラリンピック夏季競技大会開催 (韓国・ソウル) 第4回パラリンピック冬季競技大会開催 (オーストリア・インスブルック) 第1回IPC世界車いすダンス選手権大会開催 (日本・千葉市) | 第24回全国身体障害者スポーツ大会開催 (京都) 京都市障害者スポーツセンター開設 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 日本車椅子ツインバスケットボール連盟設立 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (日本リハ協会主催) |
| 1989 | S64 H1 | ベルリンの壁崩壊 「21世紀に向けたスポーツの振興について」 文部省保健体育審議会答申 | 国際パラリンピック委員会 (IPC) 設立 第5回フェスピック競技大会開催 (日本・神戸) 第16回デフリンピック夏季競技大会開催 (ニュージーランド・クライストチャーチ) 第4回スペシャルオリンピックス冬季世界大会開催 (アメリカ・ネバダ/カリフォルニア州) 第1回脳性麻痺者世界大会 (ロビンフッド大会) 開催 (イギリス・ノッthingam) |
| 1990 | H2 | 「ADA法 (米国障害者法)」 制定 (アメリカ) 東西ドイツ統一 | 第1回視覚ハンディキャップテニス大会開催 日本ブラインドテニス連盟 (旧 日本視覚ハンディキャップテニス協会) 設立 第1回日本身体障害者バドミントン大会開催 第26回全国身体障害者スポーツ大会開催 (福岡) 全日本女子車椅子バスケットボール選手権大会開催 日本障害者スポーツ射撃連盟設立 (2002年NPO認可) 日本障害者セーリング協会設立 (1999年NPO法人認可) 日本障害者自転車協会設立 日本障害者バドミントン協会設立 埼玉県障害者交流センター開設 滋賀県立障害者福祉センター開設 大阪府立障害者交流促進センター開設 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (日本リハ協会主催) 国際協力事業団 (JICA) 委託事業: アジアを中心とした障害者スポーツ関係者の研修はじめる (日障スポ協) |

| 年 | 情勢/法令等 | 国際的な流れ | わが国の流れ |
|------|---|---|---|
| 1991 | H3 ソビエト連邦崩壊 [障害者保障法]制定(中国) | 第12回デフリンピック冬季競技大会開催 (カナダ・バンフ) 第8回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催 (アメリカ・ミネソタ州) 第40回国際ストーク・マンデビル競技大会開催 (イギリス・エイルズベリー) | ジャパンパラリンピック陸上競技大会開催 ジャパンパラリンピック水泳競技大会開催 日本車いすテニス協会設立 日本障害者ゴルフ協会設立 群馬県立ふれあいスポーツプラザ開設 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 第1回日本身体障害者バドミントン選手権大会開催 公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (日本リハ協会主催) 第27回全国身体障害者スポーツ大会開催(石川) |
| 1992 | H4 ESCAP「アジア太平洋障害者の十年」決議 第25回夏季オリンピック 第16回冬季オリンピック | 第9回パラリンピック夏季競技大会 (スペイン・バルセロナ) 第5回パラリンピック冬季競技大会 (フランス・アルペールビル) INAS-FID 世界競技大会(スペイン・マドリッド) | 第28回全国身体障害者スポーツ大会開催(山形) 第1回全国知的障害者スポーツ大会開催(東京) 日本スペシャルオリンピックス委員会解散 日本車いすダンス研究会発足 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール開設 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (日本リハ協会主催) |
| 1993 | H5 | 第17回デフリンピック夏季競技大会開催 (ブルガリア・ソフィア) 第5回スペシャルオリンピックス冬季世界大会開催 (オーストリア・ザルツブルグ) 第42回国際ストーク・マンデビル競技大会開催 (イギリス・エイルズベリー) | 日本車椅子ツインバスケットボール連盟独立 日本身体障害者野球連盟設立 日本車いすダンススポーツ連盟設立(2000年NPO認可) 第29回全国身体障害者スポーツ大会開催(徳島) 第1回全国身体障害者野球大会開催(神戸) 第2回全国知的障害者スポーツ大会開催(熊本) 身体障害者スポーツ指導者資格取得認定校制度発足 (JSAD) 身体障害者スポーツ指導者資格認定制度発足(JSAD) 身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催) 特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催) 公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (日本リハ協会主催) 第1回全国障害者交流乗馬大会開催 (明石乗馬協会主催) |

| 年 | 情勢/法令等 | 国際的な流れ | わが国の流れ |
|------|--------|---|--|
| 1994 | H6 | <p>第17回冬季オリンピック</p> <p>第6回パラリンピック冬季競技大会開催 (ノルウェー・リレハンメル)</p> <p>第6回フェスピック競技大会(中国・北京)</p> <p>第1回IPC世界陸上競技選手権大会開催 (ドイツ・ベルリン)</p> <p>第43回国際ストーク・マンデビル競技大会開催 (イギリス・エイルズベリー)</p> | <p>ジャパンパラリンピック冬季(スキー)競技大会開催</p> <p>日本ゴールボール協会設立</p> <p>スペシャルオリンピックス日本設立 (2001年NPO認可)</p> <p>日本視覚障害ゴルフフェーズ協会設立(2008年NPO認可)</p> <p>ふれあいランド岩手開設</p> <p>こうべ市民福祉スポーツセンター開設</p> <p>第30回全国身体障害者スポーツ大会開催(愛知)</p> <p>第3回全国知的障害者スポーツ大会開催(群馬)</p> <p>身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催)</p> <p>上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催)</p> <p>特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催)</p> <p>公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (日本リハ協会主催)</p> <p>第1回全国フロアバレーボール大会開催</p> <p>第1回日本ゴールボール選手権大会開催</p> <p>第1回日本身体障害者自転車競技選手権大会開催</p> |
| 1995 | H7 | <p>「精神障害者保健福祉手帳制度」はじまる</p> <p>「障害者プラン」</p> <p>阪神・淡路大震災</p> <p>国際聴覚障害者スポーツ連盟(CISS)がIPCより離脱</p> <p>第13回デフリンピック冬季競技大会開催 (フィンランド・ウツラス)</p> <p>第9回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催 (アメリカ・コネチカット州)</p> <p>第44回国際ストーク・マンデビル競技大会開催 (イギリス・エイルズベリー)</p> | <p>ジャパンパラリンピック(アイススレッジ)競技大会開催</p> <p>IPC総会開催(東京都)</p> <p>第1回電動車椅子サッカー全国大会開催</p> <p>日本電動車椅子サッカー協会設立</p> <p>日本障害者乗馬協会設立</p> <p>日本聴覚障害者ラグビー連盟</p> <p>第1回夏季ナショナルゲーム熊本大会開催 (SO日本主催)</p> <p>第31回全国身体障害者スポーツ大会開催(福島)</p> <p>第4回全国知的障害者スポーツ大会(兵庫)→震災により中止</p> <p>身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催)</p> <p>上級身体障害者スポーツ指導者研修会 (日本リハ協会主催)</p> <p>特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (日本リハ協会主催)</p> <p>公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (日本リハ協会主催)</p> |
| 1996 | H8 | <p>第26回夏季オリンピック</p> <p>第10回パラリンピック夏季競技大会開催 (アメリカ・アトランタ)</p> <p>第45回国際ストーク・マンデビル競技大会開催 (イギリス・エイルズベリー): 初心者対象</p> | <p>パラリンピック金メダリストに天皇賜杯が下賜される</p> <p>広島県立スポーツ交流センターおひつる開設</p> <p>高知県立障害者スポーツセンター開設</p> <p>日本障害者シンクロナイズドスイミング協会設立</p> <p>身体障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催)</p> <p>上級身体障害者スポーツ指導者研修会(JSAD主催)</p> <p>特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会 (JSAD主催)</p> <p>公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会 (JSAD主催)</p> <p>第1回冬季ナショナルゲーム宮城大会開催 (SO日本主催)</p> <p>第1回冬季ナショナルゲーム福岡大会開催 (SO日本主催)</p> <p>第32回全国身体障害者スポーツ大会開催(広島)</p> <p>第5回全国知的障害者スポーツ大会(北海道)</p> |

| 年 | 情勢/法令等 | 国際的な流れ | わが国の流れ |
|------|--------|---|---|
| 1997 | H9 | <p>第18回デフリンピック夏季競技大会開催 (デンマーク・コペンハーゲン)</p> <p>第6回スペシャルオリンピックス冬季世界大会開催 (カナダ・トロント)</p> <p>第46回国際ストーク・マンデビル競技大会開催 (イギリス・エイルズベリー)</p> | <p>第33回全国身体障害者スポーツ大会開催(大阪)</p> <p>第6回全国知的障害者スポーツ大会(愛知)</p> <p>身体障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催)</p> <p>上級身体障害者スポーツ指導者研修会(JSAD主催)</p> <p>特別上級身体障害者スポーツ指導者養成研修会(JSAD主催)</p> <p>日本障害者ダーツ連盟設立</p> <p>日本デフゴルフ協会設立(2009年NPO認可)</p> <p>日本ボッチャ協会設立</p> <p>日本バリアフリーダイビング協会設立</p> <p>大阪市舞洲障害者スポーツセンター開設</p> <p>日本ウィルチェアラグビー連盟設立</p> <p>日本シッティングバレーボール協会設立</p> <p>新潟県障害者交流センター開設</p> <p>公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会(JSAD主催)</p> <p>身体障害者スポーツコーチ養成研修会(JSAD主催)</p> <p>ブロック単位で知的障害に関する補講実施(H11まで)</p> <p>第1回日本障害者フライングディスク競技大会開催</p> <p>第1回日本シッティングバレーボール選手権大会開催</p> <p>第1回ひと・ヒトヨットレース開催(愛知)</p> |
| 1998 | H10 | <p>第18回冬季オリンピック</p> <p>第7回パラリンピック冬季競技大会開催(日本・長野)</p> <p>第47回国際ストーク・マンデビル競技大会開催 (イギリス・エイルズベリー)</p> | <p>障害者スポーツに関する懇談会 (厚生省事務次官私的懇談会)</p> <p>日本車いすフェンシング協会設立</p> <p>日本身体障害者アイススポーツ連盟スレッジホッケー委員会設立</p> <p>全日本グランドソフトボール連盟設立</p> <p>日本障害者フライングディスク連盟設立</p> <p>日本視覚障害者卓球連盟設立</p> <p>日本フロアバレーボール連盟設立</p> <p>長野県障害者福祉センターサンアップル開設</p> <p>障害者スポーツ支援基金助成事業創設</p> <p>ジャパンパラリンピックアーチェリー競技大会開催以降毎年開催</p> <p>第1回バリアフリーダイビング全国大会開催以降毎年開催</p> <p>第34回全国身体障害者スポーツ大会開催(神奈川)</p> <p>第7回全国知的障害者スポーツ大会(茨城)</p> <p>中級身体障害者スポーツ指導員研修会(JSAD主催)</p> <p>上級身体障害者スポーツ指導員研修会(JSAD主催)</p> <p>スポーツコーチ養成研修会(JSAD主催)</p> <p>公認身体障害者スポーツ指導者特別研修会(JSAD主催)</p> <p>第1回日本車いすフェンシング選手権大会開催以降毎年開催</p> <p>FID ジャパン・チャンピオンシップ卓球大会開催以降毎年開催</p> <p>第2回夏季ナショナルゲーム神奈川大会開催(SO日本主催)</p> <p>日本精神薄弱者愛護協会を日本知的障害者愛護協会に改称</p> |

| 年 | 情勢/法令等 | 国際的な流れ | わが国の流れ |
|------|--------|---|--|
| 1999 | H11 | <p>第14回デフリンピック冬季競技大会開催 (スイス・ダボス)</p> <p>第7回フェスピック競技大会開催(タイ・バンコク)</p> <p>第10回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催 (アメリカ・ノースカロライナ州)</p> <p>1999 World Wheelchair Games (ニュージーランド・クライストチャーチ)</p> | <p>日本知的障害者卓球連盟設立</p> <p>日本ハンディキャップサッカー連盟設立</p> <p>日本知的障害者水泳連盟設立</p> <p>日本FIDバスケットボール連盟設立</p> <p>(財)日本身体障害者スポーツ協会を(財)日本障害者スポーツ協会に改名</p> <p>日本パラリンピック委員会を(財)日本障害者スポーツ協会の内部組織として設置</p> <p>日本ディスエイブルパワーリフティング連盟設立</p> <p>(社)日本精神保健福祉連盟内に「障害者スポーツ推進委員会」を設置</p> <p>第35回全国身体障害者スポーツ大会開催(熊本)</p> <p>第8回全国知的障害者スポーツ大会(島根)</p> <p>初級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催)</p> <p>中級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催)</p> <p>上級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催)</p> <p>スポーツコーチ養成研修会(JSAD主催)</p> <p>第1回日本ウィルチェアラグビー選手権大会開催</p> <p>第1回日本ボッチャ選手権大会開催 以降毎年開催</p> |
| 2000 | H12 | <p>第27回夏季オリンピック 「スポーツ振興基本計画」策定</p> <p>第11回パラリンピック夏季競技大会開催 (オーストラリア・シドニー)</p> <p>IOC・IPC間の協力関係を強化することに関する合意書に両委員長が調印</p> | <p>第36回全国身体障害者スポーツ大会開催(富山)</p> <p>第9回全国知的障害者スポーツ大会(岐阜)</p> <p>日本知的障害者スポーツ連盟設立</p> <p>日本車椅子空手道連盟設立</p> <p>鹿児島県障害者自立支援センター ハートピアがごしま開設</p> <p>(財)日本障害者スポーツ協会が(財)日本体育協会に加盟</p> <p>中級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催)</p> <p>上級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催)</p> <p>スポーツコーチ養成研修会(JSAD主催)</p> <p>日本ディスエイブルパワーリフティング大会開催</p> <p>第2回冬季ナショナルゲーム長野大会開催 (SO日本主催)</p> |
| 2001 | H13 | <p>IOC・IPC間の具体的協力内容を記した合意書に両委員長が調印</p> <p>第19回デフリンピック夏季競技大会開催 (イタリア・ローマ)</p> <p>第7回スペシャルオリンピックス冬季世界大会開催 (アメリカ・アラスカ州)</p> <p>2001 World Wheelchair Games (ニュージーランド・クライストチャーチ)</p> | <p>第1回全国障害者スポーツ大会開催(宮城) ※全スポとゆうあいピックを統合</p> <p>日本脳性麻痺7人制サッカー協会設立</p> <p>NPO法人日本障害者スキー連盟設立</p> <p>中級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催)</p> <p>日体協公認指導員を対象とした中級指導員養成研修会はじまる</p> <p>上級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催)</p> <p>スポーツコーチ養成研修会(JSAD主催)</p> <p>第1回全国精神障害者バレーボール大会開催</p> |
| 2002 | H14 | <p>第19回冬季オリンピック 「新障害者基本計画」策定</p> <p>IPC東アジアパラリンピック委員会設立(H15年、「アジアパラリンピック委員会(APC)」に名称変更)</p> <p>第8回パラリンピック冬季競技大会開催 (アメリカ・ソルトレークシティ)</p> <p>第8回フェスピック競技大会(韓国・釜山)</p> <p>INAS-FID世界サッカー選手権大会開催 (東京/神奈川/横浜)</p> <p>世界車椅子バスケットボール選手権大会開催 (北九州市)</p> <p>2002 World Wheelchair Games 開催 (ニュージーランド・クライストチャーチ)</p> | <p>第2回全国障害者スポーツ大会開催(高知) (精神障害者バレーボールをオープン競技として実施)</p> <p>NPO法人日本車椅子ビリヤード協会設立</p> <p>日本視覚障害者サッカー協会設立</p> <p>日本パラリンピック委員会が日本アンチ・ドーピング機構に加盟</p> <p>(財)日本障害者スポーツ協会専門委員会に科学委員会を設置</p> <p>スポーツ振興くじ助成事業創設</p> <p>第3回夏季ナショナルゲーム・東京開催 (SO日本主催)</p> <p>中級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催)</p> <p>上級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催)</p> <p>スポーツコーチ養成研修会(JSAD主催)</p> |

| 年 | 情勢/法令等 | 国際的な流れ | わが国の流れ |
|------|--------|---|---|
| 2003 | H15 | 第15回デフリンピック冬季競技大会開催 (スウェーデン・スツバル) 第11回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催 (アイルランド・ダブリン) ISMWSF World Wheelchair Games and ISOD World Athletics (ニュージーランド・クライストチャーチ) | 第3回全国障害者スポーツ大会開催(静岡) 第1回全国車椅子空手道選手権大会開催 以降毎年開催 日本障害者ローンボウルズ連盟設立 全日本視覚障害者ボウリング協会設立 日本スポーツ仲裁機構設立 中級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催) 上級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催) スポーツコーチ養成研修会(JSAD主催) 第1回日本視覚障害者サッカー選手権大会開催以降毎年開催 |
| 2004 | H16 | 第28回夏季オリンピック 国際車いす・切断者競技連盟(IWAS)設立 ※ISMWSFとISODが統合 第12回パラリンピック夏季競技大会開催 (ギリシャ・アテネ) | 第4回全国障害者スポーツ大会開催(埼玉) 中級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催) NPO法人日本障害者スポーツ指導者協議会設立 (2009年解散) 上級障害者スポーツ指導員養成研修会(JSAD主催) スポーツコーチ養成研修会(JSAD主催) 第3回冬季ナショナルゲーム長野大会開催 (SO日本主催) IPC車いすダンススポーツ世界選手権大会2004 (日本・東京) |
| 2005 | H17 | 第20回デフリンピック夏季競技大会開催 (オーストラリア・メルボルン) パラリンピックワールドカップ2005開催 (イギリス・マンチェスター) IWAS World Games(ブラジル・リオデジャネイロ) 第8回スペシャルオリンピックス冬季世界大会 (日本・長野) | 第1回障害者スポーツ指導者全国研修会 (NPO日本障害者スポーツ指導者協議会主催 東京) 第5回全国障害者スポーツ大会開催(岡山) 東京都障害者スポーツセンター(多摩、王子)の運営主体がJSADから東京都障害者スポーツ協会に移管 |
| 2006 | H18 | 第20回冬季オリンピック 第9回パラリンピック冬季競技大会開催 (イタリア・トリノ) 第9回フェスピック競技大会開催 (マレーシア・クアラルンプール) FESPIC連盟、アジアパラリンピック評議会解散 アジアパラリンピック委員会(APC)設立 | 第6回全国障害者スポーツ大会開催(兵庫) NPO法人日本アダプティブローイング協会設立 日本アイススレッジホッケー協会設立 第2回障害者スポーツ指導者全国研修会 (NPO日本障害者スポーツ指導者協議会主催 愛知) |
| 2007 | H19 | 第16回デフリンピック冬季競技大会開催 (アメリカ・ソルトレークシティ) 第1回FIPFAワールドカップ2007開催 (日本・東京) 第5回INAS-FID世界卓球選手権開催 (日本・千葉) 第12回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催 (中国・上海) | 第7回全国障害者スポーツ大会開催(秋田) 第3回障害者スポーツ指導者全国研修会 (NPO日本障害者スポーツ指導者協議会主催 愛知) 日本チェアカーリング協会設立 (社)精神保健福祉連盟精神障害者スポーツ推進委員会設立 |
| 2008 | H20 | 第29回夏季オリンピック 第13回パラリンピック夏季競技大会開催 (中国・北京) | 第8回全国障害者スポーツ大会開催(大分) ※精神障害者バレーボール及び内部障害者(ぼうこ又は直腸機能障害)を対象とした競技・種目を導入 第4回障害者スポーツ指導者全国研修会 (NPO日本障害者スポーツ指導者協議会主催 福岡) |
| 2009 | H21 | オリンピック競技大会及びパラリンピック競技大会優秀者表彰規程の制定 第21回デフリンピック夏季競技大会開催 (台湾・台北) 東京2009アジアユースパラゲームズ開催 (日本・東京) 第2回INAS-FIDグローバル競技大会開催 (チェコ・リベツ) 第9回スペシャルオリンピックス冬季世界大会開催 (アメリカ・アイダホ) | NPO法人日本障害者スポーツ指導者協議会解散 第9回全国障害者スポーツ大会開催(新潟) 第5回障害者スポーツ指導者全国研修会(北海道) |
| 2010 | H22 | 第21回冬季オリンピック 第10回パラリンピック冬季競技大会開催 (カナダ・バンクーバー) 第1回アジアパラ競技大会(中国・広州) | 第10回全国障害者スポーツ大会開催(千葉) 第6回障害者スポーツ指導者全国研修会(山口) |
| 2011 | H23 | 東日本大震災(財)日本体育協会創立100周年 スポーツ基本法公布 第3回INASグローバル競技大会開催 (イタリア・リグーリア) 第13回スペシャルオリンピックス夏季世界大会開催 (ギリシャ・アテネ) | 日本障害者スポーツ協会会長交代 第11回全国障害者スポーツ大会開催(山口) 第7回障害者スポーツ指導者全国研修会(神戸) |
| 2012 | H24 | 第30回夏季オリンピック 第14回パラリンピック夏季競技大会開催 (イギリス・ロンドン) | 第12回全国障害者スポーツ大会開催(岐阜) 生涯スポーツ・体力づくり全国会議2013(宮崎) |

| 年 | 情勢/法令等 | 国際的な流れ | わが国の流れ |
|------|--|---|--|
| 2013 | H25 2020オリンピック・パラリンピック招致都市が東京に決定 内閣官房内に「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会推進室」を設置 | 第3回アジアユースパラ競技大会開催(マレーシア・クアラルンプール) | 「日本の障がい者スポーツの将来像(ビジョン)」発表 第13回全国障害者スポーツ大会開催(東京) 第8回障害者スポーツ指導者全国研修会(福岡) 第9回障害者スポーツ指導者全国研修会(富山) 生涯スポーツ・体力づくり全国会議2014(山口) JPC内に強化委員会を設置 協会に倫理委員会設置 JPC役員が国際パラリンピック委員会(IPC)の理事に初就任 |
| 2014 | H26 第22回冬季オリンピック | 第11回パラリンピック冬季競技大会開催(ロシア・ソチ) 第2回アジアパラ競技大会開催(韓国・仁川) | ジャパンパラゴールボール競技大会開催 ジャパンパラウィルチェアラグビー競技大会開催 日本パラリンピック委員会選手発掘事業を開催 日本オリンピック委員会(JOC)のトップアスリート就職支援事業「アスナビ」について、パラリンピックを目指す強化指定選手の就職を支援する協定をJOCとJPC間で協定を結ぶ 第14回全国障害者スポーツ大会開催(長崎) 第10回障がい者スポーツ指導者全国研修会(福島) 生涯スポーツ・体力づくり全国会議2015(岩手) 当協会の所管が厚生労働省から文部科学省に移管 「体育の日」中央記念行事 スポーツ祭り2014の主催者に加わる JPCに会長職を置き、委員長と役割を分担する JPC役員がアジアパラリンピック委員会(APC)の副会長に就任 協会名称の一部変更 日本語：「(公財)日本障がい者スポーツ協会」 英語：Japanese Para-Sports Association (JPSA) JPCの英文名称の一部変更 英語：Japanese Paralympic Committee |
| 2015 | H27 スポーツ庁設立 | 第18回冬季デフリンピック競技大会開催(ロシア・ハンティ・マンシースク、マグニトゴルスク) IBSA ワールドゲームズソウル2015開催(韓国・ソウル) ノッティンガム2015 CPISRA ワールドゲームズ開催(イギリス・ノッティンガム) ブラインドサッカーアジア選手権大会開催(日本・東京) 第4回INAS グローバル競技大会開催(エクアドル・グアヤキル、ラタクンガ、クエンカ) 2015IWBF アジア・オセアニアチャンピオンシップ開催(日本・千葉) 2015IWRF アジア・オセアニアチャンピオンシップ開催(日本・千葉) | 日本障がい者スポーツ協会設立50周年 第15回全国障害者スポーツ大会開催(和歌山) 第11回障がい者スポーツ指導者全国研修会(東京) 生涯スポーツ・体力づくり全国会議2016(福島) 太陽の家創立50周年 日本財団パラリンピックサポートセンター設立 JPSAパートナーズミーティングを開催 公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンターが設立 |
| 2016 | H28 第31回夏季オリンピック | 第15回パラリンピック夏季競技大会開催(ブラジル・リオデジャネイロ) BNP Paribas World Team Cup(車いすテニス国別選手権)開催(日本・東京) 2016 IPC アイススレッジホッケー世界選手権B プール開催(日本・北海道) | 第16回全国障害者スポーツ大会開催(岩手) 第12回障がい者スポーツ指導者全国研修会(静岡) 生涯スポーツ・体力づくり全国会議2017(宮城) JPC内にアスリート委員会を設置 |
| 2017 | H29 第23回夏季デフリンピック | 第23回デフリンピック夏季競技大会開催(トルコ共和国・サムスン) 第4回アジアユースパラ競技大会開催(UAE・ドバイ) ヒューリック・ダイハツJAPANパラバドミントン国際大会2017(日本・東京) | ジャパンパラボッチャ競技大会開催 第17回全国障害者スポーツ大会開催(愛媛) 第13回障がい者スポーツ指導者全国研修会(鹿児島) 生涯スポーツ・体力づくり全国会議2018(広島) 第1回合同コンgres開催(東京) 第1回共生スポーツ祭り開催(東京) JPC内に女性スポーツ委員会を設置 |
| 2018 | H30 第23回冬季オリンピック | 第12回パラリンピック冬季競技大会開催(韓国・平昌) 第3回アジアパラ競技大会開催(インドネシア・ジャカルタ) 2018北九州ワールドパラ・パワーリフティング アジア & オセアニアオープン選手権大会(日本・福岡) 2018ハンザクラスワールド&インターナショナルチャンピオンシップ広島大会(日本・広島) ブラインドサッカーチャレンジカップ2018(日本・東京) | 第18回全国障害者スポーツ大会開催(福井) 第14回障がい者スポーツ指導者全国研修会(広島) 生涯スポーツ・体力づくり全国会議2019(徳島) 日本財団パラアリーナが建設 |

| 年 | 情勢/法令等 | 国際的な流れ | わが国の流れ |
|------|-----------|--|--|
| 2019 | H31 R1 | 2019INAS グローバルゲームズ (オーストラリア・ブリスベン) 第19回冬季デフリンピック競技大会 (イタリア・ヴァルテッリーナ、ヴァルキアヴェンナ) 車いすラグビーワールドチャレンジ2019 (日本・東京) | 第19回全国障害者スポーツ大会(茨城)が台風により中止となる 第15回障がい者スポーツ指導者全国研修会(北海道) 生涯スポーツ・体力づくり全国会議2020(島根) NTC EAST 開設 スポーツ庁がスポーツ団体ガバナンスコードを策定 |
| 2020 | R2 | 第32回夏季オリンピックが新型コロナウイルス感染症拡大のため、延期 第16回パラリンピック夏季競技大会が新型コロナウイルス感染症拡大のため、延期 | 第20回全国障害者スポーツ大会(鹿児島)が新型コロナウイルス感染症拡大のため、延期となる 第16回障がい者スポーツ指導者全国研修会(兵庫)が新型コロナウイルス感染症拡大のため、延期となる 生涯スポーツ・体力づくり全国会議2021が新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンラインにて実施 第1回スポーツ団体ガバナンスコード適合性審査を実施(統括3団体に加盟するNFを対象) |
| 2021 | R3 | 第32回夏季オリンピックが開催 第16回パラリンピック夏季競技大会開催 (日本・東京) | 日本パラスポーツ協会会長交代 第21回全国障害者スポーツ大会(三重)が新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止となる 第16回障がい者スポーツ指導者全国研修会(兵庫) 生涯スポーツ・体力づくり全国会議2022(沖縄)が新型コロナウイルス感染症拡大のためオンラインにて実施 協会名称の変更 日本語：「(公財)日本パラスポーツ協会」に変更 英語：Japanese Para Sports Association (JPSA) JPSA エンブレムを改訂 JPSA「2030年ビジョン」公表 マセソン美季JPC運営委員がIPC理事に選出 鈴木孝幸選手(水泳)がIPCアスリート委員に選出 JPC エンブレムを改訂(2022年1月～運用) |

【参考文献】

「身体障害者スポーツ」沖野亦男編
「身体障害者のスポーツ」Ludwing Guttmann著、市川宣恭 監訳
「国際身体障害者スポーツ競技会 東京パラリンピック大会 報告書No.1」
「ROAD TO THE PARALYMPICS」JHOAN SCRUTON 著 PETERHOUSE PRESS 社
「障害のある人たちのスポーツ」藤原進一郎著
「PARALYMPIC TOKYO 1964- 広報資料」(財)国際身体障害者スポーツ大会運営委員会広報部会
「スポーツは生きる力」芝田徳造著 民衆社
「障がい者スポーツの歴史と現状」公益財団法人日本パラスポーツ協会

「創立20年史」(財)日本身体障害者スポーツ協会
「21世紀と体育・スポーツ科学の発展：6障害者スポーツ振興のために」杏林書院、日本体育学会編
「21世紀を見据えた障害者スポーツの在り方」(財)日本身体障害者スポーツ協会
「International Paralympic Committee」公式ウェブサイト
「CP SPORTS」公式ウェブサイト
「公益財団法人日本パラスポーツ協会」公式ウェブサイト
「日本盲人会連合」公式ウェブサイト
他、公益財団法人日本パラスポーツ協会加盟競技団体公式ウェブサイト

障がい者スポーツの歴史と現状

発行年月

令和3年3月

発 行

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町2-13-6 EDGE水天宮ビル3階

TEL.03-5939-7021 FAX.03-5641-1213

URL <http://www.jsad.or.jp/>

